

HP Business Service Management

Windows および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン : 9.10

システム可用性管理の使用

ドキュメント・リリース日 : 2011 年 8 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2011 年 8 月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、**FAR12.211** および **12.212** の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2005 - 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.

AMD および AMD Arrow ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ および Google Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, and Intel® Xeon® are trademarks of Intel Corporation in the U.S. and other countries.

iPod は Apple Computer, Inc. の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

謝辞

この製品には、**Apache Software Foundation** (<http://www.apache.org>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、**JDOM Project** (<http://www.jdom.org>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、**MX4J プロジェクト** (<http://mx4j.sourceforge.net>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

文書の更新

本書の表紙には次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号。
- 文書が更新されるごとに変更される文書発行日。
- 当該ソフトウェア・バージョンのリリース日を示す、ソフトウェア・リリース日。

最新の更新を確認する、あるいは使用している文書が最新版であるかどうかを確認するには、次の URL を参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページで [New users - please register] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは次のとおりです。

<http://support.openview.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報や、HP ソフトウェアが提供する製品、サービスおよびサポートの詳細を提供しています。

HP ソフトウェアのオンライン・サポートでは、セルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な対話型技術サポート・ツールにアクセスするための迅速かつ効率的な方法を提供します。弊社サポートの大切なお客様として、サポート・サイトを使用して次のことが行えます。

- 興味のあるナレッジ文書の検索
- サポート事例と向上のためのリクエストの送信および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ソフトウェアを利用しているほかのお客様との討論への参加
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザとして登録しサインインする必要があります。また多くでサポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス・レベルの詳細については、次の URL を参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

はじめに.....	11
本書の構成.....	12
対象読者.....	12
必要な情報の見つけ方.....	13
その他のオンライン・リソース.....	15
文書の更新.....	16

第 I 部：SAM 管理

第 1 章：システム可用性管理の紹介.....	19
SAM の概要.....	20
ライセンス・ポイント.....	22
SAM での複数の SiteScope の管理方法.....	25
SAM のユーザ・インタフェース.....	28
トラブルシューティングおよび制限事項.....	50
第 2 章：BSM との連携.....	55
SiteScope と BSM の通信方法について.....	56
接続の設定.....	58
SiteScope データと BSM の構成アイテムの統合.....	59
検出されたトポロジの BSM へのレポート.....	66
SiteScope へのアクセスと権限モデルの作成.....	69
CI のダウンタイム.....	70
SiteScope および BSM 間の統合の設定方法.....	73
SiteScope を SSL が必要な BSM サーバに接続する方法.....	82
SiteScope をクライアント証明書が必要な BSM サーバに 接続する方法.....	83
トポロジ・レポートの設定方法.....	84
初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ.....	88
メトリックごとに CI をレポートするモニタ.....	89
トラブルシューティングおよび制限事項.....	90

第3章：HP Operations Agent を使用した Operations Manager と BSM での作業	93
SiteScope の HPOM と BSM の通信方法について	94
イベントの送信.....	100
HP Operations Agent を使用したメトリックスのレポート	109
SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を 有効にする方法	113
SiteScope から HP Operations Agent にメトリックスを レポートできるようにする方法.....	138
SiteScope と Operations Agent 間のメトリックスの整合	141
SiteScope-Operations Manager メトリックス統合の サイズ設定の推奨事項.....	145
第4章：Network Node Manager i (NNMi) との 連携	147
NNMi への SiteScope イベントの送信	148
NNMi へのメトリックスのレポート.....	150
NNMi にイベント・データを送信するための SiteScope の設定方法 ..	151
メトリックス・データを NNMi にレポートするための SiteScope の設定方法.....	154
NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式.....	158
NNMi にレポートされる SiteScope モニタ・メトリックス	161
トラブルシューティングおよび制限事項	163
第5章：インジケータ割り当ての設定	165
インジケータ割り当ての概要.....	166
インジケータ割り当ての作成方法と管理方法	168
インジケータ・マッピングの整合.....	171
インジケータ割り当てのユーザ・インタフェース	184
第6章：モニタ・デプロイメント・ウィザード	201
モニタ・デプロイメント・ウィザードの概要	202
モニタ・デプロイメント・ウィザードのテンプレートと変数.....	204
完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視	207
ウィザードのオプション.....	207
Siebel 用のモニタ・デプロイメント・ウィザード	209
モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してモニタを デプロイする方法.....	210
テンプレート・リファレンス.....	217
モニタ・デプロイメント・ウィザード.....	226

第7章：グローバル検索と置換	237
グローバル検索と置換の概要	238
グローバル検索と置換の実行方法	241
グローバル検索と置換ウィザード	248

第II部：SAM レポート

第8章：SAM レポート	267
SAM のレポートの概要	268
SAM レポートを使った作業	269
経過時間ごとの SiteScope のレポート	271
クロス・パフォーマンス・レポートのスケールについて	273
グループのパフォーマンス・レポートについて	274
モニタ・パフォーマンス・レポートの作成方法	275
クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法	277
クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法	278
カスタム・レポートへの SAM レポートの追加方法	279
SAM のレガシ・レポート	281
SAM レポートのユーザ・インタフェース	281
トラブルシューティングおよび制限事項	321
第9章：イベント・ログ	323
イベント・ログの概要	324
イベント・ログの表示方法	326
イベント・ログのカスタマイズ方法	328
SiteScope 用の追加のフィルタの設定方法	329
イベント・ログのユーザ・インタフェース	330
索引	337

はじめに

本書では、システム可用性管理 (SAM) アプリケーションを使用して、中央管理されたリアルタイムのビューから企業のインフラストラクチャ全体にわたるシステム可用性を監視する方法について説明します。

本章の内容

- ▶ 本書の構成 (12 ページ)
- ▶ 対象読者 (12 ページ)
- ▶ 必要な情報の見つけ方 (13 ページ)
- ▶ その他のオンライン・リソース (15 ページ)
- ▶ 文書の更新 (16 ページ)

はじめに

本書の構成

本書は、次の各部で構成されています。

第 I 部 SAM 管理

SAM を使用した作業について説明します。これには、複数の SiteScope を登録、設定、および保守する方法、SiteScope 全体にわたって選択したオブジェクトのプロパティのいずれかをグローバルに検索および置換する方法、およびモニタ・デプロイメント・ウィザードにより SiteScope テンプレートを使用した既存の BSM 構成アイテム (CI) データの監視ソリューションを実現する方法が含まれます。

また、SiteScope を Business Service Management (BSM) のデータ・コレクタとして設定する方法、HP Operations Manager (HPOM) と BSM のオペレーション管理にイベントを送信しメトリックスをレポートする方法、および Network Node Manager i (NNMi) にイベントを送信しメトリックスをレポートする方法についても説明します。

第 II 部 SAM レポート

SiteScope データ・コレクタによって収集され、BSM データベースに格納された、パフォーマンス・データに基づいてレポートを参照および分析する方法を説明します。また、SAM イベント・ログを使用して、SiteScope イベントを表示する方法についても説明します。

対象読者

本書は、次の BSM ユーザを対象としています。

- ▶ BSM 管理者
- ▶ BSM アプリケーション管理者
- ▶ BSM データ・コレクタ管理者
- ▶ BSM エンド・ユーザ

本書の読者は、エンタープライズ・システム管理、インフラストラクチャ監視システム、SiteScope に精通し、監視対象として設定されるシステムを熟知している必要があります。さらに、BSM と統合する読者は、BSM、エンタープライズ監視および管理の概念を理解する必要があります。

必要な情報の見つけ方

本書は、HP Business Service Management 文書ライブラリに含まれています。この文書ライブラリは、すべての Business Service Management ドキュメントへの単一のアクセス・ポイントを提供します。

文書ライブラリにアクセスするには、次の手順で行います。



- ▶ Business Service Management で、[ヘルプ] > [文書ライブラリ] を選択します。
- ▶ Business Service Management ゲートウェイ・サーバ・マシンから、[スタート] > [プログラム] > [HP Business Service Management] > [Documentation] を選択します。



トピック・タイプ

本書では、各サブジェクト・エリアをトピックに分けて説明しています。個々のトピックには、サブジェクト固有の情報モジュールが含まれます。トピックは、通常、その中に含まれる情報のタイプに従って分類されています。

この構造は、ユーザが各時点で必要とする情報のタイプに合わせてドキュメントを分割することによって、個々の情報に簡単にアクセスできるように設計されています。

使用されている主なトピックの種類は、「**概念**」，「**タスク**」，「**参照情報**」です。これらのトピック・タイプは，アイコンによって視覚的に区別されています。

トピック・タイプ	詳細	使用目的
概念 	背景情報，説明情報，または概念的情報。	特定の機能について一般的な情報を得る。
タスク 	<p>手順を示すタスク：アプリケーションの操作および目的の達成に役立つ，順を追ったガイダンス。タスク・ステップによっては，サンプル・データを使用した例が示されます。</p> <p>タスク・ステップは，番号が付いているものと番号なしのものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 番号付きの手順：各ステップを順番どおりに進めることによって実行されるタスクです。 ▶ 番号なしの手順：順番に関係なく実行できる，自己完結型の操作の一覧です。 <p>使用例のシナリオのタスク：特定の状況のためのタスクを実行する方法の例です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ タスクの全体的な流れを把握する。 ▶ 番号付きタスクに示されたステップを順に実行し，タスクを完了する。 ▶ 番号なしのタスク内のステップを実行することにより，独立した操作を行う。 <p>実際の場面でタスクをどのように実行できるかを知る。</p>

トピック・タイプ	詳細	使用目的
参照情報 	<p>一般的な参照情報：参照情報としての資料の詳細リストと説明です。</p> <p>ユーザ・インタフェースの参照情報：特定のユーザ・インタフェースを詳しく説明する、特化した参照トピック。通常、製品の [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが表示されます。</p>	<p>特定の状況に関連した具体的な参照情報を検索する。</p> <p>1つ以上の特定のユーザ・インタフェース要素（ウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど）に入力する情報や使用方法などに関する具体的な情報を調べる。</p>
トラブルシューティングおよび制限事項 	<p>トラブルシューティングおよび制限事項：遭遇することが多い問題とその解決方法について説明するとともに、機能領域または製品領域の制限事項を示す、専門的な参照情報トピックです。</p>	<p>特定の機能を使用する前や、ソフトウェアの使用上の問題に直面した場合などに、重要な問題についての理解を深める。</p>

その他のオンライン・リソース

トラブルシューティングと技術情報：HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティング・ページでセルフ・ソルブ技術情報を検索できる。[ヘルプ] > [トラブルシューティングとナレッジベース] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.openview.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

HP Software サポート：HP ソフトウェアのサポート Web サイトにアクセスします。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの投稿や検索、サポート依頼の送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなども行えます。[ヘルプ] > [HP Software サポート] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.openview.hp.com> です。

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザとして登録しサインインする必要があります。また多くでサポート契約も必要です。

はじめに

アクセス・レベルの詳細については、次の URL を参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport ユーザ ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>（英語サイト）

HP Software Web サイト : HP Software Web サイトにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェアの製品に関する最新情報を提供します。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマ・サポートなどの情報も含まれています。[ヘルプ] > [HP ソフトウェア Web サイト] を選択します。この Web サイトの URL は、

<http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html> です。

文書の更新

HP ソフトウェアは製品のドキュメントを新しい情報で継続的に更新しています。

最新の更新を確認する、あるいは使用している文書が最新版であるかどうかを確認するには、HP ソフトウェア製品マニュアル Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスしてください。

第 I 部

SAM 管理

1

システム可用性管理の紹介

本章の内容

概念

- ▶ SAM の概要 (20 ページ)
- ▶ ライセンス・ポイント (22 ページ)

タスク

- ▶ SAM での複数の SiteScope の管理方法 (25 ページ)

参照情報

- ▶ SAM のユーザ・インタフェース (28 ページ)
- ▶ トラブルシューティングおよび制限事項 (50 ページ)

概念

SAM の概要

システム可用性管理 (SAM) は、SiteScope に Business Service Management (BSM) からアクセスするための Web ベースの中央管理ソリューションです (Windows ベースの SiteScope と Solaris ベースの SiteScope のどちらのインストールも、Windows ベースと Solaris ベースの両方の BSM サーバと連携します)。

監視対象のアプリケーションとオペレーティング・システムに対するアクセス権がある指定したホスト・マシンに、SiteScope をインストールします。SiteScope では、Web、アプリケーション、データベース、ファイアウォール・サーバなど、さまざまなバックエンドとフロントエンドのインフラストラクチャ・コンポーネントの重要なパフォーマンス測定値を収集し、トポロジをレポートします。SiteScope のインストールの詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』(PDF) を参照してください。

SAM 管理を使用すると、SiteScope サーバを登録、設定、保守できます。複数の SiteScope を SAM 管理から設定および管理できます。SiteScope のモニタ、警告、レポートの設定をはじめ、SiteScope に関してその他の設定を変更できます。SAM 管理から実行した設定の変更は、すべて SiteScope 自体に反映されます。

SAM により、次の作業を実行できます。

- ▶ SiteScope を SAM 管理に追加する。ユーザ・インタフェースの詳細については、38 ページ「新規 SiteScope ページ」を参照してください。
- ▶ グループ、モニタ、レポート、警告のインスタンスを任意の SiteScope から別の SiteScope にコピーする。このトピックの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope オブジェクトのコピーと移動」を参照してください。
- ▶ SiteScope の同期ウィザードを使用して、設定、プリファレンス、テンプレート・ファイルをコピーすることで、任意の SiteScope の設定を別の SiteScope と同期する。ユーザ・インタフェースの詳細については、44 ページ「[ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ」を参照してください。

- ▶ インジケータ割り当てリポジトリのインジケータにマップされる SiteScope のモニタ・メトリックスを管理する。特定のモニタ・タイプ用の割り当てを作成、編集、削除できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、184 ページ「[メトリックスとインジケータ] タブ」を参照してください。
- ▶ 複数の SiteScope を対象に、グローバル置換操作を実行する。詳細については、248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」を参照してください。
- ▶ アクセシビリティ情報と、SiteScope から BSM への登録ステータス、ライセンス・ポイント、サンプル・レポートのレート、モニタ実行頻度、SiteScope の状況についてサマリ情報を表示する。ユーザ・インタフェースの詳細については、29 ページ「[システム可用性管理] ページ」を参照してください。
- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードを実行して、BSM の RTSM (Run-time Service Model) の構成アイテムにモニタをデプロイする（この機能は、Operations Manager から SiteScope にアクセスする場合は利用できません）。ユーザ・インタフェースの詳細については、201 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」を参照してください。

注：このマニュアルには、SAM のトピックに関する情報しか記載されていません。その他すべての SiteScope の操作に関するトピックについては、SiteScope ヘルプを参照してください。SiteScope ヘルプには SAM 管理からアクセスできません。左側の表示枠の SiteScope サーバのリストから任意の SiteScope インスタンスを選択し、[ヘルプ] > [このページのヘルプ] を選択します。

ライセンス・ポイント

購入するライセンス・ポイントの数は、予定している **SiteScope** のデプロイの方法と、監視するシステムやサービスのレベルによって異なります。

本項の内容

- ▶ 22 ページ「SAM ポイント」
- ▶ 23 ページ「EMS ポイント」

SAM ポイント

SAM のライセンス・ポイント数は、現在有効になっていてメトリックスまたはトポロジをこの **SiteScope** から **BSM** にレポートする **SiteScope** モニタによって使用されるポイント数に対応します。SAM ポイントは、SAM ポイントを使用する次のモニタが実行されるときにのみ更新されます。

各モニタでは、使用するポイント数が異なります。詳細については、『**HP SiteScope デプロイメント・ガイド**』（PDF）の「ライセンス・ポイント数の見積もり」を参照してください。

SiteScope モニタが使用するライセンス・ポイントの数には、**Technology Integration Monitor (EMS)** のポイントは含まれていません。

EMS ポイント

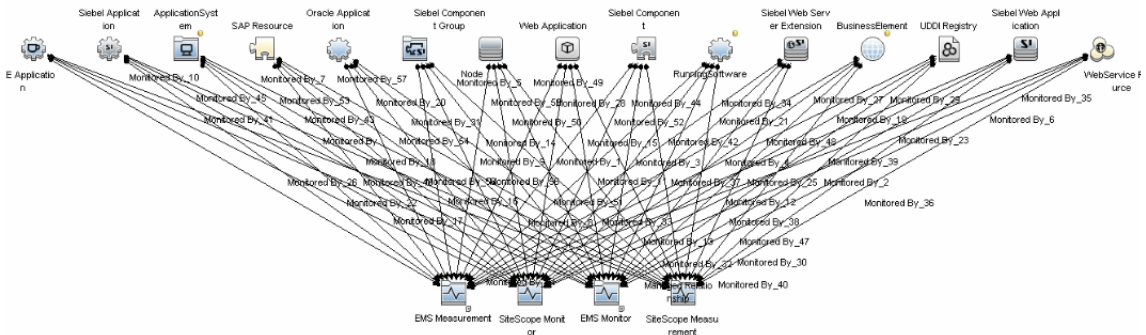
EMS ポイント（利用可能ポイントおよび使用ポイント）は、[ライセンス管理] の [システム可用性管理レポートと管理のライセンス] において SAM ポイントと合わせてカウントされます。詳細については、『Platform Administration』の「Licenses」を参照してください。

EMS ポイントは、設定されている統合モニタの数と、これらのモニタで監視する対象に応じて異なります。

- ▶ ノードを監視し、**イベント**または**チケット**をレポートするように統合モニタを設定すると、この統合モニタは、作成したトポロジ・スクリプトに応じて、監視対象ノードに関連した EMS モニタ CI か、監視対象ノードに関連した EMS 測定値 CI のどちらかを作成します。
- ▶ ノードを監視し、**メトリックス**をレポートするように統合モニタを設定すると、この統合モニタは、作成したトポロジ・スクリプトに応じて、監視対象ノードに関連した SiteScope モニタ CI か、監視対象ノードに関連した SiteScope 測定値 CI のどちらかを作成します。また、そのような SiteScope モニタ CI と SiteScope 測定値 CI の **Is EMS** 属性の値は、**true** と等しくなります。

EMS ポイントの数を計算するため、SAM ライセンス - EMS ポイント TQL はトポロジを検索して、BSM で設定されている統合モニタの数を検出します。

SAM ライセンス - EMS ポイント TQL の例を次に示します。



EMS ポイントの計算

EMS ポイントは次のようにして計算されます。

- ▶ 1 つ以上の **EMS 測定値 CI** または **EMS モニタ CI** が次のリストにあるいずれかの CI を監視する場合は、そのノードを監視する CI の数に関係なく、ノードあたり 1 つのライセンス・ポイントが追加されます。

ApplicationSystem	SAP Resource	Siebel Web Server Extension
BusinessElement	Siebel Application	UDDI Registry
J2EE Application CIs	Siebel Component	Web Application
Oracle Application	Siebel Component Group	WebService Resource
Running Software	Siebel Web Application	

- ▶ 1 つ以上の **SiteScope モニタ CI** または **SiteScope 測定値 CI** が次のリストにあるいずれかの CI を監視し、これらのモニタを表す CI タイプに **Is EMS** 属性がある場合は、そのノードを監視する CI の数に関係なく、ノードあたり 1 つのライセンス・ポイントが追加されます。

ApplicationSystem	SAP Resource	Siebel Web Server Extension
BusinessElement	Siebel Application	UDDI Registry
J2EE Application CIs	Siebel Component	Web Application
Oracle Application	Siebel Component Group	WebService Resource
Running Software	Siebel Web Application	

SiteScope モニタ または **SiteScope 測定値 CI** タイプに **Is EMS** 属性がない場合は、ライセンス・ポイントがほかの **SiteScope モニタ** のライセンス・ポイントのように計算され、**EMS モニタ** のようには計算されない通常の **SiteScope モニタ** を表します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、29 ページ「[システム可用性管理] ページ」を参照してください。

ライセンスの設定時に必要なポイントの数を指定します。ライセンス管理の詳細については、『Platform Administration』の「License Management Overview」を参照してください。

タスク

SAM での複数の SiteScope の管理方法

このタスクでは、SAM を操作して、複数の SiteScope を管理する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 25 ページ「前提条件」
- ▶ 26 ページ「SAM への SiteScope の追加」
- ▶ 26 ページ「SiteScope での統合プリファレンスの設定（任意）」
- ▶ 26 ページ「メトリックスとインジケータのマッピングの編集（任意）」
- ▶ 26 ページ「SiteScope の同期ウィザードを使用したプロパティの更新（任意）」
- ▶ 27 ページ「グローバル検索と置換の実行（任意）」
- ▶ 27 ページ「SiteScope 間での監視オブジェクトのコピー（任意）」
- ▶ 27 ページ「登録されているすべての SiteScope のアクセシビリティ、ライセンス、監視データの表示」

1 前提条件

- ▶ SAM アプリケーションにアクセスできるネットワーク上の場所で実行されている SiteScope が少なくとも 1 つ必要です。
- ▶ BSM で作業をしている場合は、[プラットフォーム管理] の [ダウンロード] ページから、SiteScope をダウンロードできます。ユーザ・インタフェースの詳細については、『Platform Administration』の「Download Components Page」を参照してください。

2 SAM への SiteScope の追加

1 つ以上の SiteScope プロファイルを追加します。[新規 SiteScope] ページに情報を入力するときは、次のことに留意してください（次のフィールドは、[メイン設定] 表示枠で必須です）。

- ▶ **表示名** : BSM, Operations Manager アプリケーション, SAM に表示される, この SiteScope を示す名前を入力します。
- ▶ **ホスト名** : BSM を Lightweight Single Sign-On を有効にして (標準設定) 使用している場合は, ホスト名として完全修飾ドメイン名を入力する必要があります。
- ▶ **ポート番号** : 標準設定値は 8080。SiteScope との通信に使用されるポート番号が 8080 以外の場合は, ここに入力してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については, 38 ページ「新規 SiteScope ページ」を参照してください。

3 SiteScope での統合プリファレンスの設定 (任意)

SiteScope で, [統合プリファレンス] インタフェースにアクセスし, 必要に応じてフィールドを変更します。

詳細については, SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「統合プリファレンス」を参照してください。

4 メトリックスとインジケータのマッピングの編集 (任意)

SAM の [メトリックスとインジケータ] タブを使用して, モニタの種類ごとに, 複数の SiteScope モニタからインジケータにマップしたメトリックスを管理できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については, 184 ページ「[メトリックスとインジケータ] タブ」を参照してください。

5 SiteScope の同期ウィザードを使用したプロパティの更新 (任意)

SiteScope の同期ウィザードを使用して, SAM 内のすべての SiteScope のプロパティを更新できます。これは, テンプレート, 警告のテンプレート, スケジュール・プリファレンス, MIB ファイル, スクリプト・ファイルなどの構成オブジェクトを, ネットワーク環境内の 1 つの SiteScope から 1 つまたは複数の SiteScope にコピーする場合に便利です。

ユーザ・インタフェースの詳細については, 43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」を参照してください。

6 グローバル検索と置換の実行（任意）

グローバル検索と置換ウィザードを使用して、複数の SiteScope を対象に値を置換できます。これは、SiteScope と BSM 間の統合に関係する値を更新する必要がある場合や、複数の SiteScope と大規模な監視環境全体を対象に、全社レベルでの更新を実行する必要がある場合に便利です。

タスクの詳細については、241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」を参照してください。

7 SiteScope 間での監視オブジェクトのコピー（任意）

SAM に実行中の SiteScope が複数ある場合、SiteScope の監視オブジェクトやその他のオブジェクトを SiteScope 間でコピーできます。複数または単一のグループ、モニタ、警告をコピーできます。

コピーするオブジェクトを右クリックして、ショートカット・メニューから [コピー] を選択します。コピー先の親オブジェクトを選択し、右クリックして、ショートカット・メニューから [貼り付け] を選択します。コピー元とコピー先の SiteScope は、同じである必要はありません。

注：モニタやグループなどのエンティティを複数の SiteScope インスタンス間でコピーする場合は、コピー元の SiteScope にあるコピー対象のエンティティに割り当てられているタグが、コピー先の SiteScope に存在する場合でも、タグの割り当ては失われます。

8 登録されているすべての SiteScope のアクセシビリティ、ライセンス、監視データの表示

SAM 管理のメイン・ページでは、複数の SiteScope の詳細を表示できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、29 ページ「[システム可用性管理] ページ」を参照してください。

参照情報

SAM のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 29 ページ [システム可用性管理] ページ
- ▶ 38 ページ新規 SiteScope ページ
- ▶ 43 ページ SiteScope の同期ウィザード

[システム可用性管理] ページ




SAM 管理は、BSM 内のポータルであり、SiteScope サーバの BSM システムへの追加や、追加した SiteScope サーバへのアクセスに利用できます。

SiteScope は、左側の表示枠で、ツリーのノードとして表現されます。ルート・ノードを選択すると、右側の表示枠には、SiteScope のサマリ情報などの SAM 機能が表示されます。ツリー内の SiteScope を選択すると、右側の表示枠にはその SiteScope のダッシュボードが表示され、SiteScope の機能を実行できます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各 SiteScope は、名前順に、BSM への現在の接続状態を示すアイコンと合わせて表示されます。 ▶ SiteScope サーバにアクセスするには、左側の表示枠に表示されたサーバの中から目的のサーバの名前を強調表示します。 ▶ SAM からアクセスしている間に SiteScope が再起動された場合、エラーが発生することがあり、SiteScope を参照し直さないと、適切に SiteScope サーバにアクセスできない可能性があります。 ▶ SiteScope の操作に関するトピックについては、SiteScope ヘルプを参照してください。このヘルプを参照するには、SAM 管理で、左の表示枠の SiteScope サーバのリストから任意の SiteScope インスタンスを選択して、[ヘルプ] > [このページのヘルプ] を選択します。

SiteScope サーバのリスト（左側の表示枠）

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<p><SiteScope サーバ名></p>	<p>個々の SiteScope サーバを表します。</p> <p>各名前には、次のデータを表示するツールチップも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 状況：ステータス・アイコンによって表される SiteScope サーバの状況。 ▶ モード：SiteScope が現在 BSM によってホストされているかどうか。 ▶ ポイント：SiteScope によって使用されるライセンス・ポイントの数。 ▶ リモート サーバ：この SiteScope によって監視中のリモート・サーバの数。 ▶ オペレーティング システム：SiteScope が実行されているオペレーティング・システムの種類。 ▶ 高可用性サーバ：この SiteScope がフェールオーバーに使用するサーバの名前。
	<p>SiteScope 名と合わせて表示されるアイコンで、SiteScope が BSM に登録されていて、SAM 管理から完全にアクセスできることを示します。この状態の SiteScope は BSM によりホストされているとみなされます。</p>
	<p>SiteScope 名と合わせて表示されるアイコンで、SiteScope は BSM に登録されていますが、設定はできないことを示します。この状態の SiteScope では、データが BSM にレポートされますが、SiteScope スタンドアロンにアクセスしていないかぎり、設定はできません。</p>
	<p>SiteScope 名と合わせて表示されるアイコンで、既存の SiteScope プロファイルが空であり、これに関連付けられている実行中の SiteScope がないことを示します。</p>

UI 要素	詳細
	SiteScope 名と合わせて表示されるアイコンで、BSM と SiteScope 間の統合がリセットされていることを示します。プロファイルは BSM に残されており、履歴レポートを準備する際に使用できます。ただし、データは BSM アプリケーションにレポートされません。
	新規 SiteScope : SiteScope を追加します。[新規 SiteScope] ページを表示します。
	SiteScope の編集 : 強調表示した SiteScope のこの BSM への接続のプロパティを編集できます。[SiteScope の編集] ページを表示します。
	SiteScope の削除 : 強調表示した SiteScope をこの BSM から削除します。

ショートカット・メニュー・オプション

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。


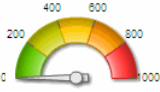
メニュー項目	詳細
新規 SiteScope	(ルート・ノード強調表示時) この BSM からアクセスできる SiteScope のリストに SiteScope を追加します。[新規 SiteScope] ページを表示します。
SiteScope の編集	強調表示した SiteScope のこの BSM への接続のプロパティを編集できます。[SiteScope の編集] ページを表示します。
SiteScope の削除	強調表示した SiteScope をこの BSM から削除します。

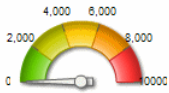
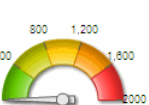
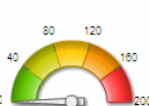

サマリ情報（右側の表示枠）


ルート・ノードを選択すると、右側の表示枠には、この BSM からアクセスされるすべての SiteScope のサマリ情報が表示されます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] を選択し、左側の表示枠でルート・ノードを選択する。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SiteScope サーバにアクセスするには、左側の表示枠に表示されたサーバの中から目的のサーバの名前を強調表示するか、テーブル内の SiteScope の名前をクリックします。 ▶ ページ上部に表示されるグラフは、リストに含まれるすべての SiteScope のサマリです。

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
<p style="text-align: center;">Health</p> 	リストに含まれる SiteScope の全体的な状況を表すグラフ。各 SiteScope は、BSM に関連付けられているすべての SiteScope に相対的な大きさの領域として表示されます。
<p style="text-align: center;">Points Used/Total</p> 	このインストールで利用可能な総ポイント数に対する、登録され設定可能な（ホストされている）すべての SiteScope が現在使用中のモニタ・ポイントの状況を表すメーター。 注： ポイントは、個々の SiteScope ごとに表示されます。複数の SiteScope 間でライセンス・ポイントは共有できませんが、SiteScope 間でライセンス・キーを移譲することは可能です。ライセンスが不要になった SiteScope からライセンス・キーを削除し、そのライセンスを使用する SiteScope に同じライセンス・キーを入力します。ライセンス情報の入力の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「一般プリファレンス・ページ」を参照してください。





UI 要素	詳細
<p data-bbox="368 248 525 262">SAM Points Used/Total</p>  <p>The gauge shows a scale from 0 to 10,000 with major ticks at 0, 2,000, 4,000, 6,000, 8,000, and 10,000. The needle is positioned at approximately 1,000 points.</p>	<p data-bbox="629 227 1158 253">SAM ライセンス・ポイント情報を表すメーター。</p> <p data-bbox="629 270 1258 328">メーターの最大値は、購入したライセンス・ポイントの数を表します。</p> <p data-bbox="629 345 1258 402">ポインタ（指針）は、現在使用中の SAM ポイントと EMS ポイントの数を表します。</p> <p data-bbox="629 420 1258 574">購入した数より多いライセンス・ポイントを使用していると、メーターが赤になり、ツールチップに警告が表示されます。また、ページの下部にも警告メッセージが表示されます。警告メッセージは、ライセンス・ポイントの制限を超えていることを示します。</p> <p data-bbox="629 591 1258 682">ツールチップには、現在使用中の SAM ポイント、通常の SAM ポイント、および EMS ポイントの総数が表示されます。</p> <p data-bbox="629 699 1258 756">SAM ポイントと EMS ポイントの詳細については、22 ページ「ライセンス・ポイント」を参照してください。</p>
<p data-bbox="368 791 486 805">Monitors/Minute</p>  <p>The gauge shows a scale from 0 to 2,000 with major ticks at 0, 400, 800, 1,200, 1,600, and 2,000. The needle is positioned at approximately 400 monitors per minute.</p>	<p data-bbox="629 782 1258 904">1 分あたりの総実行回数を表すメーター。ホストされている SiteScope の数に対する、ホストされている全 SiteScope の 1 分間におけるすべてのモニタの実行総数に 1000 (1 分間にモニタを実行できる最大回数) を掛けて計算されます。</p>
<p data-bbox="368 986 525 999">Samples Report/Second</p>  <p>The gauge shows a scale from 0 to 200 with major ticks at 0, 40, 80, 120, 160, and 200. The needle is positioned at approximately 40 samples per second.</p>	<p data-bbox="629 977 1258 1067">すべての SiteScope から BSM にレポートされるサンプルのレートを表示するメーター。1 分あたりのサンプルの最大数は、BSM デプロイメントによって決まります。</p>
 <p>The icon shows a table with three columns and a double-headed arrow below it, indicating the function of adjusting column widths.</p>	<p data-bbox="629 1171 1258 1229">カラム幅のリセット：テーブルのカラムの幅は、列の左右どちらかの境界をドラッグすることで、調整できます。</p> <p data-bbox="629 1246 1258 1303">クリックすると、テーブル・カラムの幅が標準設定に戻ります。</p>

UI 要素	詳細
	カラムの選択: [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが表示され、SiteScope サマリ・テーブルに表示するカラムを選択できます。テーブル・カラムの詳細については、34 ページ「SiteScope サマリ・テーブル (右側の表示枠)」および 37 ページ「SiteScope サマリ・テーブルの任意指定のカラム」を参照してください。
グローバル検索と置換	グローバル検索と置換ウィザードが表示され、複数の SiteScope を対象にプロパティを更新できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」を参照してください。
SiteScope の同期	SiteScope の同期ウィザードが表示され、SiteScope 間でプリファレンス、設定、設定ファイルをコピーできます。ユーザ・インタフェースの詳細については、43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」を参照してください。

SiteScope サマリ・テーブル (右側の表示枠)

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

テーブル・カラム	詳細
表示名	SAM に追加されたときに SiteScope に付けられた名前。リンクをクリックすると、その SiteScope のダッシュボードが右側の表示枠に表示されます。
使用ポイント / 合計	利用可能な総ライセンス・ポイントのうち、現在使用中のライセンス・ポイントの数。
デプロイ済みモニタ	特定の SiteScope サーバで設定されているモニタ数。
モニタ数 / 分	1 分あたりのモニタ実行の数。
リモート・ターゲット	この SiteScope によって監視中のリモート・サーバの数。
OS	SiteScope が実行されているオペレーティング・システム。
バージョン	SiteScope ソフトウェアのバージョン。

テーブル・カラム	詳細
HA ステータス	SiteScope Failover Manager インストールが実行中であるかどうかと、Failover Manager がプライマリ SiteScope の代わりに実行中であるかどうかを表示します。
状況	<p>SiteScope 自体の状態を示します。使用されるステータス・レベルを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none">  OK : すべてのパフォーマンス測定値が「OK」のしきい値レベル内にあります。  警告 : 1 つ以上のパフォーマンス測定値が「警告」の範囲内にありますが、「エラー」または「低」の範囲内の測定値はありません。  エラー / 標準以下 : 1 つ以上のパフォーマンス測定値が「エラー」または「標準以下」の範囲内にあります。これは、次のいずれかを示しています。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ パフォーマンス測定値に値はあるが、品質レベルが低い。 ▶ なんらかのエラーが原因で測定値がない。  しきい値の違反はありません : モニタにしきい値が定義されていないため、状態が割り当てられていません。
サンプル・レポート / 秒	この SiteScope から BSM へレポートされるサンプルのレート（秒単位）を表示します。

テーブル・カラム	詳細
<p>使用 SAM ポイント</p>	<p>現在有効で、この SiteScope から BSM にメトリックスまたはトポロジをレポートするモニタによって使用されているポイントの数を表示します。SAM のポイント状態は、5 分間に 1 回の割合でチェックされ、メトリックスまたはトポロジを BSM にレポートするモニタが追加または削除される時にはいつでも更新されます。</p> <p>この数値は、SiteScope で利用可能なポイントの合計数に対する、現在使用中のポイント数を表す 「使用ポイント / 合計」 フィールドの値とは異なります。</p> <p>注 : SAM のポイントには、Technology Integration Monitor (EMS) ポイントは含まれません。EMS ポイント (利用可能ポイントおよび使用ポイント) は、[ライセンス管理] の [システム可用性管理レポートと管理のライセンス] において SAM ポイントと合わせてカウントされます。EMS ポイントは、EMS 統合によって作成または更新される上位の CI の数に従って計算されます (ホストおよびアプリケーション・リソースは無視されます)。ライセンス管理の詳細については、『Platform Administration』の「License Management Overview」を参照してください。EMS ポイントの詳細については、22 ページ「ライセンス・ポイント」を参照してください。</p>
<p>MDW</p>	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードを開く。このウィザードを使用して、SiteScope から BSM の既存の CI にモニタをデプロイします。このトピックの詳細については、201 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」を参照してください。</p>
<p>ライセンス情報</p>	<p>使用中の SAM ポイント数、使用中の EMS ポイント数、および使用中の合計 SAM ポイント数を表示します。</p> <p>使用中の合計 SAM ポイント数 = SAM ポイント数 + EMS ポイント数。EMS ポイント数は、Technology Integration Monitor で使用されるポイント数です。詳細については、22 ページ「ライセンス・ポイント」を参照してください。</p>

SiteScope サマリ・テーブルの任意指定のカラム

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

テーブル・カラム	詳細
ホスト名	SiteScope が現在実行されているマシンのホスト名または IP アドレス。
ポート番号	SiteScope との通信に使用するポート番号。 標準設定値 : 8080
SSL を使用	この SiteScope では HTTPS によるセキュリティ保護された通信が使用されているかどうかを表示します。
プロファイル名	BSM の操作やレポートでこの SiteScope を識別する名前。 注 : 値を入力しないと、[メイン設定] で入力した [表示名] が使用されます。
GMT オフセット	レポートや集計の目的に使用される SiteScope プロファイルに設定された GMT オフセット。
フェイルオーバー・ホスト	この SiteScope に SiteScope Failover Manager サーバがインストールされている場合、そのサーバのホスト名を表示します。
詳細	SiteScope を SAM に追加するときに入力されたこの SiteScope の説明。
最新のレポート時間	モニタ・データが最後に BSM にレポートされた日時。「曜日 月 日付 時間 : 分 : 秒」という形式で表示されます。
アクセス不能なプロファイル	この SiteScope プロファイルが、実行中の SiteScope サーバが登録されていない状態で、SAM 管理に追加されているかどうかを表示します。つまり、プロファイル名はデータベースに追加されていますが、SiteScope サーバから実際に登録が行われないかぎり、BSM から SiteScope への接続は確立されません。
HP BAC への報告を有効にする	SiteScope から BSM への計測値の転送が有効にされているかどうかを表示します。
ゲートウェイ・サーバ名 / IP アドレス	BSM のゲートウェイ・サーバの名前または IP アドレス。

テーブル・カラム	詳細
SiteScope エージェント・マシンの場所	SiteScope エージェント・マシンの場所を表示します。値が入力されないと、標準設定が使用されます。
標準設定のトポロジ・プローブ・ドメイン	SiteScope トポロジ・プローブの標準設定のドメイン。
トポロジの受信ポート	BSM で使用するトポロジ受信ポート。
トポロジの受信 SSL ポート	BSM で使用するトポロジ受信 SSL ポート。
トポロジの再同期化の時間間隔	SiteScope で BSM のトポロジ・データと同期化する日数。 SiteScope が BSM に報告するトポロジ情報は、この時間間隔に達した後の SiteScope の再起動時に同期化されます。

新規 SiteScope ページ

このページでは、既存の SiteScope をこの BSM に追加できます。SiteScope は SAM によりホストされるかどうか、または単にデータを BSM にレポートするかどうかを指定できます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] を選択して [新規 SiteScope] ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SiteScope が SAM ページに追加されると、接続状態が SiteScope に割り当てられます。 ▶ SiteScope を SAM に追加できるのは、SiteScope スタンドアロンで管理者権限が定義されているユーザのみです。
関連情報	29 ページ 「[システム可用性管理] ページ」

メイン設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
表示名	SAM でこの SiteScope を表すわかりやすい名前。この名前により、左側の表示枠の SiteScope のリストと、右側の表示枠のサマリ・リストで、SiteScope が識別されます。
ホスト名	SiteScope が現在実行されているマシンのホスト名または IP アドレス。 注 ：使用している BSM で Lightweight Single Sign-On が使用されている（標準設定では有効）場合は、完全修飾ドメイン名を入力する必要があります。 例 ：lab1.emea.hp
ポート番号	SiteScope との通信に使用するポート番号。 標準設定値 ：8080
アクセス不能なプロフィール	現在、BSM からアクセスできない SiteScope のプロフィールを作成します。この方法でプロフィールを作成すると、プロフィール名はデータベースに追加されますが、SiteScope から実際に登録が行われないうえ、BSM から SiteScope への接続は確立されません。SiteScope を空のプロフィールに登録するには、SiteScope の [プリファレンス] > [統合プリファレンス] に BSM の統合設定を作成します。 注 ：関連するプロフィールを編集する前に、BSM と SiteScope の登録が完了していることを確認してください。 例 ：[プロフィール設定]表示枠に、HP Software-as-a-Service にデータをレポートする SiteScope のプロフィール名を入力します。HP Software-as-a-Service は、SiteScope から登録が行われていない場合、SiteScope にアクセスできません。

分散設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
ゲートウェイ・サーバ名 / IP アドレス	<p>ゲートウェイ・サーバの名前または IP アドレス。</p> <p>注: このボックスは次の場合にのみ変更してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ BSM に分散デプロイメントがあり、ゲートウェイ・サーバが複数のマシンにインストールされている。この場合は、データ処理サーバの名前または IP アドレスを入力します。 ▶ BSM でロード・バランサを使用している。この場合は、URL がアプリケーション・ユーザ URL の標準仮想サーバ (データ・コレクタ URL の標準仮想サーバではない) になっていることを確認します。この URL は、[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [ファウンデーション] > [プラットフォーム管理] > [ホストの設定] テーブルで確認できます。
SiteScope エージェント・マシンの場所	SiteScope エージェント・マシンの場所。値が入力されないと、標準設定が使用されます。
ゲートウェイ・サーバの認証ユーザ名	ゲートウェイ・サーバへのアクセスに使用されるログイン・ユーザ名。値が入力されないと、標準設定が使用されます。
ゲートウェイ・サーバの認証パスワード	ゲートウェイ・サーバへのアクセスに使用されるパスワード。値が入力されないと、標準設定が使用されます。

詳細設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
SiteScope ユーザ名	SiteScope への接続に必要なユーザ名。
SiteScope パスワード	追加する SiteScope にパスワードが設定されている場合に必要 SiteScope のログイン・パスワード。

UI 要素	詳細
フェイルオーバー・ホスト	SiteScope Failover Manager がこの SiteScope 用にインストールされている場合は、その Failover Manager のホスト名を入力します。 注： このホストで実行されている SiteScope Failover があるかどうかの検証は行われません。
詳細	この SiteScope の説明。

プロファイル設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
SSL を使用	セキュリティ保護された HTTPS を利用して、SiteScope API の通信をセキュリティで保護することを指定します。このオプションを選択するには、SSL を使用して実行されるように SiteScope を設定する必要があります。詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』（PDF）の「SSL を使用するための SiteScope の設定」を参照してください。
プロファイル名	BSM の操作やレポートでこの SiteScope を識別する名前。値を入力しないと、[メイン設定] で入力した [表示名] が使用されます。
GMT オフセット	レポートや集計の目的に使用される SiteScope プロファイルの GMT オフセットを選択します。
Web サーバ認証ユーザ名	Web サーバ・セキュリティ・オプションの認証（基本認証およびプロトコル）に使用するユーザ名。
Web サーバ認証パスワード	Web サーバ・セキュリティ・オプションの認証（基本認証およびプロトコル）に使用するパスワード。
Web サーバで SSL を使用する	Web サーバでは、セキュリティ保護接続に HTTPS プロトコルが使用されます。
プロキシ名 / IP アドレス	SiteScope から BSM サーバへの接続にプロキシが使用される場合の IP アドレス。
プロキシ・ユーザ名	SiteScope から BSM サーバへの接続にプロキシが使用される場合、プロキシのユーザ名。

UI 要素	詳細
プロキシ・パスワード	SiteScope から BSM サーバへの接続にプロキシが使用される場合、プロキシのパスワード。
プロファイル・データベース名	プロファイル情報を保存するデータベース (Microsoft SQL) またはスキーマ (Oracle) を選択します。
HP BAC への報告を有効にする	SiteScope の測定値の BSM へのレポートを有効にします。 このオプションをクリアすると、この SiteScope から BSM へのレポートを一時的に無効にできます。 標準設定値 : 選択済み。クリアできるのは編集モードの場合のみで、SiteScope の追加時ではクリアできません。

トポロジ設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
トポロジの再同期化の時間間隔	SiteScope で BSM のトポロジ・データと同期化する日数。 SiteScope が BSM に報告するトポロジ情報は、この時間間隔に達した後の SiteScope の再起動時に同期化されます。 標準設定値 : 7 日 最小値 : 1 日 注 : SiteScope で作成されて RTSM に格納されたすべてのトポロジは、エージング・プロセスの対象です。エージングを避けるには、62 ページ「RTSM の CI のエージング」を参照してください。
標準設定のトポロジ・プローブ・ドメイン	SiteScope トポロジ・プローブの標準設定のドメイン。 注 : この設定を変更する場合は、SiteScope を再起動する必要があります。

UI 要素	詳細
トポロジの受信ポート	BSM で使用するトポロジ受信ポート。 標準設定値 : 8080 注 : この設定を変更する場合は、SiteScope を再起動する必要があります。
トポロジの受信 SSL ポート	BSM で使用するトポロジ受信 SSL ポート。 標準設定値 : 443 注 : この設定を変更する場合は、SiteScope を再起動する必要があります。

SiteScope の同期ウィザード

このウィザードでは、任意の SiteScope から別の SiteScope にファイルや設定をコピーすることで、SiteScope 間の設定を同期できます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] を選択して [SiteScope の同期] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードを使用して、任意の SiteScope の設定を別の SiteScope にコピーできます。 ▶ グループ、モニタ、警告、またはレポートを任意の SiteScope から別の SiteScope にコピーするには、モニタ・ツリーのショートカット・メニューの[別の SiteScope に貼り付ける] オプションを使用します。
ウィザード・マップ	このウィザードには、次のページが含まれています。 [ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ > 同期するタイプの選択 > 同期するインスタンスの選択 > サマリー・ページ

[ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ

このウィザード・ページでは、設定のコピー元の SiteScope とコピー先の SiteScope を選択できます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」』を参照してください。 ▶ ソースおよびターゲットの選択ページには、次の条件を満たす SiteScope しか表示されません。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ バージョンが 9.0 以降 ▶ SAM に追加済み ▶ 現在 BSM にアクセス可能
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>SiteScope の同期ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ > 同期するタイプの選択 > 同期するインスタンスの選択 > サマリ・ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
<p>ソース SiteScope</p>	<p>設定またはファイルのコピー元（ソース）となる SiteScope を選択します。コピー元の SiteScope は 1 つしか選択できません。コピー元として選択した SiteScope は、コピー先には選択できません。</p> <p>注：現在のユーザが [権限管理] で少なくとも表示権限を持っている SiteScope のみが表示されます。このトピックの詳細については、『Platform Administration』の「Operations」を参照してください。</p>
<p>ターゲット SiteScope</p>	<p>設定またはファイルのコピー先（ターゲット）となる SiteScope を選択します。同期のターゲットには、複数の SiteScope を選択できます。</p> <p>注：現在のユーザが [権限管理] で少なくとも表示権限を持っている SiteScope のみが表示されます。このトピックの詳細については、『Platform Administration』の「Operations」を参照してください。</p>

同期するタイプの選択

このウィザード・ページでは、任意の SiteScope からほかの SiteScope にコピーするオブジェクト、設定、またはファイルを選択できます。プリファレンス、ビュー、カテゴリをコピーできます。ソース SiteScope で設定されているオブジェクトしか表示されません。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」』を参照してください。 ▶ [Select All], [Clear Selection], [Invert Selection] の各ボタンを使用して、選択内容を変更できます。
ウィザード・マップ	<p>SiteScope の同期ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ > 同期するタイプの選択 > 同期するインスタンスの選択 > サマリ・ページ</p>

SiteScope オブジェクト

ある SiteScope からほかの SiteScope にコピーできるオブジェクトを次に示します。

UI 要素	詳細
Category (SiteScope 10.00 以降では検索 / フィルタ・タグ)	<p>ソース SiteScope に設定されているカテゴリをターゲット SiteScope にコピーします。ソース SiteScope に設定されているカテゴリがない場合は、ここにはカテゴリは表示されません。SiteScope 10.00 以降では、カテゴリは検索タグまたはフィルタ・タグと呼ばれますが、同じ機能を保持しています。</p> <p>SiteScope のカテゴリ (検索 / フィルタ・タグ) の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「タグの検索 / フィルタ」を参照してください。</p> <p>例: Windows や Linux などの値を設定してオペレーティング・システムを定義するカテゴリが、ソース SiteScope で定義されているとします。これと同じカテゴリをターゲット SiteScope で使用するためにコピーできます。</p>

UI 要素	詳細
<p>Preferences</p>	<p>ソース SiteScope に設定されているプリファレンスをターゲット SiteScope にコピーします。ソース SiteScope で設定されているプリファレンスしか表示されません。プリファレンスまたは各種プリファレンスのインスタンスがソース SiteScope に定義されていない場合は、ここにはプリファレンスは表示されません。</p> <p>同期操作の対象として選択できるプリファレンスを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 電子メール・プリファレンス ▶ ページャ・プリファレンス ▶ SNMP トラップ・プリファレンス ▶ 時間指定スケジュールのプリファレンス ▶ 範囲スケジュールのプリファレンス <p>プリファレンスの種類の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「プリファレンス・メニュー」を参照してください。</p> <p>例：ソース SiteScope に設定されている時間指定スケジュールをターゲット SiteScope にコピーします。ターゲット SiteScope で（モニタの設定または編集中に）モニタ実行をスケジュールするときに、この時間指定スケジュールを使用できます。</p>
<p>Templates</p>	<p>ソース SiteScope に設定されているテンプレートをターゲット SiteScope にコピーします。ソース SiteScope に設定されているテンプレートがない場合は、ここにはテンプレートは表示されません。</p> <p>SiteScope のテンプレートの操作の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope テンプレートの概要」を参照してください。</p>

SiteScope ファイル

ある SiteScope からほかの複数の SiteScope にコピーできるファイルを次に示します。

UI 要素	詳細
Script Remote Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %scripts.remote
Mail Reports Template Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.history
Post Template Files	送信警告アクションの作成時に選択できるテンプレート。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.post
OS Template Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.os
Script Files	スクリプト警告アクションの作成時に選択できるスクリプト。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %scripts
SNMP Template Files	SNMP トラップ警告アクションの作成時に選択できるテンプレート。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.snmp
MIB Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.mib
OS Template Browsable Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.os%browsable
Mail Subject Template Files	電子メール警告の件名の作成時に選択できるテンプレート。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.mail.subject

UI 要素	詳細
Sound Template Files	サウンド警告アクションの作成時に選択できるテンプレート。これには、起動された警告のサウンドを作成するメディア・ファイルも含まれます。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。< SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.sound
Certificates Template Files	次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。< SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.certificates
Mail Template Files	電子メール警告アクションの作成時に選択できるテンプレート。 次のフォルダ・パスにあるすべてのファイルをコピーする場合に選択します。< SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.mail

同期するインスタンスの選択

このウィザード・ページには、[同期するタイプの選択] ページで選択したファイル・タイプやオブジェクト・タイプのインスタンスをすべて含むツリーが表示されます。ここから、ソース SiteScope からターゲット SiteScope にコピーするファイル・タイプまたはオブジェクト・タイプの特定のインスタンスを選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」』を参照してください。 ▶ [Select All], [Clear Selection], [Invert Selection] の各ボタンを使用して、ファイルまたはオブジェクトのインスタンスの選択を変更できます。 ▶ 選択ができれば、[Finish] をクリックします。
ウィザード・マップ	<p>SiteScope の同期ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ > 同期するタイプの選択 > 同期するインスタンスの選択 > サマリ・ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<p><ファイル/オブジェクト・ツリー></p>	<p>このツリーを使用して、ターゲット SiteScope にコピーするファイル・タイプまたはオブジェクト・タイプのソース SiteScope にある特定のインスタンスを選択または選択解除します。ツリーには、ソース SiteScope にある選択したファイル・タイプまたはオブジェクト・タイプのインスタンスがすべて表示されます。</p> <p>標準設定値： [同期するタイプの選択] ページで選択したすべてのファイルまたはオブジェクトのすべてのインスタンスが選択されます。同期操作の対象外とするには、インスタンスの横のチェック・ボックスをクリアします。</p>
<p>既存のインスタンスを上書きする</p>	<p>同期操作時に、ターゲット SiteScope に同じ名前のインスタンスがあった場合、それらを選択したインスタンスで上書きする場合は、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションがクリアされていて、同期操作中にターゲットに同じ名前のオブジェクトまたはタイプのインスタンスが見つかった場合、そのインスタンスはターゲット SiteScope にコピーされません。</p> <p>例： [同期するタイプの選択] ページで [時間指定スケジュールのプリファレンス] を選択していて、ターゲット SiteScope にソース SiteScope と同じ名前の時間指定スケジュールがあった場合、次のように処理されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションが選択されている場合、ターゲットの時間指定スケジュールは、ソース SiteScope のスケジュールのプロパティによって上書きされます。 ▶ このオプションがクリアされている場合は、ターゲットの時間指定スケジュールのプロパティが維持され、上書きされません。

サマリ・ページ

このウィザード・ページには、ターゲット SiteScope に正常にコピーされたオブジェクトまたはファイルの数が表示されます。ターゲット SiteScope にコピーできなかったオブジェクトまたはファイルがある場合は、その数も表示されます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は、『43 ページ「SiteScope の同期ウィザード」』を参照してください。
ウィザード・マップ	SiteScope の同期ウィザードには、次のページが含まれています。 [ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ > 同期するタイプの選択 > 同期するインスタンスの選択 > サマリ・ページ

トラブルシューティングおよび制限事項

このセクションでは、SAM 管理に関するトラブルシューティングおよび制限事項について説明します。

本項の内容

- ▶ 51 ページ「SAM から SiteScope ユーザ・インタフェースにアクセスする際に、408 エラーが発生する」
- ▶ 51 ページ「リバース統合が機能しない」
- ▶ 51 ページ「404 エラーのためにページが表示されない」
- ▶ 51 ページ「Flash コンポーネント（サマリのグラフ）が SAM のページに表示されない」
- ▶ 52 ページ「SiteScope の追加ページで SiteScope を SAM に追加する際に、エラーが発生する」
- ▶ 52 ページ「[新規 SiteScope] ページで SiteScope を追加するときの「SiteScope プロファイルを登録できませんでした」エラー」
- ▶ 53 ページ「SiteScope から BSM 権限アプリケーションにアクセスできないときに、SiteScope ユーザ・インタフェースを開こうとするとエラーが発生する」
- ▶ 53 ページ「Firefox 2.x ブラウザを使用する場合、BSM によりホストされている SiteScope の特定の機能を開く際に、Javascript エラーが発生する」

SAM から SiteScope ユーザ・インタフェースにアクセスする際に、408 エラーが発生する

考えられる解決策 1: SiteScope マシンの URL を Web ブラウザの信頼されたサイトのリストに追加し、すべてのブラウザを再起動します。

考えられる解決策 2 (Internet Explorer 7 を使用している場合): SiteScope サーバからのクッキーを許可するようにブラウザを設定します。

- 1 Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション] > [プライバシー] タブと選択し、[詳細設定] ボタンをクリックします。
- 2 [自動 Cookie 処理を上書きする] を選択し、[ファーストパーティの Cookie] と [サードパーティの Cookie] が [受け入れる] に設定され、[常にセッション Cookie を許可する] が選択されていることを確認します。

リバース統合が機能しない

考えられる解決策: SiteScope を SAM に追加するときに、SiteScope マシン名を [SiteScope エージェント マシンの場所] フィールドに入力します。

404 エラーのためにページが表示されない

このエラーは、ブラウザ・マシンから SiteScope へのアクセスがないことが原因で発生する場合があります (マシンに対する ping も機能しません)。SiteScope を SAM に追加した後で、SiteScope ホストの名前が完全修飾ホスト名に変更されている可能性があります。

考えられる解決策: ネットワークに DNS が設定されていない場合は、SiteScope から IP アドレスが BSM にレポートされるように設定できます。 < SiteScope のルート・ディレクトリ > %groups%master.config ファイルを開き、SiteScope マシンの IP アドレスを _sisHostNameOverride プロパティに入力します。

ブラウザ・マシンでの問題を解決するには、SiteScope のマシン名と IP を BSM マシンの %WINDOVS%system32%drivers% ディレクトリの hosts ファイルに追加します。

Flash コンポーネント (サマリのグラフ) が SAM のページに表示されない

考えられる解決策: クライアント・ブラウザに Flash をインストールします。

SiteScope の追加ページで SiteScope を SAM に追加する際に、エラーが発生する

SiteScope の SAM 管理への追加中にエラーが発生し、[表示名] フィールドを変更して SiteScope の追加を再度試みる必要がある場合があります。[プロファイル名] フィールドは、BSM レポートやサービス状況などで使用されるフィールドで、[表示名] フィールドによって値が決まります。[プロファイル名] フィールドに、SiteScope の追加を初めて試したときの標準設定の値が残っている可能性があります。

考えられる解決策：最初に SiteScope の追加を試みてエラーが発生した後に [表示名] フィールドまたは [ホスト名] フィールドを変更する場合は、[プロファイル名] フィールドなど、これらのフィールドを基に標準設定値が入力されたフィールドをすべて変更する必要があります。

[新規 SiteScope] ページで SiteScope を追加するときの「SiteScope プロファイルを登録できませんでした」エラー

このメッセージは、[新規 SiteScope] ページで SiteScope を SAM に追加しようとするときに表示されます。

考えられる解決策：

- ▶ SiteScope が起動して実行されていることを確認する。SiteScope を再起動し、正常に起動したことを確認します。
- ▶ 次のログにエラーがないかどうかチェックする。
 - ▶ < BSM のルート・ディレクトリ > %log%topaz_all.ejb.log
 - ▶ < SiteScope のルート・ディレクトリ > %logs%bac_integration%bac_integration*.log
- ▶ 新規 SiteScope を追加する前にプロファイル・データベースが作成されたこと、および BSM が SiteScope サーバとポートにアクセスできることを確認する。

SiteScope から BSM 権限アプリケーションにアクセスできないときに、SiteScope ユーザ・インタフェースを開こうとするとエラーが発生する

次のエラー・メッセージが表示されます。"The SiteScope interface failed to open because SiteScope was unable to access BSM's permissions application using `http://<your BSM server>/topaz/ url`. SiteScope needs this access to build the permission model before granting access to the SiteScope interface. Check your network configuration and verify that SiteScope can access Business Service Management."

考えられる解決策 1: ネットワーク設定を確認します。

考えられる解決策 2: BSM サーバの IP アドレスを、SiteScope マシンの `etc/hosts` ファイルに追加します。

Firefox 2.x ブラウザを使用する場合、BSM によりホストされている SiteScope の特定の機能を開く際に、Javascript エラーが発生する

SiteScope が BSM によりホストされている場合、Firefox 2.0.x ブラウザを使用する場合、機能しない可能性がある機能があります。このような機能としては、ヘルプ・ページの参照、診断ツール、レポート、SiteScope 間のコピー、モニタ・デプロイメント・ウィザード、テンプレート適用 PDF レポートが含まれます。

考えられる解決策: Firefox 3.x または Internet Explorer ブラウザを使用します。

2

BSM との連携

本章の内容

概念

- ▶ SiteScope と BSM の通信方法について (56 ページ)
- ▶ 接続の設定 (58 ページ)
- ▶ SiteScope データと BSM の構成アイテムの統合 (59 ページ)
- ▶ 検出されたトポロジの BSM へのレポート (66 ページ)
- ▶ SiteScope へのアクセスと権限モデルの作成 (69 ページ)
- ▶ CI のダウンタイム (70 ページ)

タスク

- ▶ SiteScope および BSM 間の統合の設定方法 (73 ページ)
- ▶ SiteScope を SSL が必要な BSM サーバに接続する方法 (82 ページ)
- ▶ SiteScope をクライアント証明書が必要な BSM サーバに接続する方法 (83 ページ)
- ▶ トポロジ・レポートの設定方法 (84 ページ)

参照情報

- ▶ 初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ (88 ページ)
- ▶ メトリックごとに CI をレポートするモニタ (89 ページ)
- ▶ **トラブルシューティングおよび制限事項** (90 ページ)

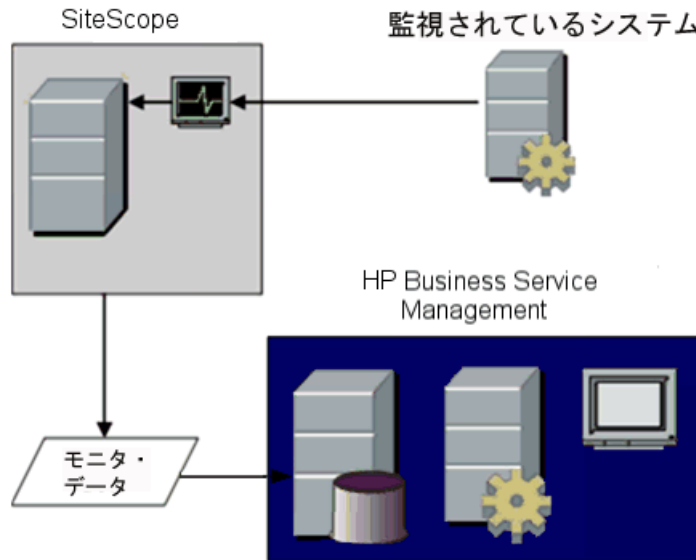
概念

SiteScope と BSM の通信方法について

SiteScope は、Business Service Management (BSM) のデータ・コレクタとして使用できます。BSM では、エンドユーザ、ビジネス・プロセス、システムのデータを使用します。

BSM のデータ・コレクタとして設定した場合は、SiteScope モニタによって収集されるメトリクスとトポロジ・データを BSM に渡して分析し、レポートで使用できます。監視データは、すべてのモニタの監視データ、または選択したモニタの監視データのみを送信できます。

次に、SiteScope を BSM のデータ・コレクタとして使用した図を示します。



注 : BSM 統合は、HP Operations Agent を使用した統合と混同しないでください。HP Operations Agent による統合は、BSM のオペレーション管理および HPOM の [パフォーマンス パースペクティブ] タブでメトリックス・データを表示する場合に必要となります。HP Operations Agent を使用したメトリックの収集の詳細については、109 ページ「HP Operations Agent を使用したメトリックスのレポート」を参照してください。

BSM にはシステム可用性管理 (SAM) ページが含まれるため、1 つ以上の SiteScope サーバの SiteScope モニタ設定を中央コンソールで管理できます。BSM 統合をアクティブにすると、SAM 管理または SiteScope スタンドアロン・ユーザ・インタフェースを通じて SiteScope を管理するかどうかに関係なく、SiteScope データが BSM にフローします。

BSM と互換性のある SiteScope リリースについては、BSM リリース・ノートの「サポート早見表」の項を参照してください。

ヒント : BSM および HPOM へのメトリックス・データのレポートに関するベスト・プラクティスおよびトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』を参照してください。

接続の設定

SiteScope および BSM 間の接続を有効にするには、SiteScope を BSM のデータ・コレクタとして設定する必要があります。これには、SiteScope を BSM の SAM 管理ページに追加する作業も含まれます。このタスクの詳細については、73 ページ「SiteScope および BSM 間の統合の設定方法」を参照してください。

統合プリファレンスの設定の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「統合プリファレンス・ページ」を参照してください。

BSM へのデータのレポートに関するトラブルシューティングの詳細については、90 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。

SiteScope と BSM 間通信のための SSL の使用

Secure Sockets Layer (SSL) を使用して、SiteScope から BSM サーバにデータを転送できます。ルート認証局で署名された証明書を BSM サーバにインストールしている場合、SiteScope サーバで必要な設定はありません。

BSM サーバに自己署名証明書があり、その証明書を使用して SiteScope との通信のセキュリティを保護する場合、76 ページ「クライアント証明書または SSL が必要な BSM サーバに接続するための SiteScope の設定 (任意)」に説明されている手順を実行する必要があります。

SiteScope のデータ送信先となるゲートウェイ・サーバの変更

SiteScope のデータのレポート先となるゲートウェイ・サーバを変更できます。通常、これは、コンポーネントが複数のサーバにインストールされている BSM デプロイメントでの作業にのみ適用されます (BSM ゲートウェイ・サーバがデータ処理サーバとは異なるマシン上にインストールされている分散デプロイメントの場合)。

この変更方法の詳細については、77 ページ「SiteScope のデータの送信先となるゲートウェイ・サーバの変更 (任意)」を参照してください。

SiteScope データと BSM の構成アイテムの統合

データを BSM にレポートする SiteScope にモニタ・インスタンスを追加すると、そのモニタによって、対応する構成アイテム (CI) が Run-time Service Model (RTSM) で作成されます。構成アイテムの詳細については、『RTSM Administration Guide』の「Configuration Items (CI)」を参照してください。

RTSM を設定する SiteScope モニタには、実際のモニタおよびモニタの作成先となるグループがあります。

- ▶ RTSM では、実際のモニタ・インスタンスはモニタ CI として表されます。モニタ CI は対応する SiteScope モニタ・インスタンスからデータを受信し、SiteScope モニタ・メトリックスに割り当てられている状況インジケータ (HI) やイベント・タイプ・インジケータ (ETI) とともにそのデータを使用して、主要管理指標ステータスを計算します。これらのインジケータには、CI の状況の詳細ビューが表示されます。インジケータの詳細については、『サービス状況』の「状況インジケータ, KPI, KPI のドメイン」を参照してください。
- ▶ RTSM では、SiteScope グループはグループ CI として表され、実行しているモニタで作成されたモニタ CI から KPI ステータスを受信します。

モニタ・タイプおよびトポロジ・レポート

モニタのタイプおよび選択したモニタのオプションに応じて、さまざまなレベルのトポロジ・データが SiteScope から RTSM にレポートされます。モニタのタイプは次のとおりです。

▶ **テクノロジー統合モニタ**：これらのモニタでは、選択および編集するモニタのトポロジ設定スクリプトに基づいてデータがレポートされます。レポートされるデータは、BSM と密接に統合されています。カスタム・トポロジを作成するか、定義済みスクリプトを使用して、関連するデータを転送できます。これらのモニタおよびモニタのトポロジ設定を操作する方法の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「テクノロジー統合モニタのトポロジ設定」を参照してください。

▶ **サポート対象環境のモニタ**：これらのサポート対象環境において、SiteScope は、モニタの作成時またはその設定の変更時にディスカバリ・プローブのように機能します。トポロジ・レポートが有効化されると、SiteScope によってアプリケーションのトポロジが自動的に検出され、関連する CI およびモニタ CI で RTSM が設定されます。サポート対象環境の詳細およびリストについては、66 ページ「検出されたトポロジの BSM へのレポート」を参照してください。

サポート対象環境のモニタのカスタム・トポロジを作成できます（ただし、89 ページ「メトリックごとに CI をレポートするモニタ」の説明にあるように CI タイプがメトリックごとに存在するモニタは除きます）。トポロジの作成の詳細については、84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」を参照してください。

▶ **標準設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ**：SiteScope にはホストまたはサーバをレポートしないモニタがあるため、監視する CI タイプを事前に知ることができません。BSM へのレポート時にこれらのモニタのトポロジ・データを含めるには、CI タイプを選択して CI タイプの鍵属性を定義し、モニタ・タイプに関連するメトリックスを特定のインジケータにマップする必要があります。これにより、SiteScope によって RTSM にモニタの CI が作成され、モニタの CI データが BSM に転送されます。標準設定のトポロジが定義されていないモニタのリストについては、88 ページ「初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ」を参照してください。これらのモニタのトポロジを作成する方法の詳細については、84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 61 ページ「モニタおよび CI 間の関係の作成」
- ▶ 62 ページ「RTSM の CI のエージング」
- ▶ 63 ページ「システム可用性管理でのインジケータ割り当ての管理」
- ▶ 63 ページ「SiteScope メトリックスのインジケータへの割り当て」
- ▶ 64 ページ「状況インジケータが作成されるタイミング」
- ▶ 64 ページ「ディスカバリ・スクリプトとパッケージ・マネージャ」
- ▶ 65 ページ「トポロジ・レポートの制限」

モニタおよび CI 間の関係の作成

SiteScope モニタ CI および RTSM の既存の CI 間の関係を作成することもできます。この関係を使用すれば、SiteScope から転送されるトポロジで CI が作成されていない場合でも、モニタは関連付けられている CI に HI ステータスを渡すことができます。

これらの関係は SiteScope または SAM 管理内で作成できます。詳細については、79 ページ「RTSM での SiteScope モニタと既存の CI 間の関係の作成（任意）」のタスクの手順を参照してください。

RTSM の CI のエージング

RTSM では、長期間活動のない CI はデータベースから削除されます。SiteScope データから作成された CI も、このエージング・ポリシーの影響を受けます。エージング・ポリシーが、SiteScope が BSM に送信した CI 上で動作しないように、SiteScope が BSM に送信するデータを同期します。同期されると、これらの CI のデータが更新され、CI の活動が作成されます。

トポロジの同期間隔の設定の詳細については、42 ページ「トポロジ設定」を参照してください。エージング・メカニズムの詳細については、『Modeling Guide』の「Working with CIs」を参照してください。

注：

- ▶ 測定値のフィールドのマッピングを使用する EMS 統合モニタによって作成された総合的なモニタおよびグループは、同期に関係なくエージング・プロセスの影響を受けます。
 - ▶ エージングが有効な場合、EMS 統合モニタの CI が RTSM から削除されないようにするために、SiteScope のハード同期時に EMS トポロジが再送信されます。また、プロパティ `_reportEmsCIsAsPartOfAntiAging=true` を < SiteScope のルート・ディレクトリ > `¥groups¥master.config` ファイルに追加することで、エージング対策プロセスでトポロジの再送信を有効化できます。
 - ▶ RTSM から CI を削除する場合、([統合プリファレンス] で) SiteScope の再同期またはハード同期を実行するか、SiteScope が再起動して RTSM の CI が元に戻るまで待機する必要があります。これは、SiteScope によって未変更の CI が 2 回送信されることを回避する SiteScope の CI キャッシュに起因します。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「BSM プリファレンス利用可能操作」を参照してください。
-

システム可用性管理でのインジケータ割り当ての管理

注：本項は、SiteScope バージョン 11.00 以降に接続するユーザのみを対象としています。

インジケータにマップされる SiteScope のメトリックが、システム可用性管理のインジケータ割り当てリポジトリで保存および管理されます。インジケータ割り当てリポジトリの詳細については、165 ページ「インジケータ割り当ての設定」を参照してください。

SiteScope メトリックスのインジケータへの割り当て

注：本項は、SiteScope バージョン 11.00 以降に接続するユーザのみを対象としています。

モニタ・インスタンスの設定時に、メトリックスをインジケータにマッピングすることもできます。SiteScope から BSM にデータがレポートされる場合、インジケータには CI の状況の詳細ビューが表示されます。SiteScope モニタ・メトリックスは、次のようなモニタ・タイプに基づいてインジケータにマッピングされます。

- ▶ サポート対象環境のモニタおよび定義済みトポロジがあるモニタには、標準設定でメトリックスに割り当てられたインジケータがあります。これらのモニタの詳細については、60 ページ「モニタ・タイプおよびトポロジ・レポート」を参照してください。標準設定のインジケータ割り当てのリストについては、171 ページ「インジケータ・マッピングの整合」を参照してください。
- ▶ 定義済みトポロジがない SiteScope モニタの場合、さまざまな CI タイプにリンクする可能性があり、1 つのマッピングを設定できないため標準設定のインジケータのマッピングはありません。これらのモニタでは、モニタにリンクする CI タイプに適切なインジケータにメトリックスをマッピングできます。定義済みトポロジがないモニタのリストについては、88 ページ「初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ」を参照してください。

SiteScope で標準設定のメトリックスのマッピングを変更できます。インジケータのマッピングがローカルの SiteScope で変更されている場合、SiteScope によって BSM から最新のマッピングがダウンロードされても、これらのマッピングは中央管理されているリポジトリのマッピングで上書きされません。これにより、次のことが可能になります。

- ▶ モニタ・インスタンスのインジケータ、またはモニタの一部のメトリックスのインジケータを上書きする。
- ▶ テンプレートの標準設定でないインジケータを設定する。カスタム・トポロジの CI タイプおよびメトリックのマッピングは、テンプレートの変数では設定できません（これらは、テンプレートで事前に定義しておく必要があります）。
- ▶ 警告のインジケータを設定する。起動される警告の CI タイプは、グループまたはメトリックごとに CI をレポートするモニタの警告を設定するときに常にわかっているわけではないため、警告のインジケータおよびインジケータの状態は手動で入力できます。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合設定」を参照してください。

インジケータへの SiteScope メトリックスのマッピングの詳細については、86 ページ「インジケータとモニタのマッピング」を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「インジケータ 設定」を参照してください。

状況インジケータが作成されるタイミング

- ▶ SiteScope のイベントは、SiteScope のモニタ・メトリックのステータスの変化および起動された警告に基づきます。イベントは、CI に最初のイベントが到着した後に作成されます。詳細については、103 ページ「イベントの生成」を参照してください。
- ▶ メトリックスは、モニタのトポロジが RTSM にレポートされる時点で作成されます。詳細については、66 ページ「検出されたトポロジの BSM へのレポート」を参照してください。

ディスカバリ・スクリプトとパッケージ・マネージャ

SiteScope がディスカバリ・プローブとして機能できるようにするスクリプトは、BSM サーバの SiteScope パッケージに保存されています。アプリケーションのトポロジを検出するように SiteScope が設定されている場合、SiteScope によって BSM サーバから適切なスクリプトがダウンロードされます。アプリケーションの監視時にこのスクリプトを使用してディスカバリが実行されます。

SiteScope パッケージには、スクリプトのほかにビューやエンリッチメントなど、SiteScope に関連する RTSM リソースが含まれています。BSM のこのパッケージには、[管理] > [RTSM 管理] > [管理] > [パッケージ マネージャ] からアクセスできます。パッケージはファクトリ・パッケージです。つまり、パッケージの用意済みの設定で SiteScope のディスカバリを実行できます。パッケージを使った作業の詳細については、『Modeling Guide』の「Package Administration Overview」を参照してください。

注： 上級ユーザは、パッケージ内のトポロジ・スクリプトを変更できます。SiteScope パッケージでは、SiteScope とデータフロー管理で共有している可能性のあるほかのパッケージのスクリプトが使用されます。パッケージのスクリプトの変更は、データフロー管理にも影響する可能性があります。

BSM へのトポロジのレポート方法に影響するトポロジ・スクリプトを変更すると、それらのトポロジを使用するすべてのアプリケーション (BSM のアプリケーションやオペレーション管理など) に影響を与える可能性があります。

トポロジ・レポートの制限

BSM にレポートできる SiteScope のグループおよびモニタの詳細の文字数は 600 文字に制限されます。グループまたはモニタの詳細の文字数が 600 文字よりも多い場合、SiteScope によって最初の 600 文字まで詳細が切り捨てられます。

検出されたトポロジの BSM へのレポート

SiteScope は、ディスカバリ・プローブとして機能でき、選択した環境の監視対象エンティティの階層を検出できます。これらの階層は、SiteScope から BSM にレポートされるトポロジで表されます。トポロジ内の CI は、SiteScope によって監視されるホスト、サーバ、アプリケーションに対応しており、BSM の RTSM に作成されます。モニタおよび測定値の CI も作成され、SiteScope によってそのステータスが BSM にレポートされます。CI 間の関係は、SiteScope によってレポートされるトポロジで定義されます。

この機能を有効にするには、モニタ・インスタンスの作成時または設定時に [HP 統合設定] パネルの [モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート] オプションを選択します。このオプションがクリアされている場合、RTSM で作成された CI は自動的に削除されることはありません。CI に活動がない場合、最終的にエージングによってデータベースから削除されます。または、手動で削除する必要があります。

[トポロジ設定] のユーザ・インタフェースの詳細については、42 ページ「トポロジ設定」を参照してください。

トポロジ・レポートが関係する問題のトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Business Service Management Topology Issues」を参照してください。

サポート対象環境

SiteScope と BSM 間の直接接続は、選択した環境でのみ利用できます。SiteScope は次のモニタの特定のトポロジをレポートします。

環境およびモニタ・タイプ	モニタ
ノード・トポロジをレポートするモニタ	<p>これには、ノード、コンピュータ、またはそのほかの一部の子 CI タイプの派生物などの事前定義した CI タイプを使って BSM にトポロジ・データを転送できるホストまたはサーバ（テクノロジー統合モニタおよび次のリストにあるサポート対象環境以外）のステータスをレポートするすべてのモニタが含まれます。トポロジ・レポートが有効化されている場合は、SiteScope によってモニタ CI とともにトポロジが BSM に転送されます。このオプションの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP 統合設定」を参照してください。</p> <p>注：監視対象の CI タイプを事前に知ることはできないため、ホストやサーバのステータスを監視しないモニタは含まれません。ホスト・データのないモニタのリストについては、88 ページ「初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ」を参照してください。</p>
データベース環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「DB2 8.x and 9.x Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照） ▶ 「Microsoft SQL Server Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照） ▶ 「Oracle Database Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照）
ERP / CRM アプリケーション環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「SAP CCMS Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照） ▶ 「SAP Work Processes Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照） ▶ 「Siebel Application Server Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照） ▶ 「Siebel Web Server Topology」（SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照）

環境およびモニタ・タイプ	モニタ
SOA 環境	「Web Service Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照)
仮想化環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「Solaris Zones Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照) ▶ 「VMware Performance Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照) ▶ 「VMware Host Monitor Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照)
Web サーバ環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「Microsoft IIS Server Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照) ▶ 「WebLogic Application Server Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照) ▶ 「WebSphere Application Server Topology」 (SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照)

SiteScope へのアクセスと権限モデルの作成

注：本項は、BSM の SAM 管理から SiteScope にアクセスするユーザのみを対象としています。

SAM 管理では、SiteScope にアクセスする BSM ユーザごとに権限モデルを作成します。権限モデルは、SiteScope オブジェクトに対する BSM ユーザの権限に基づいており、SiteScope で定義したユーザの権限には基づいていません。

SAM 管理から SiteScope にアクセスするための権限を BSM のユーザに割り当てる場合、BSM の権限が SiteScope の対応する権限にマッピングされていることを確認してください。権限モデルでは、SiteScope で利用できるタイプの権限と BSM で付与できる権限がマッピングされます。

BSM の権限モデルおよび SiteScope のスタンドアロン権限にはいくつかの違いがあります。

- ▶ BSM の権限では、グループ・インスタンスごとに権限を付与できます。SiteScope のスタンドアロン権限はオブジェクトとしてグループに付与されるため、BSM のようなインスタンス・レベルの精度はありません。
たとえば、BSM では、ほかの SiteScope グループにアクセスする権限がなくても、SiteScope グループの特定のインスタンスを表示または変更できます。
- ▶ SiteScope では、オブジェクト・タイプごとに特定のタイプの権限（有効化 / 無効化する機能など）を有効にできます。一方、BSM では、すべてのオブジェクトで操作が標準化されており、表示、変更、追加、完全な制御などが含まれます。この場合、有効化 / 無効化は BSM の変更権限にマッピングされます。
- ▶ BSM の権限を SiteScope オブジェクトに適用する場合、操作を保留して、SiteScope スタンドアロンのユーザが利用できる権限にどのようにマッピングされるかの詳細を確認できます。
- ▶ SiteScope を BSM の SAM 管理に追加するために必要な権限があるのは、SiteScope スタンドアロンの管理者レベルのユーザのみです。

CI のダウンタイム

注：本項は、SiteScope バージョン 11.00 以降に接続するユーザのみを対象としています。

ダウンタイムは、BSM から [プラットフォーム管理] の [ダウンタイムの管理] ページを使用して、定義および管理します。ダウンタイムの設定の詳細については、『Platform Administration』の「Downtime Management — Overview」を参照してください。

SiteScope は、SiteScope のモニタ、測定値、またはグループ CI が、BSM によってダウンタイムであることが検出された CI に直接リンクしている場合、ダウンタイムによる影響を受けます。

現在ダウンタイム状態にある CI の影響を受けるモニタは、すぐにはダウンタイム状態にはなりません。モニタがダウンタイム状態になるまでの時間は、次の 2 つの設定パラメータに影響されます。

- ▶ SiteScope から BSM にダウンタイムの要求が送られる間隔（ダウンタイム取得頻度の標準設定の値は 15 分）。これは、SiteScope の [プリファレンス] > [インフラストラクチャ プリファレンス] > [一般設定] > [BSM ダウンタイム取得頻度 (分)] で変更できます。
- ▶ SiteScope のダウンタイム要求を保持する BSM のキャッシュの更新間隔（標準設定の値は 5 分）。これは、BSM の [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] で変更できます。
 - ▶ [アプリケーション] を選択します。
 - ▶ [エンド ユーザ / システム可用性管理] を選択します。
 - ▶ [ダウンタイム] テーブルで、[SiteScope ダウンタイム キャッシュ更新間隔(分)] を見つけます。この値を必要なキャッシュ更新間隔に変更します。

ダウンタイム時に SiteScope で実行されるアクションは、BSM でのダウンタイムの設定によって異なります。ダウンタイムは次の情報に対して適用できます。

- ▶ 警告：ダウンタイムに関連付けられている CI に対して警告は送信されない。
- ▶ レポート：レポートが更新されず、CI のダウンタイムが表示される。
- ▶ KPI：問題の CI に関連付けられている KPI は更新されず、CI がダウンタイムであることがサービス状況に表示されます。
- ▶ 監視：ダウンタイムに関連付けられているすべての CI に対して SiteScope 監視が停止する。

ダウンタイムになっているモニタは、SiteScope ダッシュボードの [サマリ] 列に「disabled by <Downtime Name> from BSM」と表示されます。モニタに関連付けられていて、現在実行中のダウンタイムの詳細は、[モニタの有効化 / 無効化] パネルの [Monitor Downtime] テーブルに表示されます。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「モニタの有効化 / 無効化」を参照してください。

モニタが現在ダウンタイムになっている CI の影響を受けていて、そのモニタの関連付けられている警告にダウンタイムが適用される場合、ダウンタイムの詳細は [関連する警告の有効化 / 無効化] パネルの [関連付けられたすべての警告を有効化] テーブルに表示されます。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「関連する警告の有効化 / 無効化」を参照してください。

注意事項および制限事項

- ▶ SiteScope は、ダウンタイム要求について BSM に照会し、ダウンタイム期間（最長で 24 時間）におけるダウンタイム情報を取得します。レコードは、**< SiteScope のルート・ディレクトリ > %logs ディレクトリの audit.log** に書き込まれます。これには、新しいダウンタイム、既存のダウンタイムに対する変更、削除されたダウンタイムが保持されています。
- ▶ SiteScope 11.00 以降を BSM に接続する場合、ダウンタイム・メカニズムは標準設定で有効です。標準設定を変更するには、SiteScope の [プリファレンス] > [インフラストラクチャ プリファレンス] > [一般設定] の [ダウンタイム メカニズムの有効化] チェック・ボックスをクリアします。
- ▶ SAP, Siebel, SOA トポロジではダウンタイムはサポートされていません (Application Management for Siebel/SAP ライセンスがインストールされているかどうかは無関係)。
- ▶ メトリックごとに CI をレポートするモニタの場合、メトリックに接続されている CI がダウンタイム状態になっていると、そのメトリックが属するモニタはダウンタイムに送信されます。これに該当するモニタは、「VMware Performance Monitor」および「Solaris Zones Monitor」です。詳細については、SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』を参照してください。
- ▶ ダウンタイム情報は、システム可用性管理のレポートには含まれません。
- ▶ SiteScope が BSM 9.10 に接続されると、SiteScope プロファイル上のダウンタイムが、SiteScope プロファイル・モニタおよび測定値によって監視されているホストまたはソフトウェア要素上のダウンタイムにアップグレードされます。
- ▶ CI ダウンタイムに関連したその他のトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Business Service Management CI Downtime Issues」を参照してください。

タスク

SiteScope および BSM 間の統合の設定方法

このタスクでは、SiteScope および BSM 間の統合を設定する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 74 ページ「前提条件」
- ▶ 74 ページ「SiteScope のダウンロードおよびインストール」
- ▶ 75 ページ「インストールした SiteScope の BSM への接続」
- ▶ 76 ページ「クライアント証明書または SSL が必要な BSM サーバに接続するための SiteScope の設定（任意）」
- ▶ 77 ページ「SiteScope のデータの送信先となるゲートウェイ・サーバの変更（任意）」
- ▶ 78 ページ「SiteScope の監視構造の作成」
- ▶ 79 ページ「RTSM での SiteScope モニタと既存の CI 間の関係の作成（任意）」
- ▶ 80 ページ「SiteScope メトリックスのインジケータへのマッピング（任意）」
- ▶ 80 ページ「BSM の権限の割り当て」
- ▶ 81 ページ「接続設定の変更（任意）」

1 前提条件

データを収集する特定の IT インフラストラクチャ・リソースの緻密な計画を立てる準備をします。指定したインフラストラクチャ・コンポーネントの影響を受けるビジネス・プロセスの情報を含めます。たとえば、SiteScope モニタの実行先となるアプリケーション・サーバ上で実行されている Business Process Monitor が監視しているビジネス プロセスなどです。

注 : SiteScope を BSM 9.x と接続する場合は、**HPOprInf**、**HPOprMss**、**HPOprOra**、**HPOprJEE** コンテンツ・パックが必要です (コンテンツ・パックは標準設定でインストールされるため、通常、特別な操作を行う必要はありません)。これらのコンテンツ・パックがない場合は、『Platform Administration』の「How to Create and Manage Content Packs」の説明に従ってインポートする必要があります。

2 SiteScope のダウンロードおよびインストール

BSM で、[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] に移動し、[ダウンロード] をクリックします。SiteScope インストール・ファイル (Windows または Solaris 用) をダウンロードしてローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブに保存します。

SiteScope データ・コレクタを実行するマシンに SiteScope をインストールします。複数のプラットフォームで複数の SiteScope を実行できます。詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』(PDF) を参照してください。

3 インストールした SiteScope の BSM への接続

BSM で、**[管理]** > **[システム可用性管理]** と移動し、SiteScope とシステム可用性管理を追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については、38 ページ「新規 SiteScope ページ」を参照してください。

- ▶ SiteScope のデータのレポート先とは異なる BSM サーバに接続している場合（たとえば、BSM ゲートウェイ・サーバがデータ処理サーバとは異なるマシン上にインストールされている場合）、システム可用性管理の **[新規 SiteScope]** ページの **[分散設定]** 下（または SiteScope の **[統合プリファレンス]** の **[BSM 統合のメイン設定]** 下）に両方のサーバの接続情報を設定する必要があります。
- ▶ ログ記録オプションを変更するには、モニタのプロパティ・ページの **[HP 統合設定]** パネルで、特定のモニタを編集して関連するオプションを選択します。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP 統合設定」を参照してください。グローバル検索と置換ウィザードを使用して、統合を確立する前に作成したモニタのログ記録オプションを更新できます。このウィザードの詳細については、248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」を参照してください。
- ▶ BSM に登録する前に SiteScope で作成されたモニタは、ログ記録オプションが **[BSM へのメトリックのレポートを無効にする]** に設定されます。BSM にレポートするデータ・コレクタとして SiteScope を設定した後に SiteScope で作成された新しいモニタの場合、標準設定では監視データのログは BSM に記録されます。

注：

- ▶ BSM からアクセスできない SiteScope を使って作業する場合（HP Software-as-a-Service など）、接続するには SAM 管理で空のプロファイルの作成し、SiteScope で BSM 用の統合プリファレンスを作成する必要があります。タスクの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「アクセス不可プロファイルの SiteScope-BSM 統合プリファレンスの設定方法」を参照してください。
 - ▶ 高負荷下で作業している場合は、初めて BSM に接続する前に全モニタを一時停止してください。
-

4 クライアント証明書または SSL が必要な BSM サーバに接続するための SiteScope の設定 (任意)

BSM サーバで証明書を使用し、その証明書を使用して SiteScope との通信のセキュリティを保護する場合、次の適切な手順を実行する必要があります。

- ▶ SSL が必要な BSM サーバについては、82 ページ「SiteScope を SSL が必要な BSM サーバに接続する方法」を参照してください。
- ▶ クライアント証明書を必要とする BSM サーバの詳細については、83 ページ「SiteScope をクライアント証明書が必要な BSM サーバに接続する方法」を参照してください。

注:

- ▶ BSM マシンにインストールされている証明書がルート認証局 (CA) で署名されていない場合にのみ、これらの設定を指定する必要があります。たとえば、Verisign などの認証局によって署名されている証明書を使用している場合、これらの設定を変更する必要はありません。
 - ▶ ほかの SiteScope モニタで使用しているキーストア・ファイルに自己署名証明書をインポートできますが、必須ではありません。BSM サーバの証明書のキーストアは、個別に作成できます。
 - ▶ 証明書に記載されるマシン名は、システム可用性管理の [新規 SiteScope] ページで使用される完全修飾ドメイン名とまったく同じ名前 (大文字と小文字の区別を含む) にする必要があります。
-

5 SiteScope のデータの送信先となるゲートウェイ・サーバの変更 (任意)

SiteScope のデータのレポート先となるゲートウェイ・サーバを変更できます。一般に、これは、複数のサーバにコンポーネントがインストールされている BSM デプロイメントで作業している場合にのみ当てはまります。

- ▶ SiteScope の [BSM 統合プリファレンス] で, [Business Service Management マシン名 /IP アドレス] ボックスに必要なゲートウェイ・サーバ名または IP アドレスを入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については, SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[BSM 統合プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- ▶ SAM で, [分散設定] でゲートウェイ・サーバ名の SiteScope 設定を更新します。ユーザ・インタフェースの詳細については, 38 ページ「新規 SiteScope ページ」を参照してください。

注: この機能は、特定の BSM インストールにすでに登録されている SiteScope のゲートウェイ・サーバを変更する場合にのみ使用できます。新しい SiteScope を追加する場合や、異なる BSM システムに SiteScope を接続する場合には、この機能は使用できません。

6 SiteScope の監視構造の作成

- a デプロイするモニタを整理するためのグループおよびサブグループを作成し、これらのグループにモニタを作成します。モニタの設定時に、必要に応じて BSM のデータのログ記録とトポロジ設定が設定されていることを確認します。

監視構造の作成の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope の監視用の設定方法」を参照してください。

- b メトリックスをレポートし、BSM にイベントを送信するよう SiteScope を設定します。
 - ▶ BSM メトリックス統合の設定の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「BSM 統合データとトポロジ設定」を参照してください。

注：HP Operations Agent を使用したメトリックス統合の設定（BSM のオペレーション管理および HPOM の [パフォーマンス パースペクティブ] タブでメトリックス・データを表示するために必要）の詳細については、138 ページ「SiteScope から HP Operations Agent にメトリックスをレポートできるようにする方法」を参照してください。

- ▶ SiteScope で BSM にイベントを送信できるようにするタスクの詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。

7 RTSM での SiteScope モニタと既存の CI 間の関係の作成（任意）

この関係を作成して、(SiteScope から転送されるトポロジで CI が作成されていない場合でも) モニタは関連付けられている CI に HI ステータスを渡すことができます。

- ▶ SiteScope で、モニタ・インスタンスを編集する場合は、[HP 統合設定] で [CI タイプ] オプションを手動で選択して、SiteScope モニタ CI と既存の CI 間の関係を SiteScope でカスタマイズできます。サポート対象環境のモニタと、定義済みトポロジがあるモニタの CI タイプは標準設定で定義されています。タスクの詳細については、85 ページ「CI タイプの選択」を参照してください。
- ▶ システム可用性管理で、RTSM の既存の CI プロパティ・データを使用する **モニタ・デプロイメント・ウィザード** を使用して、SiteScope のモニタ、グループ、リモート・サーバをデプロイします。RTSM に監視対象の CI と作成したモニタ間の [モニタ元] 関係を作成します。概念の詳細については、202 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザードの概要」を参照してください。

定義が完了したら、SiteScope とそのグループ、およびモニタが CI として RTSM に追加され、関連する監視ビューに自動的に関連付けられます。これらは、このビューから別のビューに追加できます。SAM 管理でモニタを編集する場合、[HP 統合設定] を使用して、既存の CI にモニタを関連付けることができます。たとえば、CPU が監視されているマシンを表す既存の論理 CI に CPU モニタを関連付けることができます。

SiteScope のデータは、サービス状況およびサービス・レベル管理で利用できます。

8 SiteScope メトリックスのインジケータへのマッピング（任意）

SiteScope では、標準設定のインジケータとメトリックのマッピングがないモニタにマッピングを追加、または既存のマッピング（サポート対象環境のモニタおよび標準設定でメトリックスにマッピングされたインジケータがあるモニタ）の設定を修正できます。

タスクの詳細については、86 ページ「インジケータとモニタのマッピング」を参照してください。

9 BSM の権限の割り当て

BSM で、[管理] > [プラットフォーム] > [ユーザおよび権限] に移動し、[ユーザ管理] をクリックします。

定義されているユーザごとに、SAM レポートおよびカスタム・レポートの SiteScope グループとそのサブグループを表示できる権限を割り当てます。詳細については、『Platform Administration』の「System Availability Management」を参照してください。

権限の適用方法の詳細については、69 ページ「SiteScope へのアクセスと権限モデルの作成」を参照してください。

10 接続設定の変更（任意）

接続を作成したら、変更する設定に応じて SiteScope または BSM のいずれかで設定を変更できます。

- ▶ BSM で、[管理] > [システム可用性管理] を選択します。SiteScope のリストで、関連する SiteScope を右クリックして、コンテキスト・メニューから [SiteScope の編集] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、38 ページ「新規 SiteScope ページ」を参照してください。
- ▶ SiteScope で、[プリファレンス] コンテキストを開き、[統合プリファレンス] を選択します。BSM の統合プリファレンスを編集します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[BSM 統合プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ヒント：

- ▶ BSM への接続を保護するには（認証用に BSM のユーザ名およびパスワードは使用しないため）、SiteScope の基本認証または双方向 SSL のいずれかを設定することをお勧めします。基本認証を使用するように BSM を設定している場合、SiteScope の [認証ユーザ名] フィールドと [認証パスワード] フィールドに入力した同じユーザ名とパスワードが、BSM へのデータとトポロジのレポートに使用されます。BSM が基本認証を使用するように設定されていない場合、送信された資格情報は無視されます。
- ▶ SiteScope サーバから BSM に送信される前にデータを圧縮するには、**< SiteScope のルート・ディレクトリ > %groups%master.config** ファイルで **_topazCompressDataInGzip=true** と設定します。有効化すると、SiteScope モニタ (ss_monitor_t) および SiteScope メトリック (ss_t) サンプルが、BSM（ここで展開される）に送信される前に GZIP 圧縮されます。

SiteScope を SSL が必要な BSM サーバに接続する方法

このタスクでは、BSM サーバで SSL が必要な場合に SiteScope および BSM 間のセキュリティ保護された通信を有効にする手順について説明します。

- 1 SiteScope ユーザ・インタフェースで証明書管理を使って SiteScope に CA または BSM サーバ証明書をインポートします。タスクの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「証明書管理を使用したサーバ証明書のインポート方法」を参照してください。

注：証明書に記載されるマシン名は、システム可用性管理の [新規 SiteScope] ページで使用される完全修飾ドメイン名とまったく同じ名前（大文字と小文字の区別を含む）にする必要があります。

- 2 BSM で、[管理] > [システム可用性管理] を選択し、[新規 SiteScope] ボタンをクリックして SiteScope インスタンスを追加します。[新規 SiteScope] ページで、次の設定が構成されているかどうか確認します。
 - ▶ **分散設定：** [ゲートウェイ サーバ名 /IP アドレス] に適切なサーバ名とポート（標準設定 443）が設定されているかどうか確認します。
 - ▶ **プロファイル設定：** [Web サーバで SSL を使用する] チェック・ボックスを選択します。

SiteScope をクライアント証明書が必要な BSM サーバに接続する方法

このタスクでは、BSM サーバでクライアント証明書が必要な場合に SiteScope および BSM 間のセキュリティ保護された通信を有効にする手順について説明します。

- 1 JKS 形式でクライアント証明書を取得して、<SiteScope のルート・ディレクトリ>%templates.certificates フォルダにコピーします。

クライアント証明書が必要な BSM サーバに接続するための SiteScope の設定の詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』(PDF) の「クライアント証明書を要求する BSM サーバに接続するための SiteScope の設定」を参照してください。

注： 秘密鍵のパスワードが少なくとも 6 文字であること、また秘密鍵のパスワードとキーストアのパスワードが同一であることを確認します。

- 2 <SiteScope のルート・ディレクトリ>%groups にある master.config ファイルを、テキスト・エディタを使用して編集します。指定のデータを使用して次のエントリを追加します。

```
_urlClientCert=<keystoreName>
```

```
_urlClientCertPassword=<keystorePassword>
```

例：

```
_urlClientCert=.ks  
_urlClientCertPassword=changeit
```

- 3 変更点をファイルに保存します。
- 4 SiteScope サーバを再起動します。

トポロジ・レポートの設定方法

注：インジケータ・マッピングの編集またはメトリックスへのマッピングの追加は、CI とインジケータに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。

このタスクでは、モニタのトポロジ設定を設定する方法について説明します。また、CI タイプを選択または変更する方法、およびメトリックスをインジケータにマッピングする方法についても説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 84 ページ「前提条件」
- ▶ 85 ページ「CI タイプの選択」
- ▶ 86 ページ「インジケータとモニタのマッピング」
- ▶ 86 ページ「イベントおよびメトリックが BSM にレポートされる場合の影響を与える BSM のサービス状況のプリファレンスの選択（任意）」
- ▶ 87 ページ「結果」

1 前提条件

- ▶ BSM でクライアント証明書が必要な場合は、SiteScope のトポロジのディスクカバリ・エージェントを設定して、トポロジを BSM サーバにレポートする必要があります。詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』（PDF）の「BSM サーバがクライアント証明書を必要とする時 SiteScope でトポロジ・ディスクカバリ・エージェントの設定方法」を参照してください。
- ▶ モニタ CI データとともにホスト・トポロジを SiteScope から BSM に転送するには、モニタ・プロパティの [HP 統合設定] パネルで [モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート] オプションを選択する必要があります。サポート対象環境のモニタと標準設定で CI タイプが定義されているモニタの場合、このオプションは標準設定で選択されています。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「BSM 統合データとトポロジ設定」を参照してください。

2 CI タイプの選択

標準設定でトポロジをレポートするモニタの場合（モニタに関連付けられている CI タイプは **[CI タイプ]** フィールドの丸括弧内に表示されます），標準設定の選択を使用することも，CI タイプを変更して鍵属性を入力し，標準設定の選択を上書きすることもできます。

標準設定でトポロジをレポートしないモニタの場合は，**[BSM 統合データとトポロジ設定]** セクションでモニタの **[CI タイプ]** を選択し，CI タイプの鍵属性の値を入力します。標準設定ではトポロジがレポートされないモニタのリストについては，88 ページ「初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ」を参照してください。

注：CI タイプがメトリックごとのモニタについては（モニタのリストについては，89 ページ「メトリックごとに CI をレポートするモニタ」を参照），CI タイプは変更できず，CI 鍵属性は表示されません。

ヒント：モニタのトポロジ設定を変更してから 10 分以内に BSM を再起動した場合，SiteScope の再同期を実行することをお勧めします。これを行うには，**[プリファレンス] > [統合プリファレンス] > [BSM 統合] > [BSM プリファレンス利用可能操作]** を選択し，**[再同期化]** をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「BSM 統合データとトポロジ設定」を参照してください。

3 インジケータとモニタのマッピング

CI タイプが選択されている場合、[インジケータ設定] セクションのテーブルは、選択した CI タイプのインジケータ設定が表示されるようにフィルタされます。サポート対象環境のモニタおよび定義済みトポロジがあるモニタの場合、標準設定でメトリックスにインジケータがマッピングされています。新しいメトリックのマッピングを追加することも、既存のマッピングの設定を編集することもできます。

標準設定のインジケータのメトリックのマッピングがないモニタの場合、そのモニタにリンクする CI タイプの適切なインジケータにメトリックスをマッピングできます。標準設定のインジケータ割り当てのリストについては、171 ページ「インジケータ・マッピングの整合」を参照してください。

概念の詳細については、63 ページ「SiteScope メトリックスのインジケータへの割り当て」を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「インジケータ 設定」を参照してください。

4 イベントおよびメトリックが BSM にレポートされる場合の影響を与える BSM のサービス状況のプリファレンスの選択 (任意)

SiteScope のイベントとメトリックスは BSM のサービス状況に影響を与えるため、両方のデータ・タイプがレポートされる場合は、影響を与えるサービス状況のプリファレンスを選択します。[HP 統合設定] の [BSM サービス状況プリファレンス] セクションで、プリファレンスを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「BSM サービス状況プリファレンス」を参照してください。

このプリファレンスは次の場合のみに関連します。

- ▶ BSM と HP Operations Manager 統合の両方がアクティブな場合。
- ▶ HP Operations Manager イベント統合が、HPOM サーバではなく BSM サーバに接続されている場合。
- ▶ モニタの [HP 統合設定] で次の設定を行います。
 - ▶ [BSM 統合データとトポロジ設定] セクションでは、[モニタの状態およびメトリックのレポートを有効にする] または [モニタの状態としきい値のあるメトリックのレポートを有効にする] を設定します。
 - ▶ [HP Operations Manager 統合設定] セクションでは、[イベント送信] を設定します。

注：

- ▶ プリファレンスはまた、**[統合プリファレンス]** > **[HP Operations Manager 統合]** > **[HP Operations Manager 統合メイン設定]** で、新しく作成された各モニタにグローバルに設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。
 - ▶ 使用するプリファレンスの選択の詳細については、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Integrating SiteScope with Business Service Management Applications」を参照してください。
-

5 結果

トポロジの設定が済んだら、**[保存]** をクリックします。SiteScope によって RTSM にモニタの CI が作成され、モニタの CI データが BSM に転送されます。

参照情報

初期設定でトポロジ・データをレポートしないモニタ

次に、ホストまたはサーバのステータスを監視しないモニタのリストを示します。

注: これらのモニタで CI 情報を BSM にレポートするには、CI タイプを選択して必要な CI の鍵属性を入力し、モニタにリンクしている CI タイプに関連するインジケータを選択する必要があります。タスクの詳細については、84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」を参照してください。

- ▶ Composite モニタ
- ▶ Directory モニタ
- ▶ e-Business Transaction モニタ
- ▶ File モニタ
- ▶ Formula Composite モニタ
- ▶ HP NonStop Event Log モニタ
- ▶ JMX モニタ (WebLogic を監視しない場合)
- ▶ Link Check Transaction モニタ
- ▶ Log File モニタ
- ▶ Microsoft Windows Dial-up モニタ
- ▶ Microsoft Windows Media Player モニタ
- ▶ Multi Log File モニタ
- ▶ Network Bandwidth モニタ
- ▶ Real Media Player モニタ
- ▶ Script モニタ

- ▶ SNMP Trap モニタ
- ▶ URL モニタ
- ▶ URL Content モニタ
- ▶ URL List モニタ
- ▶ URL Sequence モニタ
- ▶ XML Metrics モニタ

メトリックごとに CI をレポートするモニタ

次のモニタは、測定値ごとの CI をレポートします。これらのモニタには複数の CI があるため、モニタの CI は変更することができません。これらのモニタ・タイプのインジケータ・マッピングは、BSM（[システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブ）からのみ変更できます。

- ▶ SAP CCMS
- ▶ SAP Work Processes
- ▶ Siebel Application Server
- ▶ Siebel Web Server
- ▶ Solaris Zones
- ▶ VMware Host CPU
- ▶ VMware Host Memory
- ▶ VMware Host Network
- ▶ VMware Host State
- ▶ VMware Host Storage
- ▶ VMware Performance

注：モニタのカスタム・トポロジ・ノードを定義し、そのホスト名を指定することができます。この BSM に接続している SiteScope にリモート・サーバがある場合、この CI の CI タイプは、リモート・サーバの環境に応じて **UNIX** または **Windows** に自動的に変更されます。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、BSM 統合に関するトラブルシューティングおよび制限事項について説明します。

- ▶ 90 ページ「Internet Explorer 7 を使用した SAM 管理からの SiteScope へのアクセス」
- ▶ 91 ページ「BSM へのデータのレポート」
- ▶ 92 ページ「SiteScope と BSM 間統合のトラブルシューティング」

Internet Explorer 7 を使用した SAM 管理からの SiteScope へのアクセス

Internet Explorer 7 を使用して SAM 管理から SiteScope にアクセスすると、「408 Request Timeout」エラーが表示されます。

回避策 : BSM から SiteScope にログオンするには、ブラウザで SiteScope サーバのクッキーを受け入れるよう設定します。

- 1 Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション] > [プライバシー] タブと選択し、[詳細設定] ボタンをクリックします。
- 2 [自動 Cookie 処理を上書きする] を選択し、[ファースト パーティの Cookie] と [サード パーティの Cookie] が [受け入れる] に設定され、[常にセッション Cookie を許可する] が選択されていることを確認します。

BSM へのデータのレポート

監視のデプロイメントやネットワーク通信の複雑さによっては、SiteScope が一時的に BSM サーバと通信できなくなることがあります。SiteScope の状況の監視には、BSM サーバへの接続およびデータ転送を監視する複数のモニタが含まれています。

SiteScope が BSM サーバに接続できない場合、SiteScope は引き続き監視データ・ファイルをローカルに記録して保存します。データ・ファイル数が指定したしきい値を超えると、SiteScope は構文 **< SiteScope のルート > %cache%persistent%topaz%data <インデックス> .old** を使用してデータ・ファイルをキャッシュ・フォルダに保存します。保持する **data.old** フォルダの数を設定するには、**< SiteScope のルート・ディレクトリ > %groups%master.config** ファイルで **_topazMaxOldDirs** プロパティを変更します。

注：標準設定では、データ・ファイル数のしきい値が 1000 ファイルに設定されています。この設定を変更するには、**master.config** ファイルの **_topazMaxPersistenceDirSize** プロパティを変更します。

SiteScope とエージェント・サーバ間の接続が復旧したら、これらのフォルダから **< SiteScope のルート・ディレクトリ > %cache%persistent%topaz%data** フォルダに手動でファイルをコピーする必要があります。

ヒント：大量のアップロード・データによるシステムの過負荷を避けるため、これらのファイルはデータ・フォルダが空の場合にのみコピーすることをお勧めします。**data.old** フォルダの数が指定したしきい値（標準設定は 10 フォルダ）を超えると、最も古いフォルダが削除されます。

SiteScope と BSM 間統合のトラブルシューティング

SiteScope と BSM 間のメトリックス統合、CI トポロジ・レポート、CI ダウンタイムに関連した問題のトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Troubleshooting SiteScope Integration Issues」を参照してください。

3

HP Operations Agent を使用した Operations Manager と BSM での作業

本章の内容

概念

- ▶ SiteScope の HPOM と BSM の通信方法について (94 ページ)
- ▶ イベントの送信 (100 ページ)
- ▶ HP Operations Agent を使用したメトリックスのレポート (109 ページ)

タスク

- ▶ SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法 (113 ページ)
- ▶ SiteScope から HP Operations Agent にメトリックスをレポートできるようにする方法 (138 ページ)

参照情報

- ▶ SiteScope と Operations Agent 間のメトリックスの整合 (141 ページ)
- ▶ SiteScope-Operations Manager メトリックス統合のサイズ設定の推奨事項 (145 ページ)

概念

SiteScope の HPOM と BSM の通信方法について

注 : 本項は、SiteScope 11.00 以降を HP Operations Manager (HPOM) の製品と接続するか、BSM に接続するユーザのみを対象としています。

SiteScope は、スタンドアロンのアプリケーションとして使用する場合、IT インフラストラクチャのパフォーマンスおよび可用性を監視するためのエージェントレス・ソリューションになります。また、SiteScope は、HP Operations Manager (HPOM)、HP Performance Manager (HPOM のレポート・コンポーネント)、および BSM のオペレーション管理と連動して、エージェントレスとエージェント・ベースのインフラストラクチャ管理の強力な組み合わせも可能にします。

SiteScope は、SiteScope サーバにインストールされている HP Operations Agent を使用してこれらのアプリケーションと通信します。HP Operations Agent を使用して、SiteScope でイベント・データやメトリックス・データを統合できます。

- ▶ **イベント :** HP Operations Agent は、オペレーション管理、サービス状況、およびサービス・レベル管理で使用するために、イベント・データを HPOM 管理サーバ、または BSM に送信します。SiteScope のイベントは、SiteScope のモニタ・メトリックのステータスの変化および起動された警告に基づきます。イベント・レポートの有効化の詳細については、100 ページ「イベントの送信」を参照してください。
- ▶ **メトリックス :** HP Operations Agent は、SiteScope で収集されたメトリックス・データのデータ・ストレージとしても機能します。これによって、SiteScope では測定値データを Performance Manager (HPOM レポート・コンポーネント) および BSM のオペレーション管理の [パフォーマンス パースペクティブ] タブから直接利用可能となります。メトリックス・レポートの有効化の詳細については、109 ページ「HP Operations Agent を使用したメトリックスのレポート」を参照してください。

SiteScope と HPOM の機能が結合することで、効果的で詳細な監視ソリューションが提供されます。HPOM の使用の詳細については、HPOM のドキュメントを参照してください。

注：

- ▶ HP Operations Agent を使用したメトリックス統合（オペレーション管理の [パフォーマンス パースペクティブ] タブでメトリックス・データが使用される）は、CI の状態を計算するために SiteScope モニタ・メトリックスがさまざまな BSM アプリケーションによって使用される BSM 統合（たとえば、サービス状況、サービス・レベル管理、およびシステム可用性管理において）と混同しないでください。BSM 測定値統合の設定の詳細については、55 ページ「BSM との連携」を参照してください。
 - ▶ HP Operations Agent を使用した測定値統合は、HPOM とオペレーション管理のために Windows および UNIX プラットフォームで実行されている SiteScope によってサポートされます。
 - ▶ SiteScope では、HP Operations Agent バージョン 8.60.501 をサポートします。
-

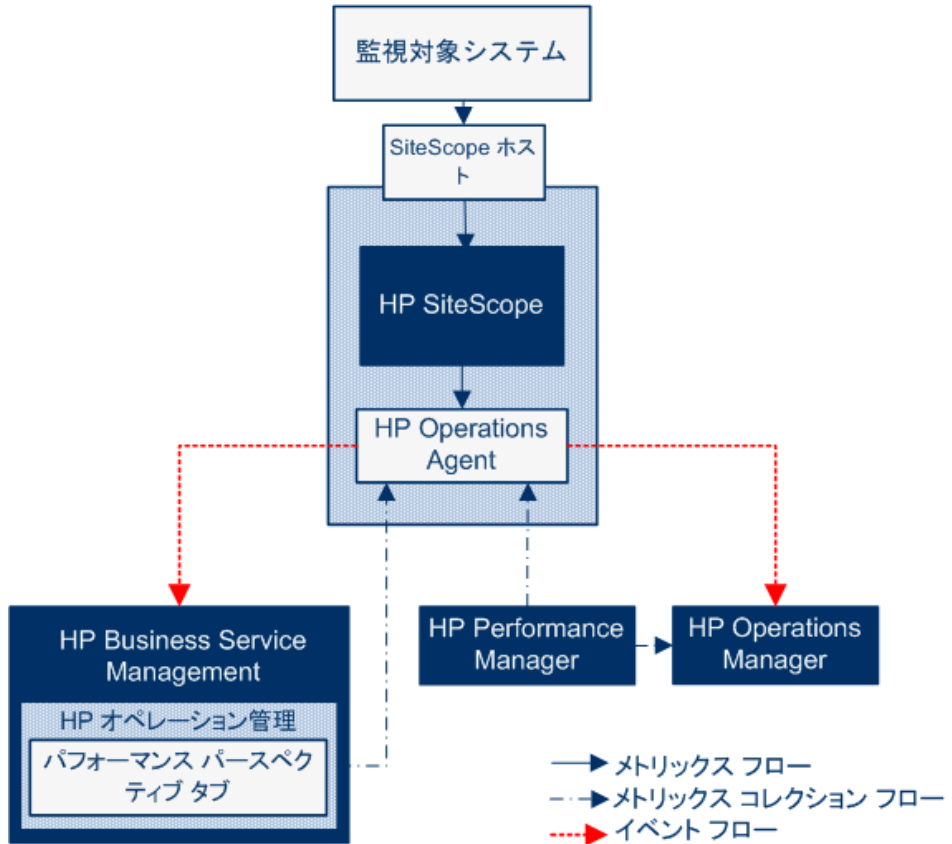
ヒント： HP Operations Agent を使用して BSM および HPOM 製品にメトリックス・データをレポートする場合のベスト・プラクティスとトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』を参照してください。

このセクションは次のトピックで構成されています。

- ▶ 96 ページ「イベントとメトリックスのフロー図」
- ▶ 97 ページ「HP Operations Agent のトポロジ」
- ▶ 98 ページ「SiteScope Failover Manager と Operations Manager の統合」
- ▶ 99 ページ「クラシック SiteScope Failover と Operations Manager の統合」

イベントとメトリックスのフロー図

次の図は、SiteScope と HPOM および BSM アプリケーションとの間での測定値データおよびイベントのフローを示しています。



HP Operations Agent のトポロジ

HP Operations Agent の CI は、SiteScope が HPOM に接続され、HPOM が BSM に接続される時点で作成されます。

SiteScope が直接 BSM に接続されると、SiteScope は通常のトポロジ・フローを使用してエージェント CI を作成します。SiteScope がメインのトポロジ（プロファイル CI）を送信するときに、アクティブなイベントまたは HP Operations Manager とのメトリックス統合がある場合、SiteScope はエージェントのトポロジも送信します。

注：

- ▶ エージェント CI が削除されるのは、イベント統合とメトリックス統合の両方が削除される場合だけです。
 - ▶ 接続が HPOM と BSM のどちらを介して確立されていたかが SiteScope では不明なため（エージェント CI はエージング・プロセスのために最終的には削除されます）、エージェント CI は SiteScope が BSM から切断されても削除されません。
-

SiteScope Failover Manager と Operations Manager の統合

SiteScope Failover Manager を使用してバックアップの監視を利用可能にする場合は、HP Operations Agent を SiteScope Failover Manager にインストールし、プライマリ SiteScope が停止した場合に、HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバとの統合のためにイベントを送信するか、メトリックス・データを保存できるようにする必要があります。エージェントは、SiteScope Failover Manager のインストール中、または SiteScope Failover Manager のインストール後に SiteScope 設定ツールを使用してインストールできます。

イベント統合

プライマリ SiteScope が停止すると、SiteScope Failover Manager インスタンスがアクティブ化され、HPOM または BSM へのイベント送信を続行します。

注: 統合を有効にするには、フェールオーバーとプライマリの SiteScope サーバのエージェントを HPOM に接続し、HPOM 内の対応するエージェント・ノードに SiteScope ポリシーをアップロードしてインストールする必要があります。設定の詳細については、『HP SiteScope Failover Manager Guide』(PDF) を参照してください。

メトリックス統合

連続的なデータのグラフ表示は、HPOM および BSM のレポート・ツールを使用してグラフ表示用のプライマリ SiteScope と SiteScope Failover Manager の両方を選択することによって実現できます。

注: HPOM と BSM のイベント統合と、HPOM とのメトリックス統合はプライマリ SiteScope で設定できるのに対し、Microsoft Cluster Service を使用してフェールオーバー監視を行っている場合、これらの統合で高可用性はサポートされません。

SiteScope Failover Manager の使用の詳細については、『HP SiteScope Failover Manager Guide』(PDF) を参照してください。

クラシック SiteScope Failover と Operations Manager の統合

クラシック SiteScope Failover ソリューションは、自動フェールオーバー機能を提供するために SiteScope Failover Manager ソリューションを使用する方法の代替手段として SiteScope 11.11 で復活しました。クラシック SiteScope Failover は、Operations Manager イベントとメトリックスの統合に対応しています。

クラシック SiteScope Failover は、SiteScope 設定ツールから有効にできます。詳細については、SiteScope 11.11 ヘルプの『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』(PDF) の「SiteScope 設定ツールの使用」を参照してください。

イベント統合

クラシック SiteScope Failover の OM イベント統合のサポートを有効にするには、プライマリ SiteScope と SiteScope Failover の両方で 113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」にある手順を実行します。

イベント・フローとホスト検出フローは、追加の手順なしで実行できます。モニタ・ディスカバリの統合の場合は、プライマリ SiteScope でのみ、125 ページ「SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする方法」にある手順を実行してください。

注意事項および制限事項

- ▶ SiteScope サービス・ツリーは 1 つしかない（イベントによって影響される）ため、プライマリ SiteScope またはフェールオーバー SiteScope からレポートされたデータの影響を受けるかどうかを知ることはできません。
- ▶ フェールオーバー・グループは、フェールオーバー・サーバにのみ存在するため表示されません。
- ▶ プライマリが停止すると、SiteScope サーバ（この場合、SiteScope サーバはフェールオーバー）を監視しているモニタから起動されたイベントは、サービス・ツリーに影響しません。
- ▶ プライマリが停止しているときに追加されたグループおよびモニタは、サービス・ツリーに表示されません。
- ▶ SiteScope にドリルダウン・ツールは、プライマリ SiteScope が実行されている場合にのみ正常に機能します。

- ▶ プライマリと SiteScope Failover に異なるエージェント設定が存在する（たとえば、エージェントが異なるパスにインストールされる）場合、フェールオーバー・サーバ上のエージェント・コマンドはイベント統合プリファレンスのユーザ・インタフェースから実行されないため、事前に手動でエージェントのパスを入力する必要があります。

メトリックス統合

クラシック SiteScope Failover は、OM メトリックス統合に対応しています。SiteScope Failover は、その HP Operations Agent（プライマリのエージェントではない）にメトリックスをレポートします。

イベントの送信

注：本項は、SiteScope 11.00 以降を HP Operations Manager (HPOM) の製品と接続するか、BSM に接続するユーザのみを対象としています。

SiteScope からイベントを直接 HPOM 管理サーバおよび BSM に送信できます（オペレーション管理、サービス状況、およびサービス・レベル管理で使用するために）。SiteScope のイベントは、SiteScope のモニタ・メトリックのステータスの変化および起動された警告に基づきます。

SiteScope からのイベント送信を有効にするには、HP Operations Agent が SiteScope サーバにインストールされている必要があります。エージェントは、SiteScope のインストール中に SiteScope のインストール・メディアから、または SiteScope のインストール後に設定ツールを使用してインストールできます。また、HPOM 管理サーバから手動でインストールすることもできますが、エージェントが SiteScope に同梱されているエージェントと同じか新しいバージョンでないかぎり、この方法は推奨されません。

エージェントがインストールされたら、SiteScope の [統合プリファレンス] で設定する必要があります。この設定には、エージェントのインストール・パスおよび HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバのホスト名または IP アドレスの入力、および HPOM または BSM へのエージェントの接続が含まれます。次にエージェントは、HPOM か BSM に接続要求を送信します。HPOM または BSM では、証明書要求を承認する必要があります（HPOM 管理サーバは、このクライアントを自動的に受け入れるように設定できます）。

HPOM サーバまたは BSM サーバで証明書要求が承認されると、SiteScope サーバへのエージェントのインストール時に、事前に設定されたログ・ファイル・ポリシーがインストールおよび署名されます。これで、SiteScope が、事前に構成された Operations Manager ポリシーにローカルで自動的に署名できるようになります。このポリシーは SiteScope に付属していて、SiteScope の統合プリファレンスの [HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスからデプロイできます。

イベントが起動されると、SiteScope によって

HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log ファイルにイベント・データが書き込まれます。このファイルは < SiteScope ルート・ディレクトリ > %logs ディレクトリにあります。各イベントはログの個別の行に書き込まれます。ログ・ファイル・ポリシーでは、エージェントがこのファイルを読み取り、HPOM または BSM に送信されるイベント・メッセージを作成するように指定されています。

イベント属性の形式は、イベント・マッピング・テンプレートを使用して決定されます。このテンプレートでは、イベントの起動時に HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバに送信されたイベントの属性値に SiteScope ランタイム・データをマップします。イベント・マッピングの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「共通イベント・マッピングの概要」を参照してください。

データがイベントに変換されたら、エージェントによって HPOM 管理サーバか BSM ゲートウェイ・サーバにイベントが送信されます。イベントは次に表示されます。

- ▶ HPOM のイベント・コンソール。
- ▶ イベント管理ファウンデーション・ライセンスがある場合は BSM のオペレーション管理イベント・ブラウザ、および CI に影響するイベントの場合はサービス状況。BSM のインストールにオペレーション管理が含まれていない場合は、CI のステータスに影響するイベントをサービス状況のステータス・インジケータを使用して確認できます。

イベントを送信するように SiteScope を設定する方法の詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。

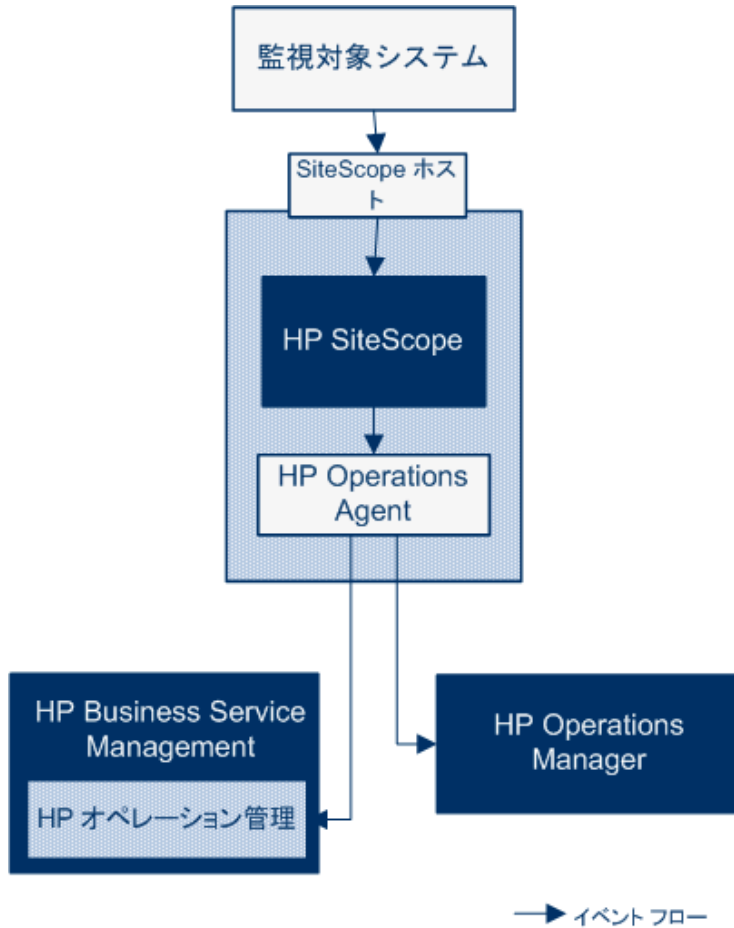
本項の内容

- ▶ 102 ページ「イベント統合の図」
- ▶ 103 ページ「SiteScope と HP Operations Manager のサポート早見表 - イベント統合」
- ▶ 103 ページ「イベントの生成」
- ▶ 105 ページ「ディスカバリ・スクリプトと HPOM イベントを表示するためのドリル・ダウン・ユーザ」

▶ 107 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」

イベント統合の図

次の図は、イベントのデータ・フローを示します。



注： HP Operations Agent は、イベントを HPOM 管理サーバか BSM ゲートウェイ・サーバのどちらかにレポートするように設定でき、その両方にレポートするには設定できません。

SiteScope と HP Operations Manager のサポート早見表 - イベント統合

本リリースでサポートされる HP Operations Manager バージョンについては、リリース・ノート の HP SiteScope サポート早見表を参照してください (SiteScope で [\[ヘルプ\]](#) > [\[新機能\]](#) を選択)。

イベントの生成

モニタのメトリックスの状態の変更に続いて、または SiteScope 警告が起動されるときに、イベントを生成して HPOM 管理サーバまたは BSM のオペレーション管理に送信するように設定できます。

- ▶ **状態の変更** : すべての測定値またはカウンタの状態の変更はイベントとなります (たとえば、CPU 使用率のカウンタの状態が「正常」から「エラー」に変更された場合)。モニタのプロパティで、メトリックスの状態の変更によりイベントが起動されるかどうかを選択できます。標準設定では、モニタ・インスタンスのメトリックスの状態が変更されると、常に SiteScope からイベントが送信されます。

イベントが起動されたときに使用する、イベントとイベントの属性値を送信する標準設定を変更できます。イベントの属性値は、モニタのプロパティを使用したイベント設定マッピングに従って入力されます。イベント・マッピングの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「共通イベント・マッピングの概要」を参照してください。

モニタのプロパティを送信するだけでなく、SiteScope ではモニタ・インスタンスの状況インジケータまたはイベント・タイプ・インジケータも送信します。イベントはインジケータに従って分類されます。BSM イベント・マネージャでは、インジケータを使用して、管理対象の IT 環境における発生タイプ (CPU の負荷など) に従ってイベントを分類します。続いて、CI 状態情報を提供するインジケータが、CI の計算に使用されます。

注 : 状態の変更は、モニタのしきい値の設定で設定されたメトリックスにのみ適用されます。

- ▶ **警告** : すべての警告がイベントとなります。警告はモニタごとに起動されるため、警告によって起動されるイベントでは、モニタのプロパティを使用できませんが、特定のメトリックスに関連付けられているインジケータは使用できません。このため、イベント警告を設定する際には、警告によってイベントが起動されるときにレポートされるインジケータを手動で選択できます。結果として、インジケータの汎用性は高くなるため、BSM の状態インジケータに影響しないインジケータを選択してください。

[HP Operations Manager 統合設定] パネルの警告定義で、警告によって HPOM または BSM にイベントを送信するかどうかを選択できます。

注 :

- ▶ イベントを送信するように警告とモニタの両方が設定されている場合、1 つの SiteScope の警告が起動されたときに、2 つのイベントが生成される可能性があります。イベントを送信するように警告を設定する場合は、モニタでのイベント送信を有効にしないでください。
 - ▶ HPOM に送信される警告には、SiteScope によってしきい値情報も追加されます。SiteScope と BSM の以前のバージョンでは、モニタ用に作成されたしきい値を警告に含めることはできませんでした。
 - ▶ オペレーション管理で、警告イベントは通知目的のみに使用することをお勧めします。
-

ディスカバリ・スクリプトと HPOM イベントを表示するための ドリル・ダウン・ユーザ

SiteScope が HPOM と統合されると、**ノード・ディスカバリ**および**モニタ・ディスカバリ**・ポリシーが HPOM 管理サーバのノードとモニタに対してアクティブになります。

どちらのディスカバリ・ポリシーも、SiteScope の**統合ビューア**・ユーザに依存します。これは、HPOM イベントからドリルダウンするために SiteScope に用意されているユーザです。このユーザには、表示権限と、グループとモニタをリフレッシュする権限が与えられています。ユーザおよびユーザ権限の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「ユーザ管理プリファレンス」を参照してください。

注：

- ▶ **統合ビューア**・ユーザがユーザ管理プリファレンスから削除されると、SiteScope が再起動された時にユーザ・タイプが自動的に作成されます。
- ▶ 統合ビューア・ユーザ・プロパティを変更した場合は、SiteScope を再起動してユーザ・プロパティ・ファイルを更新する必要があります。または、**<SiteScope のルート・ディレクトリ>%conf%site scope_connection.properties** ファイル内のユーザ・プロパティを手動で更新することもできます。統合ビューア・ユーザ・プロパティを手動で変更する場合は、SiteScope 暗号化ツールを使用してユーザのログイン名とパスワードを暗号化する必要があります。暗号化ツールの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「テキストの暗号化方法」を参照してください。

HPOM 管理サーバへのディスカバリ・ポリシーのデプロイの詳細については、HPOM のドキュメントを参照してください。

本項の内容

- ▶ 106 ページ「ノード・ディスカバリ・ポリシー」
- ▶ 106 ページ「モニタ・ディスカバリ・ポリシー」

ノード・ディスカバリ・ポリシー

SiteScope が HPOM に接続されると、SiteScope によって監視される各ノードに対応するノードが HPOM に自動的に作成および登録されます。この機能のおかげで、SiteScope は監視対象のすべてのノードを HPOM にレポートできます。イベントをレポートするモニタのホストのみが、このディスカバリ・ポリシーによって、HPOM に送信されます。

ヒント: HPOM に接続していない場合（オペレーション管理に接続されている場合）は、次のコマンドを実行することによってノード・ディスカバリを無効にすることをお勧めします。

```
ovpolicy -disable -polname SiteScope_Hosts_Discovery
```

注: SiteScope では、無効に設定されているモニタ、またはイベントを送信するように設定されていないモニタについて、ノードまたはサービスは HPOM にレポートされません。

モニタ・ディスカバリ・ポリシー

これは、必要に応じて任意でアクティブ化するポリシーです。アクティブ化する場合は、**< SiteScope ルート・ディレクトリ > %tools%OMIntegration% SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy** ディレクトリのファイルを使用して、HPOM で手動で行う必要があります。ポリシーがアクティブ化された後で、HPOM に接続されると SiteScope は SiteScope-OM モニタ検出スクリプトを実行します。

このポリシーによって HPOM Service Navigator は HPOM サービス・マップに SiteScope モニタ・ツリーを表示できます。新しいモニタ、グループ、または両方を追加する、または SiteScope モニタ・ツリーで変更を行うと、HPOM でサービス・ツリーが更新され、これらの変更が反映されます。さらに、イベントが HPOM に達すると、SiteScope サービス・ツリーに影響し、影響を受けたすべての関連ノードに色を付けます。

モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする方法の詳細については、125 ページ「SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする 方法」を参照してください。

ツールを有効にして HPOM から SiteScope にドリルダウンできるようにする方法の詳細については、132 ページ「HPOM for Windows で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」と 135 ページ「HPOM for UNIX/Linux/Solaris で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」を参照してください。

トラブルシューティングおよび制限事項

- ▶ 以前の SiteScope-OM イベント統合 (SiteScope 11.00 より前) はサポートされていません。
- ▶ SiteScope 10.x バージョンは HPOM イベント統合をサポートしていますが、11.00 よりも前のバージョンの SiteScope で生成されたイベントは、BSM 9.0x のサービス状況とサービス・レベル管理に影響しません。
- ▶ HP Operations Agent を使用した HPOM へのイベント送信は、SiteScope 11.00 以降に接続している場合に限定されます。以前のバージョンの SiteScope では、HPOM 管理サーバに HP SiteScope Adaptor をインストールする、以前の HPOM 統合ソリューションがサポートされていますが、SiteScope 11.00 以降ではサポートされていないため、アンインストールしてください。したがって HP Operations Agent を使用して新しい実装にアップグレードしてください。
- ▶ ノード・ディスカバリのアクティブ化またはモニタ・ディスカバリ・ポリシーのデプロイに問題がある場合には、SiteScope ノード・システム・プロパティが正しく検出されていることを確認し、必要に応じて修正します。[ノードプロパティ] ダイアログ・ボックスで、[システム] タブを選択して、設定が SiteScope ノード・システム設定と一致することを確認します。
- ▶ 現在 HPOM を SiteScope と使用していて、HPOM を BSM にアップグレードすることを計画している場合、アップグレードを実行するには、SiteScope を直接 BSM に接続する必要があります。これにより、SiteScope によるトポロジの BSM へのレポートも可能になります。SiteScope を BSM に接続する方法の詳細については、55 ページ「BSM との連携」を参照してください。
- ▶ SiteScope から、モニタのメトリックス値がどのしきい値にも一致しないイベントが送信されると、インジケータの重大度 [**正常域**] が HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバに送信されます。

- ▶ SiteScope が BSM に接続されるときに、新しいホストにモニタが作成されると、関連 CI の値がないイベントがオペレーション管理に送信されます（トポロジが BSM にレポートされる前に、イベントが起動されます）。次のイベントの送信を待たずに済むようにするには、モニタの [HP 統合設定] > [HP Operations Manager 統合設定] の [最初のイベントを手動で送信] チェック・ボックスを選択します。この処理は、[グローバル検索と置換] を使用してグローバルに実行できます。
- ▶ 次の状況で SiteScope による監視が停止する場合、イベントは閉じられず（HPOM と BSM に関係）、インジケータのステータスはクリアされません（BSM に関係）。
 - ▶ 関連付けられている SiteScope モニタが省略されたか、（永続的またはスケジューラにより）無効または一時停止にされている。
 - ▶ 関連付けられている SiteScope モニタが削除された。
 - ▶ SiteScope からの BSM へのレポートが停止される（SiteScope が切断される場合など）。
- ▶ 無効化されているモニタのインジケータをサービス状況、サービス・レベル管理、または両方から除外するには、[ダウンタイムの管理] を使用することをお勧めします。詳細については、『Platform Administration』の「Downtime Management — Overview」を参照してください。
- ▶ HP Operations Agent のインストール、イベント統合設定、イベントの送信、ノード・ディスカバリとモニタ・ディスカバリに関連する追加のトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Troubleshooting SiteScope Integration Issues」を参照してください。

HP Operations Agent を使用したメトリックスのレポート

注：本項は、SiteScope 11.00 以降 を BSM のオペレーション管理と接続するか、HP Performance Manager 9.0 以降に接続するユーザのみを対象としており、HP Operations Agent を使用している場合にのみ該当します。

SiteScope は HP Operations Agent を使用して、測定値データを HP Performance Manager (HPOM のレポート・コンポーネント) および BSM のオペレーション管理の [パフォーマンス パースペクティブ] タブが利用できるようにします。SiteScope メトリックスをレポート製品が収集できるようにするには、HP Operations Agent が SiteScope サーバにインストールされている必要があります。

注：HP Operations Agent を使用する測定値統合 (オペレーション管理の [パフォーマンス パースペクティブ] タブで測定値データが使用される) は、CI の状態を計算する時に (たとえば、サービス状況、サービス・レベル管理、およびシステム可用性管理で)、さまざまな BSM アプリケーションによって使用される SiteScope モニタ測定値の統合と混同しないでください。BSM 測定値統合の設定の詳細については、55 ページ「BSM との連携」を参照してください。

Performance Manager との測定値統合は、HP Operations Agent と HPOM サーバまたは BSM サーバとの接続状態に関係なく有効化されます。これは、測定値がエージェントによって収集されるためです。

SiteScope によってメトリックス・データが収集されて、SiteScope ホストにインストールされているエージェントのデータ・ストアに記録されます。サイズ設定の推奨事項については、145 ページ「SiteScope-Operations Manager メトリックス統合のサイズ設定の推奨事項」を参照してください。

Performance Manager のユーザがグラフを描くか設計する場合、SiteScope の監視対象の Performance Manager で選択したノードに対応するエージェント・データ・ストアから、メトリックス・データが Performance Manager によって収集され、グラフが描かれます。エージェントレス・グラフ作成は、Performance Manager 9.0 でサポートされます。Performance Manager の詳細については、Performance Manager のマニュアルを参照してください。

SiteScope から収集されたメトリックス・データは、BSM のオペレーション管理のグラフ作成コンポーネント、[パフォーマンス パースペクティブ] タブでも使用されます。

メトリックス名の整合、つまり SiteScope のメトリックス名を HPOM または BSM で使用されている名前と対応付けるプロセスは、最もよく使用されるいくつかのモニタに対して実行されています。詳細については、141 ページ「SiteScope と Operations Agent 間のメトリックスの整合」を参照してください。

ヒント : HP Operations Agent を使用して BSM および HPOM 製品にメトリックス・データをレポートする場合のベスト・プラクティスとトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』を参照してください。

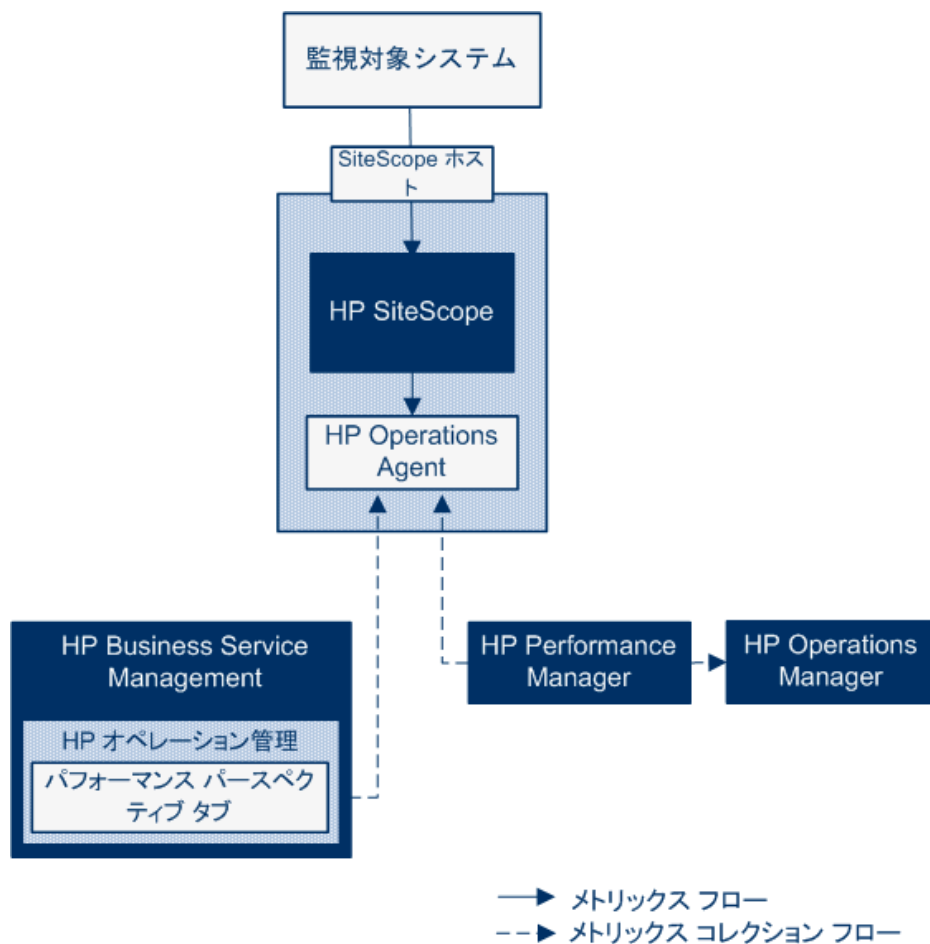
メトリックス統合の設定の詳細については、138 ページ「SiteScope から HP Operations Agent にメトリックスをレポートできるようにする方法」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 111 ページ「メトリックス・データのフロー図」
- ▶ 112 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」

メトリックス・データのフロー図

次の図は、メトリックスのデータ・フローを示します。



トラブルシューティングおよび制限事項

- ▶ エージェントのデータ・ストアでは、SiteScope メトリックス名に英数字とアンダースコア文字 (_) しかサポートされません。それ以外のすべての文字は、サポートされる文字に変換されます (メトリックスの表示名 (見出し) では SiteScope のスタイルが維持されます)。
- ▶ Web スクリプト・モニタ・データは、オペレーション管理または HPOM にレポートできません。
- ▶ HP Performance Manager から BSM のオペレーション管理 (パフォーマンス・パースペクティブ) にアップグレードし、SiteScope を BSM に接続した後で、履歴レポート・データはアップグレードできません。CI ベースのレポート作成機能がないためです (従来の HP Performance Manager の方法で、表示はできます)。
- ▶ エージェント・データ・ストアにポストフィックス (25% または 400MB など) がある数値をレポートできるようにするには、カンマで区切られたポストフィックスのリストを **< SiteScope のルート・ディレクトリ > %groups% master.config** ファイルの **_omMetricIntergationAllowedNumberPostfixs** プロパティに追加します。たとえば、%, MB, KB, および GB を含むには、**=%,mb,kb,gb** を追加します。すべてのポストフィックスが小文字でなければならないことに注意してください。
- ▶ マネージャ設定 (複数の HPOM サーバがオペレーション管理に接続され、複数の SiteScope が HPOM サーバを介して間接的にオペレーション管理に接続されている) のオペレーション管理 Manager では、SiteScope から送信されたデータがオペレーション管理のパフォーマンス・パースペクティブによってサポートされません。これは、SiteScope がトポロジをオペレーション管理に送信しないためです。オペレーション管理のデプロイメント設定の詳細については、オペレーション管理の使用の「Connecting Servers」を参照してください。
- ▶ エージェント・データ・ストアの過負荷を防止するには、145 ページ「SiteScope-Operations Manager メトリックス統合のサイズ設定の推奨事項」の説明にあるサイズ設定についての推奨事項に従います。
- ▶ HP Operations Agent 設定、状況モニタ・エラー、Performance Manager の設定に関連する問題のトラブルシューティングについては、SiteScope ヘルプの『Best Practices for the SiteScope-Business Service Management/Operations Manager Integration』の「Troubleshooting SiteScope Integration Issues」を参照してください。

タスク

SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法

注：本項は、SiteScope 11.00 以降を HP Operations Manager (HPOM) の製品と接続するか、BSM に接続するユーザのみを対象としています。

このタスクでは、SiteScope を使用して HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバにイベントを送信する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 114 ページ「前提条件」
- ▶ 114 ページ「HP Operations Agent の SiteScope サーバへのインストール」
- ▶ 115 ページ「分散環境の BSM のみ：データ処理サーバに渡される接続要求の設定」
- ▶ 117 ページ「SiteScope サーバでのエージェントの接続設定の設定」
- ▶ 118 ページ「エージェントの接続要求を HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ / Web 処理サーバで受け入れる」
- ▶ 118 ページ「SiteScope サーバへのログ・ポリシーのインストール」
- ▶ 119 ページ「接続状態のチェックおよび SiteScope サーバからのテスト・メッセージの送信（任意）」
- ▶ 119 ページ「モニタ・ディスカバリを使用して統合を拡張（任意）」
- ▶ 120 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信の有効化」
- ▶ 121 ページ「標準設定のイベント重大度マッピングの使用を有効にする（任意）」
- ▶ 121 ページ「モニタ・インスタンスと警告のイベントの送信の有効化 / 無効化」

- ▶ 122 ページ「モニタと警告のイベント・マッピングの設定（任意）」
- ▶ 123 ページ「結果」

1 前提条件

SiteScope の管理者、または「**統合プリファレンスの編集**」権限と「**共通イベント・マッピングの編集**」権限を付与されたユーザのみが、統合プリファレンスと共通イベント・マッピングを作成または変更できます。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「ユーザ管理プリファレンス」を参照してください。

2 HP Operations Agent の SiteScope サーバへのインストール

HP Operations Agent は、SiteScope インストール・メディアから SiteScope をインストールするとき、SiteScope のインストール後に設定ツールを使用してインストールできます。このエージェントによって、SiteScope からイベント・データを HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ・サーバに送信できます。

SiteScope のインストール中にエージェントをインストールする方法の詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』（PDF）の「インストール・ウィザードを使用してインストール」を参照してください。

設定ツールを使用したエージェントのインストールの詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』（PDF）の「SiteScope 設定ツールの使用」を参照してください。

サポートされる HPOM 環境のリストについては、リリース・ノート of HP SiteScope サポート早見表を参照してください。

3 分散環境の BSM のみ：データ処理サーバに渡される接続要求の設定

BSM によって別のゲートウェイ・サーバとデータ処理サーバが使用されている場合、次の手順を実行して、ゲートウェイ・サーバで受信された要求がデータ処理サーバにわたされるようにします。

- a BSM で、**[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[インフラストラクチャ設定]** を選択します。
 - ▶ **[アプリケーション]** を選択します。
 - ▶ **[オペレーション管理]** を選択します。
 - ▶ **[証明書サーバの設定]** で、**証明書サーバ・ホスト**を見つけます。証明書サーバ・ホストとして稼働するアクティブな BSM データ処理サーバのホスト名または IP アドレスと値が一致することを確認します。一致しない場合には、適宜変更します。

注：BSM データ処理サーバが故障して自動フェールオーバーが設定されている場合には、**証明書サーバ・ホスト**の設定をバックアップのデータ処理サーバ名に変更し、新しい証明書要求を処理する必要があります。ただし、データ処理サーバのフェールオーバー・タイムフレームの間に新しい証明書要求が予測されない場合には、以前に設定したイベント統合に影響しないように、設定を変更せずにおくことができます。

- b ゲートウェイ・サーバで：
 - ▶ `cd < HPBSM ルート・ディレクトリ > %bin` と入力して、アクティブ・ディレクトリを `%bin` ディレクトリに変更します。
 - ▶ `setup-secure-communication.bat` を実行してデータ処理サーバの DNS 名を入力します。

- c データ処理サーバで：
 - ▶ `cd < HPBSM ルート・ディレクトリ > %bin` と入力して、アクティブ・ディレクトリを `%bin` ディレクトリに変更します。
 - ▶ `setup-secure-communication.bat` を実行して、`g` と入力し要求を付与します（この要求を付与しその他の要求は付与しないことを確認します）。
- d BSM フェールオーバー環境をロード・バランサと使用している場合には、各データ処理サーバの証明書サーバが同期していることを確認します。
 - ▶ すべてのゲートウェイ・サーバでステップ **b** と **c** を繰り返します。データ処理サーバは既に信頼関係があるため、どのデータ処理サーバに証明書要求を送信するかは重要ではありません。その結果、すべてのゲートウェイ・サーバは両方のデータ処理サーバを信頼しており、どちらのサーバがアクティブなのかにかかわらず、常にこれらのサーバと通信できます。
 - ▶ 稼働中のデータ処理サーバに新しい証明書をインストールする場合、フェールオーバーとして使用される二次データ処理サーバに証明書をインストールすることも必要となります。新しい証明書をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
ovcert -importtrusted -file <newCertificateFilePath>
```

```
ovcert -importtrusted -file <newCertificateFilePath> -ovrg server
```
 - ▶ ポート 383 に到着するすべての HTTPS トラフィックをゲートウェイ・サーバに転送するようにロード・バランサを設定します。これによって証明書要求とイベント転送を稼働できます。

4 SiteScope サーバでのエージェントの接続設定の設定

SiteScope 統合プリファレンスで、HPOM 管理サーバまたは BSM サーバへの HP Operations Agent の接続を設定します。

- a [プリファレンス] > [統合プリファレンス] を選択し、[HP Operations Manager 統合] をクリックして、新しい統合を作成するか既存の統合を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「統合プリファレンス・ページ」を参照してください。
- b [HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスで [HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルを展開し、エージェントのインストール・パスと HPOM 管理サーバまたは BSM サーバの名前か IP アドレスを入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。
- c [接続] をクリックして、エージェントを HPOM 管理サーバまたは BSM サーバに接続します。エージェントから HPOM 管理サーバまたは BSM サーバに接続要求が送信されます。
- d [分析] ボタンをクリックすると、プロセスの各段階が正常に完了したことを検証できます。分析結果に表示される情報を、問題分析とトラブルシューティングに使用します。たとえば、bbcutil 接続プロトコルを検証することで、エージェントとサーバ間の接続を確認できます。

注：エージェントが HPOM サーバまたは BSM サーバに接続されており、異なるサーバに接続する場合には、エージェントをアンインストールしてから再インストールするか、エージェントを別のサーバにリダイレクトする必要があります。タスクの詳細については、123 ページ「HP Operations Agent を異なる HPOM または BSM サーバに再接続する方法」を参照してください。

5 エージェントの接続要求を HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイ / Web 処理サーバで受け入れる

▶ HPOM の場合 :

HPOM ユーザ・インタフェースで、SiteScope ノードを設定し、証明書要求をこのノードにマップして、証明書要求を受け入れる必要があります。詳細については、HPOM ドキュメントの「環境の管理」の「管理対象ノードの設定」と「証明書の設定」を参照するか、HPOM の管理者にお問い合わせください。

▶ BSM の場合 :

ゲートウェイ・サーバで BSM を実行している場合のみ、BSM ゲート・サーバで次の手順を実行します。BSM が分散環境で実行されている場合は、データ処理サーバで次の手順を実行します。

- a (任意) OV 証明書サーバ・プロセスが実行されているかどうかを確認するには、コマンド・ライン `ovc -status` を実行します。実行中でない場合、コマンド `ovc -start` を実行するか、BSM の管理者にお問い合わせください。
- b `cd < HPBSM ルート・ディレクトリ > %bin` と入力して、アクティブ・ディレクトリを `%bin` ディレクトリに変更します。
- c `setup-secure-communication.bat` を実行して、`g` と入力し要求を付与します（この要求を付与しその他の要求は付与しないことを確認します）。
- d 受け入れる予定の要求 ID がエージェントのコア ID に対応していることを確認します。エージェントのコア ID を取得するには、SiteScope で [HP Operations Manager 統合] の [分析] ボタンをクリックするか、SiteScope サーバ上でエージェントの `ovcoreid` コマンドを実行します。

6 SiteScope サーバへのログ・ポリシーのインストール

[HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスの [HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルで、[ポリシーのインストール] をクリックします。事前に設定されたログ・ファイル・ポリシーがエージェント上にインストールされ、署名されます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。

7 接続状態のチェックおよび SiteScope サーバからのテスト・メッセージの送信（任意）

接続に問題がある場合は、問題の分析を実行してエージェントと証明書要求の状態をチェックできます。[HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスで、[HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルを展開して [分析] をクリックします。

エージェントが HPOM 管理サーバまたは BSM サーバに接続していることをチェックするには、[HP Operations Manager 統合詳細設定] パネルを展開して、[テストメッセージ] テキスト・ボックスにメッセージを入力し、[テストメッセージ送信] をクリックします。テストが成功すると、HPOM コンソールまたは BSM のオペレーション管理イベント・ブラウザにテキスト・メッセージが表示されます。このメッセージは、基本的な `opcmmsg` ポリシー・コマンドによって生成されます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。

8 モニタ・ディスカバリを使用して統合を拡張（任意）

OM Service Navigator が OM サービス・マップに SiteScope グループおよびモニタを表示できるようにするには、< SiteScope のルート・ディレクトリ > `¥tools¥OMIntegration¥SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy` ディレクトリのファイルを使用して、HPOM でモニタ・ディスカバリ・ポリシーを手動で有効にする必要があります。

ポリシーを有効にする方法の詳細については、125 ページ「SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする 方法」を参照してください。

注：クラシック SiteScope Failover の OM イベント統合のサポートを有効にするには、99 ページ「クラシック SiteScope Failover と Operations Manager の 統合」にあるモニタ・ディスカバリ・ポリシーの設定手順を実行します。

ヒント: また、SiteScope にドリルダウン・ツールを使用して、モニタ・ディスカバリ・ポリシーによって検出され HPOM サービス・ナビゲータに追加されたモニタまたはグループ・サービスから SiteScope ユーザ・インタフェースを開くことも可能です。

- ▶ HPOM for Windows でツールを有効にする方法の詳細については、132 ページ「HPOM for Windows で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」を参照してください。
 - ▶ HPOM for UNIX/Linux/Solaris でツールを有効にする方法の詳細については、135 ページ「HPOM for UNIX/Linux/Solaris で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」を参照してください。
-

9 SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信の有効化

- a [HP Operations Manager 統合]ダイアログ・ボックスで、[HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルを展開し、[イベント送信の有効化] を選択して、SiteScope から HPOM または BSM サーバにイベントを送信できるようにします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。
- b エージェントが HPOM または BSM にイベントを送信できることをチェックするには、[HP Operations Manager 統合詳細設定] パネルを展開し、[テスト イベント送信] をクリックします。SiteScope によってテスト・イベントがログに書き込まれ、そのログがエージェントによって HPOM または BSM に送信されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合詳細設定」を参照してください。

10 標準設定のイベント重大度マッピングの使用を有効にする（任意）

[HP Operations Manager 統合詳細設定] パネルの [重大度のマッピングの標準設定] セクションで、HPOM/BSM の重大度レベルを SiteScope のモニタしきい値の状態に関連付ける重大度のマッピングの標準設定を使用できるようにします。SiteScope が BSM に接続されていない時、またはインジケータの状態および重大度の値が欠落している場合（たとえば、定義済みのトポロジを持たないモニタを使用している時）、これらのマッピングは SiteScope 警告によって起動されるイベントで送信されます。重大度のマッピングの標準設定のカスタマイズも可能です。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合詳細設定」を参照してください。

注： 共通イベント・マッピングで [重大度] 属性を変更することによりモニタ・レベルで重大度マッピングをオーバーライドできます。詳細については、122 ページのステップ 12 を参照してください。

11 モニタ・インスタンスと警告のイベントの送信の有効化 / 無効化

標準設定では、新たに作成された各モニタ・インスタンスは、各メトリック状態変更のイベントを送信するように設定されます。また、新しい警告はそれぞれ、起動時にイベントを送信するように設定されます。SiteScope の以前のバージョンからアップグレードされたモニタと警告は、イベントを送信するように設定されていません。

- ▶ 任意のモニタ・インスタンスのイベントの送信を無効にするには、選択したモニタ・インスタンスのモニタ・プロパティで [HP 統合設定] > [HP Operations Manager 統合設定] を展開して、[イベント送信] チェック・ボックスをクリアします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合設定」を参照してください。
- ▶ 警告のイベントの送信を無効にするには、[新規警告] または [警告の編集] ダイアログ・ボックスで [HP Operations Manager 統合設定] パネルを展開して、[イベント送信] チェック・ボックスをクリアします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合設定」を参照してください。

注： [イベント送信] 設定は，[HP Operations Manager 統合プリファレンス] の [HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルで [イベント送信の有効化] が選択されている場合にのみアクティブになります。

12 モニタと警告のイベント・マッピングの設定（任意）

モニタ・インスタンスと警告は，イベントが起動されたときに使用する共通イベント・マッピングに割り当てられます。これは SiteScope ランタイム・データと送信されるイベントの属性値との間のマッピングです。

モニタまたは警告に関連付けられた標準設定のイベント・マッピングを使用するか，異なるイベント・マッピングを選択するか（存在する場合），[プリファレンス] > [共通イベント マッピング] で新規イベント・マッピングを作成できます。あるいは，警告の場合，その警告を起動したモニタに関連付けられたイベント・マッピング・テンプレートを使用できます。

次の場合にイベント・マッピング・テンプレートを選択します。

- ▶ 11.11 より前のバージョンの SiteScope で，モニタの [プロパティ] タブ > [HP 統合設定] > [HP Operations Manager 統合設定] > [HP Operations Manager 統合メイン設定] から，または SiteScope 11.11 以降の [HP 統合設定] > [イベント マッピング] 設定からモニタ・インスタンスを設定する場合。
- ▶ [警告] タブ > [新規警告] / [警告の編集] > [HP Operations Manager 統合設定] > [イベント マッピング] から警告を設定する場合。

共通イベント・マッピングのユーザ・インターフェースの詳細については，SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「 [新規イベント マッピング] / [イベント マッピングの編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

13 結果

モニタ・メトリックスの状態の変更または警告が SiteScope で起動されると、[共通イベント マッピング] でそのモニタ・インスタンスまたは警告用に指定されている形式で、ログ・ファイルにイベントが書き込まれます。

エージェントによって、ログ・ファイルの監視とイベントの作成が実行され、HPOM または BSM に送信されます。イベントは、HPOM のイベント・コンソール、またはオペレーション管理イベント・ブラウザの BSM に表示されます (イベント管理ファウンデーションのライセンスがある場合)。BSM のインストールにオペレーション管理が含まれていない場合は、CI のステータスに影響するイベントをサービス状況の状況インジケータを使って確認できます。

HP Operations Agent を異なる HPOM または BSM サーバに再接続する方法

次のいずれかによって、HP Operations Agent を異なる HPOM 管理サーバまたは BSM サーバに再接続できます。

- ▶ HP Operations Agent をインストールおよび再インストールする。
- ▶ HP Operations Agent を異なるサーバにリダイレクトする。

注: このタスクは高度なタスクのうちの 1 つです。詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。

HP Operations Agent をインストールおよび再インストールには、次の手順を実行します。

- 1 SiteScope で、[プリファレンス] > [統合プリファレンス] を選択し、HP Operations Manager 統合を削除します。
- 2 SiteScope 設定ツール ([スタート] > [プログラム] > [HP SiteScope] > [設定ツール]) を開き、[HP Operations Agent] オプションを選択し、HP Operations Agent をアンインストールします。
- 3 SiteScope 設定ツールを開き、[HP Operations Agent] オプションを選択して、HP Operations Agent をインストールします。
- 4 SiteScope で、接続する新しい HPOM/BSM サーバとの HP Operations Manager 統合を設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注：HPOM サーバに再接続した後で、イベントが HPOM に送信されるまで時間がかかる場合があります。HPOM サーバ、HP Operations Agent、または両方の再起動によって修正されます。

HP Operations Agent を異なるサーバにリダイレクトするには、次の手順を実行します。

注：通常はホスト名と IP アドレスの変更を含む HP Operations Agent によってマシンを複製する場合は、以下の手順 1 から開始するか、または手順 4 から開始します。

- 1 HP Operations Agent がインストールされている SiteScope サーバで、コマンド `ovcoreid -create -force` を使用して新しいコア ID を作成します。
- 2 `ovcert -list` を実行して証明書を削除します。出力のすべての ID で、コマンド `ovcert -remove id` を実行します。
- 3 次のコマンドを実行することによって `xpl` 設定変数 `OPC_NODENAME` を適合させます。`ovconfchg -ns eaagt -set OPC_NODENAME hostname`
- 4 次のコマンドを実行することによって新しいサーバ・ホスト名とコア ID を設定します。

```
ovconfchg -ns sec.cm.client -set CERTIFICATE_SERVER <new OM server>
ovconfchg -ns sec.core.auth -set MANAGER <new OM server>
ovconfchg -ns sec.core.auth -set MANAGER_ID <new OM server ovcoreid>
ovconfchg -ns eaagt.lic.mgrs -set general_licmgr <新しい OM サーバ名>
ovconfchg -ns sec.cm.certificates -set CERT_INSTALLED FALSE
```
- 5 次のコマンドを実行することによって HP Operations Agent を再起動します。

```
ovc -kill
ovc -start
```
- 6 `ovcert -certreq` を実行して新しい証明書要求を作成します。
- 7 HPOM/BSM ゲートウェイ・サーバで証明書要求を付与します（分散 BSM の場合には、データ処理サーバで証明書要求を付与します）。

- 8 SiteScope で、[HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスを開き、[HP Operations Manager 統合メイン設定] パネルで次を実行します。
- ▶ [HP Operations Manager / BSM サーバ] ボックスで HPOM/BSM サーバの名前または IP アドレスを変更します。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合メイン設定」を参照してください。
 - ▶ [ポリシーのインストール] ボタンをクリックしてログ・ポリシーをインストールします。

注：HPOM サーバに再接続した後で、イベントが HPOM に送信されるまで時間がかかる場合があります。HPOM サーバ、HP Operations Agent、または両方の再起動によって修正されます。

SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする方法

このタスクでは、HPOM サービス・ナビゲータが HPOM サービス・マップに SiteScope グループおよびモニタを表示できるようにすることによって、HPOM との SiteScope 統合を拡張する方法を説明します。

注：

- ▶ このタスクは高度なタスクのうちの 1 つです。詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。
 - ▶ HPOM 9.0 for Windows 64 ビット・コンソールはサービス・ツリー・ビューをサポートしません。ツリー・ビューは左側の表示枠で利用できますが、右のサービス・マップでは利用できません。
 - ▶ クラシック SiteScope Failover の OM イベント統合のサポートを有効にするには、99 ページ「クラシック SiteScope Failover と Operations Manager の統合」にあるモニタ・ディスカバリ・ポリシーの設定手順を実行します。
-

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 126 ページ「ポリシー・ファイルの **instrumentation** フォルダへのコピー」
- ▶ 127 ページ「ポリシーの HPOM サーバへのアップロード (HPOM for Windows サーバの場合)」
- ▶ 128 ページ「ポリシーの HPOM サーバへのアップロード (HPOM for Linux, UNIX, Solaris 9.x サーバの場合)」
- ▶ 128 ページ「スケジュール間隔の設定」
- ▶ 129 ページ「ポリシーのデプロイ」
- ▶ 130 ページ「モニタ・ディスカバリ・ポリシーの手動による実行 (任意)」
- ▶ 131 ページ「HPOM から SiteScope ユーザ・インタフェースへのドリルダウン (任意)」
- ▶ 131 ページ「トラブルシューティング」

1 ポリシー・ファイルの **instrumentation** フォルダへのコピー

SiteScope サーバで：

- ▶ Windows の場合：**discoverSiteScope.bat** ファイルを <SiteScope のルート・ディレクトリ>¥integrations¥om¥bin フォルダから %OvDataDir%¥bin¥instrumentation フォルダにコピーします。
- ▶ Linux, UNIX, Solaris の場合：すべてのファイルを /opt/HP/SiteScope/integrations/om/bin/* から /var/opt/OV/bin/instrumentation フォルダにコピーします。

注：すべての関連するポリシー・ファイルは、< SiteScope ルート・ディレクトリ> ¥tools¥OMIntegration¥SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy¥SiS_Discovery_policy_3.0 フォルダにあります。

2 ポリシーの HPOM サーバへのアップロード (HPOM for Windows サーバの場合)

前提条件 :

- ▶ HPOM for Windows 8.16 (または同等のパッチ済み 8.10 サーバ) または 9.10, および十分なユーザ権限 (通常は管理者)。
- ▶ すべてのアップロードは、通常環境パス内にある HPOM for Windows コマンド・ライン・ツール, **ovpmutil** を使用して実行されます。

ポリシーを HPOM サーバにアップロードするには、次の手順を実行します。

- a コマンド・プロンプトを開き, SiteScope Discovery 3.0 サーバ・コンポーネントが配置されているフォルダにナビゲートします。たとえば, C:¥temp¥SiS_Discovery_3.0:

```
cd C:¥temp¥SiS_Discovery_3.0¥ForServer
```

- b **ovpmutil** を使用してサービス・モデルをアップロードします。

```
ovpmutil cfg svt upl .¥DiscoverSiteScope.mof
```

サービス・モデルは HPOM サービス・タイプ設定エディタに表示されます ([**アプリケーション サービス**] > [**SiteScope**] の下にある)。

- c **ovpmutil** と次の指定されたインデックス・ファイルを使用して SiteScope モニタ・ディスカバリをアップロードします。

```
ovpmutil cfg pol upl .¥PolicyConfig_77BFF2F6-38BD-45B3-BEA9-E237C55F7877.xml
```

これでポリシーは, [**ポリシー管理**] > [**ポリシー グループ**] の下にある HPOM サーバ・ポリシー・リポジトリで利用可能となりました。

3 ポリシーの HPOM サーバへのアップロード (HPOM for Linux, UNIX, Solaris 9.x サーバの場合)

- a HPOM サービス・モデルを HPOM 管理サーバにアップロードします。コマンド・シェルを開き、次を入力します。

```
/opt/OV/bin/OpC/utills/mof_cfgupld.sh /opt/HP/SiteScope/tools/¥
```

```
OMIntegration/SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy/¥
```

```
SiS_Discovery_policy_3.0/ForServer/DiscoverSiteScope.mof
```

(.mof ファイルは < SiteScope > /tools/OMIntegration/
SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy/SiS_Discovery_policy_3.0/ForServer
フォルダに配置されています)。

- b コマンド・シェルに次を入力してポリシーをアップロードします。

```
/opt/OV/bin/OpC/utills/opcpolicy -upload dir=/opt/HP/SiteScope/¥
```

```
tools/OMIntegration/SiteScopeMonitorDiscoveryPolicy/¥
```

```
SiS_Discovery_policy_3.0/ForServer
```

- c コマンド・シェルに次を入力してポリシーをノードに割り当て、SiteScope ノードにデプロイします。

```
# /opt/OV/bin/OpC/utills/opcnode -assign_pol node_name=<NODENAME>  
net_type=NETWORK_IP pol_name="SiteScope Discovery"  
pol_type=svcdisc
```

4 スケジュール間隔の設定

HPOM for Windows コンソールで、HPOM エージェントで SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを実行するためのスケジュール間隔を設定できます。

- a [ポリシー管理] > [ポリシー グループ] > [SiteScope ディスカバリ] を選択します。右ペインで、[SiteScope ディスカバリ] を右クリックして [すべてのタスク] > [編集] を選択します。

- b サービス自動ディスカバリ・ポリシー・エディタで、[スケジュール] タブを選択し、HPOM for Windows コンソールで HPOM エージェントで SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを実行するための間隔を指定します。

5 ポリシーのデプロイ

前提条件：

- ▶ 統合される SiteScope サーバは HPOM 管理対象ノードとして設定されます。
- ▶ HP Operations Agent が実行中で接続されています（詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください）。
- ▶ 証明書が付与されています（詳細については、HPOM ドキュメントの「環境の管理」の「管理対象ノードの設定」を参照してください）。
- ▶ SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーが **SiteScope Discovery** ポリシー・グループにアップロードされています（詳細については、127 ページのステップ 2 または 128 ページのステップ 3 を参照してください）。

HPOM for Linux, UNIX, Solaris 9.x サーバのポリシーをデプロイするには、次の手順を実行します。

コマンド・シェルを開き、次を入力します。# `opcragt -dist <NODENAME>`

HPOM for Windows サーバのポリシーをデプロイするには、次の手順を実行します。

- a** [SiteScope ディスカバリ] ポリシーを右クリックして、[すべてのタスク] > [デプロイ] を選択します。
- b** [デプロイ・ポリシー] ダイアログ・ボックスで、利用可能な管理対象ノードから SiteScope Server OM ノードを選択し、[OK] をクリックします。デプロイメント ステータスが OM コンソールの [Deployment jobs] に表示されます。
- c** ノードのポリシー詳細リストを表示するには、Nodes の下の SiteScope Server OM ノードを右クリックして、[表示] > [ポリシー詳細リスト] を選択します。
- d** ポリシー詳細リストが右ペインに表示され、ノードにデプロイされたすべてのポリシーを示します。

6 モニタ・ディスカバリ・ポリシーの手動による実行（任意）

テストまたはデバッグのために、ディスカバリを手動で実行すると役に立ちます。これは、ポリシーが実行されている SiteScope サーバ HPOM エージェント・ノードで **ovagtrep** コマンド・ライン・ツールを使用して実行できます。これを実行するには、次のコマンドを実行します。

- a** ポリシーの実行を強制するには、次のコマンドを実行します。

```
ovagtrep -run "SiteScope ディスカバリ "
```

- b** サーバへの送信を強制するには、次のコマンドを実行します。

```
ovagtrep -publish
```

- c** トラブルシューティングには、%OvDataDir%\log フォルダの System.txt ファイルを使用します。

7 HPOM から SiteScope ユーザ・インタフェースへのドリルダウン (任意)

また、SiteScope にドリルダウン・ツールを使用して、モニタ・ディスカバリ・ポリシーによって検出され HPOM サービス・ナビゲータに追加されたモニタまたはグループ・サービスから SiteScope ユーザ・インタフェースを開くことも可能です。

HPOM for Windows でツールを有効にする方法の詳細については、132 ページ「HPOM for Windows で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」を参照してください。

HPOM for UNIX/Linux/Solaris でツールを有効にする方法の詳細については、135 ページ「HPOM for UNIX/Linux/Solaris で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法」を参照してください。

8 トラブルシューティング

トラブルシューティングでは、次のファイルをチェックできます。

- ▶ < SiteScope サーバ > %OvDataDir%\log フォルダにある System.txt ファイル (Linux の場合 : < SiteScope サーバ > /var/opt/OV/log)。
- ▶ エージェントが確認している検出済みインスタンスを表示するための < SiteScope サーバ > %OvDataDir%\datafiles フォルダにある agtrep.xml ファイル (Linux の場合 : < SiteScope サーバ > /var/opt/OV/datafile)。
- ▶ HPOM サーバが何を受信するかを表示するための < HPOM サーバ > %OvShareDir%\server\log\%OvSvcDiscServer.log。

HPOM for Windows で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法

このタスクでは、HPOM for Windows 管理サーバで SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法を説明します。このツールによって、モニタ・ディスカバリ・ポリシーによって検出され、HPOM サービス・ナビゲータに追加されたモニタまたはグループ・サービスから SiteScope ユーザ・インタフェースを開けます。

注: このタスクは高度なタスクのうちの 1 つです。詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 132 ページ「前提条件」
- ▶ 133 ページ「HPOM for Windows サーバへの SiteScope にドリルダウン・ツールのインストール」
- ▶ 133 ページ「ツールを SiteScope サービスとの関連付け」
- ▶ 133 ページ「ツールの起動 (SiteScope サービスから)」
- ▶ 134 ページ「ツールの起動 (ツール・リポジトリから)」

1 前提条件

モニタ・ディスカバリ・ポリシーを HPOM の SiteScope サーバ・ノードで有効化およびデプロイする必要があります。

タスクの詳細については、125 ページ「SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする方法」を参照してください。

2 HPOM for Windows サーバへの SiteScope にドリルダウン・ツールのインストール

- a HPOM for Windows サーバ・マシンに管理者としてログオンします。
- b `drillDownToSiteScope.vbs` ファイルを `< SiteScope ルート > %tools%\OMIntegration%\DrillDownTool\ForOMW` フォルダから `¥¥<HPOM server>%SPI-Share%SiteScope` にコピーします。
- c SiteScope にドリルダウン・ツールを HPOM サーバにアップロードします。
 - ▶ `tls_drillDownToSIS.mof` ファイルを `< SiteScope ルート > %tools%\OMIntegration%\DrillDownTool\ForOMW` フォルダから HPOM サーバ・マシン上の任意のフォルダ (`<tls path>`) にコピーします。
 - ▶ コマンド・ラインを開き、次のコマンドを実行します。

```
>> ovpmutil cfg tls upl <tls path>%tls_drillDownToSIS.mof
```
- d SiteScope にドリルダウン・ツールは、`[ツール] > [SiteScope ツール]` の下にある HPOM サーバで利用できます。

3 ツールを SiteScope サービスとの関連付け

- a HPOM for Windows コンソールで、サービス・タイプ設定エディタを開き、`[アプリケーション サービス] > [SiteScope]` を選択して、`[プロパティ]` をクリックします。
- b `[SiteScope プロパティ]` ダイアログ・ボックスで、`[ツール]` タブをクリックして、`[SiteScope ツール]` を選択し、次に `[OK]` をクリックします。

4 ツールの起動 (SiteScope サービスから)

- a HPOM for Windows コンソールで、表示する SiteScope サービス (SiteScope モニタ、グループ、またはサーバ・サービス) を右クリックし、`[すべてのタスク] > [ツールの起動]` を選択します。
- b `[SiteScope にドリルダウン]` ツールを選択し、`[起動]` をクリックします。
- c SiteScope ユーザ・インタフェースが開いて、選択されたモニタ、グループ、標準設定のダッシュボード・ビューが表示されます (SiteScope サーバ・サービスが選択された場合)。

5 ツールの起動（ツール・リポジトリから）

- a HPOM for Windows コンソールで、[ツール] > [SiteScope ツール] を展開します。右ペインで、[SiteScope にドリルダウン] を右クリックして [すべてのタスク] > [ツールの起動] を選択します。
- b [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスで、表示するモニタ、グループ、または SiteScope サーバ・サービスを選択し、[起動] をクリックします。
- c SiteScope ユーザ・インタフェースが開いて、選択されたモニタ、グループ、標準設定のダッシュボード・ビューが表示されます（SiteScope サーバ・サービスが選択された場合）。

HPOM for UNIX/Linux/Solaris で SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法

このタスクでは、HPOM for UNIX/Linux/Solaris 管理サーバで SiteScope にドリルダウン・ツールを有効にする方法を説明します。このツールによって、イベントから、またはモニタ・ディスカバリ・ポリシーによって検出され、HPOM サービス・ナビゲータに追加されたモニタまたはグループ・サービスから SiteScope ユーザ・インタフェースを開けます。

注：このタスクは高度なタスクのうちの 1 つです。詳細については、113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」を参照してください。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 135 ページ「前提条件」
- ▶ 136 ページ「HPOM for UNIX/Linux/Solaris サーバへの SiteScope にドリルダウン・ツールのインストール」
- ▶ 137 ページ「ツールの起動 (SiteScope サービスから)」
- ▶ 137 ページ「ツールの起動 (イベントから)」

1 前提条件

モニタ・ディスカバリ・ポリシーを HPOM の SiteScope サーバ・ノードで有効化およびデプロイする必要があります。

タスクの詳細については、125 ページ「SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリシーを有効にする方法」を参照してください。

2 HPOM for UNIX/Linux/Solaris サーバへの SiteScope にドリルダウン・ツールのインストール

- a HPOM for UNIX/Linux/Solaris サーバ・マシンに管理者としてログオンします。
- b コマンド・シェルを開いて、次を入力して新しいディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /opt/OV/newconfig/SiteScope
```
- c 次のように入力して、SiteScope ディレクトリに変更します。

```
cd /opt/OV/newconfig/SiteScope
```
- d **DrillDownToSIS.tar** ファイルを < SiteScope ルート > %tools%\OMIntegration%\DrillDownTool%\ForOMX フォルダから HPOM サーバ・マシン上の /opt/OV/newconfig/SiteScope にコピーします。
- e 次を入力して .tar ファイルを現在のディレクトリに抽出します。

```
# cd /opt/OV/newconfig/SiteScope  
# tar -xvf DrillDownToSIS.tar
```
- f 次を入力して、SiteScope にドリルダウン・ツールを HPOM サーバにアップロードします。

```
# cd /opt/OV/bin/OpC/  
opccfgupld -replace -subentity /opt/OV/newconfig/SiteScope/  
DrillDownToSIS
```
- g SiteScope にドリルダウン・ツールは、[参照] > [すべてのツール グループ] の下の HPOM 管理者ユーザ・インタフェースで利用できます。
- h [SiteScope にドリルダウン] ツールを **opc_adm** ユーザに割り当てます。
 - ▶ [アクション] > [ユーザ / プロファイルに割り当て ...] をクリックします。
 - ▶ [すべてのユーザ] > [opc_adm] を選択して [OK] をクリックします。
- i [ファイル] > [設定の再ロード] を選択して HPOM ユーザ・インタフェースを更新します。
- j [SiteScope にドリルダウン] ツールは、[ツール] > [SiteScope にドリルダウン ツール] の下にある HPOM サーバで利用できます。

3 ツールの起動 (SiteScope サービスから)

- a HPOM 管理者ユーザ・インタフェースで、SiteScope サービス (サーバ、グループ、またはモニタ) を右クリックして、[スタート] > [ツール] > [SiteScope にドリルダウン ツール] > [SiteScope にドリルダウン サービス] を選択し、選択されたサービス・タイプに応じてツールを選択します。
- b SiteScope ユーザ・インタフェースが開いて、選択されたモニタ、グループ、または標準設定の SiteScope ダッシュボード ビューが表示されます。

4 ツールの起動 (イベントから)

- a HPOM 管理者ユーザ・インタフェースで、イベントを右クリックして、[スタート] > [SiteScope にドリルダウン ツール] > [SiteScope にドリルダウン イベント] を選択します。
- b SiteScope ユーザ・インタフェースが開いて、イベントを送信する選択したモニタが表示されます。

SiteScope から HP Operations Agent にメトリックスをレポートできるようにする方法

注: 本項は、SiteScope 11.00 以降 を BSM のオペレーション管理と接続するか、HP Performance Manager 9.0 以降に接続するユーザのみを対象としており、HP Operations Agent を使用している場合にのみ該当します。

このタスクでは、SiteScope を使用して HPOM および BSM 管理製品にメトリックス・データをレポートする方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 138 ページ「前提条件」
- ▶ 139 ページ「HP Operations Agent の SiteScope サーバへのインストール」
- ▶ 139 ページ「SiteScope からのメトリックスの送信の有効化」
- ▶ 140 ページ「モニタ・インスタンスからのメトリックス送信の有効化」
- ▶ 140 ページ「結果」

1 前提条件

- ▶ SiteScope の管理者または「**統合プリファレンスの編集**」権限を付与されたユーザのみが、このタスクを実行する権限があります。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「ユーザ管理プリファレンス」を参照してください。
- ▶ Performance Manager 管理者は、SiteScope インスタンスがデータをログ記録する SiteScope ノードに接続するように Performance Manager を設定する必要があります。詳細については、Performance Manager のマニュアルを参照してください。

2 HP Operations Agent の SiteScope サーバへのインストール

SiteScope のインストール中またはインストール後に、SiteScope インストール・メディアから HP Operations Agent をインストールできます。このエージェントによって、SiteScope は、SiteScope で収集されたメトリックス・データのデータ・ストレージとして機能します。

エージェントのインストールの詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』(PDF) の「インストール・ウィザードを使用してインストール」を参照してください。

3 SiteScope からのメトリックスの送信の有効化

[プリファレンス] > [統合プリファレンス] で、既存の Operations Manager 統合を選択するか、[HP Operations Manager 統合] をクリックして新しい統合を作成します。[HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスで、[HP Operations Manager 測定値統合] パネルを展開し、[HP Operations Manager 測定値統合の有効化] を選択します。

注：HP Operations Manager とのメトリックス統合は、HP Operations Agent と HPOM サーバまたは BSM サーバとの接続状態に関係なく、有効化されません。これは、メトリックスがエージェントによって収集されるためです。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 測定値統合」を参照してください。

4 モニタ・インスタンスからのメトリックス送信の有効化

メトリックス・データをエージェント・データ・ストレージにレポートする各モニタ・インスタンスごとに、モニタ・プロパティの **[HP 統合設定]** を展開し、**[HP Operations Manager 統合設定]** セクションの **[HP Operations Agent へのメトリックのレポート]** を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「HP Operations Manager 統合設定」を参照してください。

ヒント: 各モニタ・インスタンスのモニタ・プロパティで **[HP Operations Agent へのメトリックのレポート]** を選択することなく、すべてのメモリ、CPU、ディスク領域、Windows リソースについてメトリックスのレポートを有効にできます。これを実行するには、**[統合プリファレンス]** > **[HP Operations Manager 統合]** > **[HP Operations Manager 測定値統合]** パネルで、**[特定モニタのメトリックス レポートの有効化]** ボタンをクリックします。

5 結果

各モニタのメトリックスは、SiteScope ホスト・ノードのエージェントによって、時間とホストのインスタンス識別を含めたインスタンスとしてログに記録されます。メトリックス・データは HPOM および BSM によってエージェントのデータ・ストレージから収集され、レポート製品で使用できます。

測定値エラー・データは、**< SiteScope のルート・ディレクトリ > %logs ディレクトリ**にある **oa_metric_integration.log** ファイルに書き込まれます。ログ・ファイルの使用方法の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[ログ ファイル] ページ」を参照してください。

参照情報

SiteScope と Operations Agent 間のメトリックスの整合

メトリックス名の整合は、SiteScope のメトリックス名を、Operations Manager の Performance Agent (PA) で使用される名前と対応付けるプロセスです。メトリックス名の整合は、次に示すよく使用されるメトリックスについて実行されています。

注： Performance Agent で提供されるメトリックスの詳細については、Performance Agent 5.0 ドキュメント (http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM864772/binary/PA5_MetricHelpView.html?searchIdentifier=-65c7a852:127e60d1b54:6921&resultType=document) の HP Performance Agent Metric Help Viewer を参照してください。HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報を利用するには、HP Passport ID を使ってログオンする必要があります。

PA メトリックス名 (表示名)	SiteScope メトリックス名
BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL (CPU 使用率合計)	Windows : ▶ CPU モニタ : ¥utilization (cpu #1, cpu #2 など) ▶ Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Processor¥{ インスタンス }¥ Processor Time Linux : UNIX リソース・モニタ ¥Processor¥ {インスタンス }¥System HP-UX : N/A Solaris : N/A AIX : UNIX リソース・モニタ ¥Processor¥{ インスタンス }¥%sys

第 3 章 • HP Operations Agent を使用した Operations Manager と BSM での作業

PA メトリックス名 (表示名)	SiteScope メトリックス名
BYNETIF_IN_BYTE_RATE (受信 KB 速度)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Network Interface¥{ インスタンス }¥Bytes Received¥sec Linux : UNIX リソース・モニタ ¥Network Interface¥ReceiveBytes HP-UX : N/A Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥Network Interface¥obytes AIX : N/A
BYNETIF_OUT_BYTE_RATE (送信 KB 速度)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Network Interface¥{ インスタンス }¥Bytes Sent¥sec Linux : UNIX リソース・モニタ ¥Network Interface¥TransmitBytes HP-UX : N/A Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥Network Interface¥rbytes AIX : N/A
BYDSK_PHYS_READ_BYTE_RATE (物理的な読み取り KB 速度)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Physical Disk¥{ インスタンス }¥% Disk Read Bytes¥sec Linux : N/A HP-UX : N/A Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥PhysicalDisk¥nread AIX : N/A
BYDSK_PHYS_WRITE_BYTE_RATE (物理的な書き込み KB 速度)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Physical Disk¥{ インスタンス }¥% Disk Write Bytes¥sec Linux : N/A HP-UX : N/A Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥PhysicalDisk¥nwritten AIX : N/A
BYDSK_REQUEST_QUEUE (要求キュー)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Physical Disk¥{ インスタンス }¥Avg. Disk Queue Length Linux : N/A HP-UX : N/A Solaris : N/A AIX : N/A

PA メトリックス名 (表示名)	SiteScope メトリックス名
BYDSK_UTIL (ディスク %)	<p>Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Physical Disk¥{ インスタンス }¥% Disk Time</p> <p>Linux : N/A</p> <p>HP-UX : UNIX リソース・モニタ ¥Block device activity¥ <デバイス>¥%busy</p> <p>Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥Block device activity¥ <デバイス>¥%busy</p> <p>AIX : UNIX リソース モニタ ¥Block device activity¥ <デバイス>¥%busy</p>
FS_SPACE_UTIL (容量 %)	<p>Windows : ディスク容量モニタ ¥percent full</p> <p>Linux : ディスク容量モニタ ¥percent full</p> <p>HP-UX : ディスク容量モニタ ¥percent full</p> <p>Solaris : ディスク容量モニタ ¥percent full</p> <p>AIX : ディスク容量モニタ ¥percent full</p>
GBL_CPU_TOTAL_UTIL (CPU %)	<p>Windows :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ CPU モニタ ¥utilization (avgas) ▶ Microsoft Windows リソース・モニタ : ¥Processor¥_Total¥ % Processor Time <p>Linux : UNIX リソース・モニタ ¥Processor¥Total¥System</p> <p>HP-UX : N/A</p> <p>Solaris : N/A</p> <p>AIX : UNIX リソース・モニタ ¥Processor¥Total¥%sys</p>
GBL_MEM_PAGEOUT_RATE (ページ書き出し速度)	<p>Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ ¥Memory¥Pages Output/sec</p> <p>Linux : N/A</p> <p>HP-UX : N/A</p> <p>Solaris : UNIX リソース・モニタ ¥Page-out memory and memory freeing activities¥ppgout/s</p> <p>AIX : N/A</p>

第3章 • HP Operations Agent を使用した Operations Manager と BSM での作業

PA メトリックス名 (表示名)	SiteScope メトリックス名
GBL_MEM_UTIL (メモリ %)	Windows : メモリ・モニタ %percent used Linux : メモリ・モニタ %percent used HP-UX : メモリ・モニタ %percent used Solaris : メモリ・モニタ %percent used AIX : N/A
GBL_SWAP_SPACE_UTIL (スワップ %)	Windows : Microsoft Windows リソース・モニタ %Memory% % Committed Bytes In Use Linux : N/A HP-UX : N/A Solaris : N/A AIX : N/A

SiteScope-Operations Manager メトリックス統合のサイズ設定の推奨事項

標準設定の SiteScope 設定によって数千のモニタを実行できるようにする時に、SiteScope-HPOM 測定値統合内に保存可能なモニタ、メトリックス、およびモニタ・タイプの最大数を計画する場合にサイズ設定は重要です。

サイズ設定は次を超えないようにしてください。

- ▶ 最大挿入率 / 分, 1000 メトリックス。
- ▶ 合計保存容量, 1 GB。
- ▶ 合計保存期間, 5 週間。

定義

以下の検証計算で使用される用語の定義は次の通りです。

- ▶ **モニタ** : HPOM Performance Manager にメトリックスをレポートするモニタ数。
- ▶ **メトリックス** : HPOM Performance Manager にレポートする上記のモニタのメトリックスの平均数。
- ▶ **頻度** : 上記のモニタがデータを統合に提供する平均頻度。

検証

特定の SiteScope モニタおよびメトリックスを選択して SiteScope-HPOM 測定値統合内に保管する時は、挿入率と保存率が推奨を超えていないことを検証する必要があります。検証には以下の数式を使用できます。

▶ **サポートされる挿入率の検証：**

$$(\text{モニタ} * \text{メトリックス}) / \text{頻度} \leq 1000 \text{ メトリックス / 分}$$

▶ **サポートされる保存期間の検証：**

$$(1000 \text{ MB}) / ((\text{モニタ} * \text{メトリックス} / \text{頻度}) * 0.07 \text{ MB}) = 1 \text{ 日の設定された保存期間 (最大保存期間の 5 週間未満でなければならない)}$$

0.07 MB は 1 日あたりの各メトリックス / 分の保管サイズです。

例

HPOM 測定値統合を使用してデータをレポートするモニタ数が 2500 であり、すべてのモニタに 4 メトリックスあり、これらのモニタの頻度は 10 分ごとで、平均メトリックス保管サイズ / 日が 0.07 MB の場合、14 日間の履歴データを保管できます。

検証の計算：

▶ **挿入率の検証：**

$$(2500 \text{ モニタ} * 4 \text{ メトリックス}) / 10 \text{ 分} = 1000 \leq 1000 \text{ メトリックス / 分}$$

▶ **保存期間の検証：**

$$1000 \text{ MB} / (((2500 * 4 \text{ メトリックス}) / 10 \text{ 分}) * 0.07 \text{ MB}) = 14.28 \text{ 日} \\ (<= 5 \text{ 週間})$$

4

Network Node Manager i (NNMi) との連携

本章の内容

概念

- ▶ NNMi への SiteScope イベントの送信 (148 ページ)
- ▶ NNMi へのメトリックスのレポート (150 ページ)

タスク

- ▶ NNMi にイベント・データを送信するための SiteScope の設定方法 (151 ページ)
- ▶ メトリックス・データを NNMi にレポートするための SiteScope の設定方法 (154 ページ)

参照情報

- ▶ NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式 (158 ページ)
- ▶ NNMi にレポートされる SiteScope モニタ・メトリックス (161 ページ)
- ▶ トラブルシューティングおよび制限事項 (163 ページ)

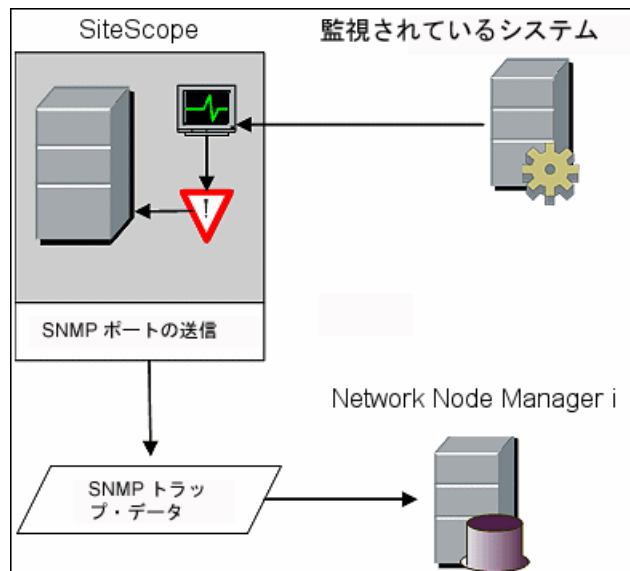
概念

NNMi への SiteScope イベントの送信

SiteScope は、ネットワークの監視に使用されるイベント・コンソール、Network Node Manager i (NNMi) のデータ・コレクタとして使用できます。SiteScope は NNMi が監視しているシステムのアプリケーション側を監視し、SNMP トラップ警告を使ってイベント・データをすべての種類の SiteScope モニタから NNMi に転送します。SiteScope のイベントは、SiteScope のモニタ測定値の状態の変更と起動された警告に基づきます。

SiteScope が SNMP トラップを NNMi に送信し、そのトラップは NNMi インシデントに変換されます。変換されたインシデントから、NNMi コンソール・ユーザは (NNMi サーバに送信された SNMP トラップ形式の URL を使用して) そのモニタのコンテキストで SiteScope を起動できます。NNMi サーバにメッセージを送信する SiteScope オブジェクトの特定に使用される SNMP トラップ形式の一覧については、158 ページ「NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式」を参照してください。

次に、SiteScope を NNMi のイベント・データ・コレクタとして使用した図を示します。



SiteScope で NNMi にイベント・データを送信できるようにするには、SiteScope を NNMi のデータ・コレクタとして設定する必要があります。これには、SNMP トラップのレポート先のサーバの SNMP プリファレンスを設定し、SNMP トラップ警告を作成して、NNMi にレポートするモニタに割り当てる作業も含まれます。

イベントを送信するための SiteScope の設定の詳細については、151 ページ「NNMi にイベント・データを送信するための SiteScope の設定方法」を参照してください。

対応バージョン

- ▶ SiteScope バージョン 11.10 以降
- ▶ NNMi バージョン 9.10 以降

対応ハードウェア・プラットフォームおよびオペレーティング・システムの最新情報については、すべての製品のサポート・マトリックスを参照してください。

NNMi へのメトリックスのレポート

SiteScope は NNMi にメトリックス・データもレポートできます。SiteScope を有効化しメトリックをレポートするには、一般データの統合が SiteScope サーバ上で設定されている必要があります。SiteScope NNMi メトリックス統合では、SiteScope モニタによって収集されたシステム・メトリックス・データを使って、NNM iSPI Performance for Metrics の Network Performance Server (NPS) を設定します。

対応バージョン

- ▶ SiteScope バージョン 11.10 以降
- ▶ NNMi バージョン 9.10 以降
- ▶ NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 9.10 以降

対応ハードウェア・プラットフォームおよびオペレーティング・システムの最新情報については、すべての製品のサポート・マトリックスを参照してください。

サポートされている SiteScope モニタ

SiteScope がすべてのモニタ・タイプをレポートする一方で、NNMi では次の SiteScope モニタ・タイプからのデータのみを認識し、NPS で使用するよう転送します。

- ▶ CPU 使用率モニタ
- ▶ ディスク容量モニタ
- ▶ メモリ・モニタ
- ▶ Microsoft Windows リソース・モニタのプロセス監視オブジェクト
- ▶ UNIX リソース・モニタのプロセス監視オブジェクト

監視されているノードは NNMi で管理される必要があります。この統合では、NNMi トポロジに存在しないノードまたは管理されていないノードのデータは破棄されます。

NNM と通信するために SiteScope を設定する方法の詳細については、154 ページ「メトリックス・データを NNMi にレポートするための SiteScope の設定方法」を参照してください。

SiteScope と通信するための NNMi の設定方法の詳細については、NNMi 製品メディアに含まれる『NNMi デプロイメント リファレンス』を参照してください。

タスク

NNMi にイベント・データを送信するための SiteScope の設定方法

このタスクでは、NNMi にイベント・データを送信するために SiteScope を設定する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 151 ページ「NNMi サーバに SNMP トラップをレポートするための SNMP プリファレンスの作成」
- ▶ 152 ページ「NNMi にイベントを送信する SiteScope 警告の設定」
- ▶ 153 ページ「結果」

1 NNMi サーバに SNMP トラップをレポートするための SNMP プリファレンスの作成

SiteScope で、[プリファレンス] > [SNMP プリファレンス] を選択し、次の設定を使用して、SNMP トラップのレポート先のサーバのプリファレンスを作成します。

- ▶ **SNMP トラップ ID**：[企業固有 SNMP トラップ ID] を選択し、「1」と入力します。
- ▶ **SNMP オブジェクト ID**：[事前設定 SNMP オブジェクト ID] を選択し、リストから [HP SiteScope イベント] を選択します。

必要に応じて、その他の SNMP トラップのフィールドを設定します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[新規 SNMP トラップ] / [SNMP トラップの編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

2 NNMi にイベントを送信する SiteScope 警告の設定

SiteScope 警告を作成し、モニタ状態ごとに SNMP トラップ警告アクションを設定します。

- a SiteScope モニタ・ツリーで、[SiteScope] ルートを右クリックして、[新規作成] > [警告] と選択します。
- b [警告ターゲット] 表示枠で、グループ、モニタ、またはその両方を選択し、この警告を起動します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[新規警告] / [警告の編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- c [警告アクション] 表示枠で、[新規警告アクション] をクリックし、[SNMP トラップ] アクション・タイプを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[アクションタイプ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- d [警告アクション : SNMP トラップ] ダイアログ・ボックスで、モニタの状態ごとに SNMP トラップの警告アクションを設定します。
 - ▶ [アクションタイプの設定] 表示枠で、[テンプレート] リストから [SiteScopeEvent.xml] を選択します。このテンプレートには、SNMP トラップが起動された場合に SNMP によって NNMi に送信されるメッセージの形式と内容が含まれます。このテンプレートをコピーしてカスタマイズできます。このテンプレートは、< SiteScope のルート・ディレクトリ > %templates.snmp にあります。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SNMP トラップ警告のプロパティ」を参照してください。
 - ▶ [状態トリガ] 表示枠で SNMP トラップの状態を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[状態トリガ] 表示枠」を参照してください。
 - ▶ [状態トリガ] 表示枠で、モニタ状態ごと（エラー、警告、正常、使用不能）に手順 c を繰り返します。

例：

この例は、各トリガ・ステータス（エラー、警告、正常、使用不能）の SNMP トラップ警告アクションの NNMi 警告を示しています。

一般設定

名前:

警告の説明:

警告ターゲット

警告アクション

警告アクション *

	名前	カテゴリ	いつ	スケジュール	ターゲット
	NNMi Integration-Erro...	エラー	1回のみ:1回	毎日、全日	NNMi-vmamrnd1...
	NNMi Integration-Goo...	正常	1回のみ:1回	毎日、全日	NNMi-vmamrnd1...
	NNMi Integration-War...	警告	1回のみ:1回	毎日、全日	NNMi-vmamrnd1...
	NNMi Integration-n/a ...	使用不能	1回のみ:1回	毎日、全日	NNMi-vmamrnd1...

3 結果

警告が SiteScope でモニタの状態の変更の結果として起動される場合、この警告は SNMP トラップを NNMi サーバにレポートします。NNMi が SNMP トラップを読み取り、属性を変換して、NNMi インシデント・コンソールに SiteScope イベント・データを表示します。

NNMi インシデント・コンソールの詳細については、NNMi 製品メディアに含まれる『NNMi デプロイメント リファレンス』を参照してください。

メトリックス・データを NNMi にレポートするための SiteScope の設定方法

このタスクでは、メトリックス・データを NNMi にレポートするために SiteScope を設定する方法について説明します。


このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 154 ページ「NNMi サーバでの統合の有効化」
- ▶ 154 ページ「SSL を使用して NNMi と通信するための SiteScope の設定」
- ▶ 155 ページ「NNMi サーバを特定するための検索 / フィルタ・タグの作成」
- ▶ 155 ページ「SiteScope と NNMi サーバ間の接続の設定」
- ▶ 156 ページ「NNMi サーバの SiteScope レポートに関与するモニタの設定」
- ▶ 157 ページ「結果」

1 NNMi サーバでの統合の有効化


NNMi コンソールでの NNMi メトリックス統合の設定方法の詳細については、NNMi 製品メディアに含まれる『NNMi デプロイメントリファレンス』の「HP NNMi-HP SiteScope システム メトリックス統合」を参照してください。

2 SSL を使用して NNMi と通信するための SiteScope の設定


- a SiteScope で、[プリファレンス] > [証明書管理] と選択し、[証明書のインポート] ボタン  をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[証明書のインポート] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- b [ソースの選択] で、NNMi 管理サーバを SiteScope に特定するための情報を入力します。
 - ▶ [ホスト] を選択し、NNMi 管理サーバの完全修飾ドメイン名を入力します。
 - ▶ 必要に応じて、NNMi 管理サーバの HTTPS ポートと一致するようにポート番号を変更します。

- c [読み込み] をクリックします。[読み込み済み証明書] 下に NNMi 証明書情報が表示されます。証明書の別名をメモします。
- d NNMi の証明書を選択してから、[インポート] をクリックします。インポートした証明書が [証明書管理] のキーストア・リストに一覧表示されます。

3 NNMi サーバを特定するための検索 / フィルタ・タグの作成

- a SiteScope で、[プリファレンス] > [タグの検索 / フィルタ] と選択し、[新規タグ] ボタン  をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[新規タグ] / [タグの編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- b タグ名 (たとえば、NNMi_upload) と少なくとも 1 つの値を入力します。

4 SiteScope と NNMi サーバ間の接続の設定

- a SiteScope で、[プリファレンス] > [統合プリファレンス] を選択し、[新規統合]  ボタンをクリックして、[データ統合] をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「[データ統合プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- b [一般設定] の下で、名前 (たとえば、NNMi_receiver) と詳細 (任意) を入力します。
- c [データ統合プリファレンス設定] には、次の設定が含まれます。
 - ▶ [受信者 URL] フィールドで、NNMi コンソールで統合を有効化した後に返される URL を貼り付けます (たとえば、https://NNMi_server.example.com:443/sitescope-adapter/sitescopereceiver など)。
 - ▶ [GZIP 圧縮] チェック・ボックスを選択します。
 - ▶ [追加のデータを含める] と [リダイレクトでエラー] チェック・ボックスをクリアします (これらは標準設定です)。
 - ▶ [要求された場合の認証] チェック・ボックスを選択します (これは標準設定です)。
 - ▶ [統合を無効にする] チェック・ボックスをクリアします (これは標準設定です)。
 - ▶ その他の設定については、標準設定で問題ありません。

- d [Web サーバのセキュリティ設定] で、NNMi ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。これは、NNMi コンソール内の統合設定で指定したものです。詳細については、NNMi 管理者にお問い合わせください。
- e [レポートタグ] で、手順 3 で作成した検索 / フィルタ・タグ (たとえば、NNMi_upload) を選択します。

5 NNMi サーバの SiteScope レポートに関与するモニタの設定

- a 新しいモニタを作成するか (必要に応じて) サポートされたタイプの既存のモニタを指定します。
 - ▶ CPU 使用率モニタ
 - ▶ ディスク容量モニタ
 - ▶ メモリ・モニタ
 - ▶ Microsoft Windows リソース・モニタのプロセス監視オブジェクト
 - ▶ UNIX リソース・モニタのプロセス監視オブジェクト

モニタ設定を構成します。モニタ設定の詳細については、SiteScope ヘルプの『Monitor Reference』で個々のモニタのヘルプを参照してください。

利用可能なカウンタのリストについては、161 ページ「NNMi にレポートされる SiteScope モニタ・メトリックス」を参照してください。

- b 手順 3 で作成した検索 / フィルタ・タグ (たとえば、NNMi_upload) を、データを NNMi に渡すモニタに追加します。

この統合では、NNMi トポロジ内の管理対象ノードのデータのみを処理できます。そのため、NNMi トポロジのノード上のモニタにのみタグを適用してください。

ヒント: NNMi にデータを渡すモニタを 1 つのモニタ・グループで編成することをお勧めします。

6 結果

NNM iSPI Performance for Metrics の Network Performance Server (NPS) は、SiteScope モニタによって収集されたシステム・メトリック・データを使って設定されます。

詳細については、NNMi 製品メディアに含まれる『NNMi デプロイメント リファレンス』を参照してください。

参照情報

NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式

NNMi サーバにメッセージを送信する SiteScope オブジェクトの特定に使用される SNMP トラップ形式の一覧は次のとおりです。これにより、NNMi コンソール・ユーザがこのモニタのコンテキストで SiteScope を起動できます。

SNMP トラップ形式は、**SiteScopeEvent.xml** ファイルで保存されます。このファイルは < SiteScope のルート・ディレクトリ > **¥templates.snmp** フォルダにあります。

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	詳細	値
Enterprise OID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1	SiteScope ルートのオブジェクト ID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1
Trap OID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.0	SNMP トラップのオブジェクト ID	(OID) V1 の場合： [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.0.1] V2 の場合： [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.1]
SiteScope Host	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.2	SiteScope サーバの IP アドレスまたはホスト名	(IpAddress) [16.55.244.182] または (OctetString) [sisserver.mydomain]
Provider (Collector)	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.3	SiteScope アプリケーション名	(OctetString) SiteScope
Monitor Name	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.1	SiteScope モニタ名	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
Monitor Type	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.2	SiteScope モニタ・タイプ	(OctetString) [Memory Monitor]

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	詳細	値
Monitor ID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.3	モニタ固有 ID	(OctetString) [067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]
Monitor Drill Down URL Secured	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4	サイレント・ログイン情報なしで、警告されたモニタのコンテキストで SiteScope を起動する URL。これにより、統合インスタンス・レベルごとに統合できます。 ユーザ資格情報のドリル・ダウン URL を取得するには、参照値を monitorDrilldownUrl Secured から monitorDrilldownUrl に変更します。	(OctetString) [http://sisserver:8080/SiteScope/servlet/Main?activeid=__SiteScopeRoot_&activerighttop=dashboard&view=new&dashboard_view=Details&dashboard_model=true&dashb]
Monitor Target Host	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.5	モニタ・ターゲット・ホスト	(IpAddress) [16.55.244.182] または (OctetString) [myhost.mydomain]
Monitor Target IP	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.6	モニタ・ターゲット IP アドレス	(IpAddress) [16.55.244.182]
Monitor Full Name	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.7	ルートのフル・パスを含む SiteScope モニタ名。	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
Title	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.1	SiteScope イベント・タイトル	(OctetString) [Alert 'Memory Alert' was triggered on monitor 'Memory monitor on myhost.mydomain' due to a status change]

第 4 章 • Network Node Manager i (NNMi) との 連携

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	詳細	値
Event Source	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.2	イベント (警告またはメトリック) のソース	(OctetString)
Severity	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.3	SiteScope のイベントの重大度	(整数) [0,1,2,3] つまり [使用不能, 正常, 警告, エラー]
Event Time	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.4	元のイベント時刻 (ミリ秒)	(TimeTicks) 1287316779
Value	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.5	(非警告フロー)	(OctetString) [running] または [25] または [n/a] - 警告用
Event Description	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.6	発生したイベントの詳細	(OctetString)
Event Key	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.7	イベントのキー	(OctetString) [sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00:Memory]
Event Close Key Pattern	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.8	削除するイベントを特定するためのキー	[sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]

NNMi にレポートされる SiteScope モニタ・メトリックス

NNMi サーバにレポートされる SiteScope モニタ・メトリックスの一覧は次のとおりです。

モニタ	利用可能なメトリック
CPU Utilization	<p>CPU 使用率</p> <p>注: SiteScope では、HP-UX および AIX オペレーティング・システムで収集された CPU 使用率データを、特定の CPU ごとではなく、システムの個別の平均値として配信します。この統合では NNMi に平均値を送信しないため、CPU 使用率データは HP-UX および AIX オペレーティング・システムで利用できません。</p>
Disk Space	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ディスクの空き領域 (MB) ▶ 使用中のディスク (%)
Memory	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メモリ・ページ / 秒 ▶ 仮想メモリ使用 (%) ▶ 仮想メモリ空き領域 (MB) ▶ スワップ・メモリ使用 (%) ▶ スワップ・メモリ空き領域 (MB) ▶ 物理メモリ使用 (%) ▶ 物理メモリ空き領域 (MB) <p>注: SiteScope は、すべてのオペレーティング・システムに関するこれらのメトリックスをすべて収集するわけではありません。</p>

モニタ	利用可能なメトリック
Microsoft Windows Resources	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Windows プロセス - 特権モード時間 (%) ▶ Windows プロセス - プロセッサ時間 (%) ▶ Windows プロセス - ユーザ時間 (%) ▶ Windows プロセス - 作成プロセス ID ▶ Windows プロセス - 経過時間 ▶ Windows プロセス - ハンドル数 ▶ Windows プロセス - ID プロセス ▶ Windows プロセス - IO データ (バイト / 秒) ▶ Windows プロセス - IO データ操作 / 秒 ▶ Windows プロセス - IO その他のデータ (バイト / 秒) ▶ Windows プロセス - IO 読み取り (バイト / 秒) ▶ Windows プロセス - IO 読み取り操作 / 秒 ▶ Windows プロセス - IO 書き込み (バイト / 秒) ▶ Windows プロセス - IO 書き込み操作 / 秒 ▶ Windows プロセス - ページ・フォルト ▶ Windows プロセス - ページ・ファイル (バイト) ▶ Windows プロセス - ページ・ファイルのピーク (バイト) ▶ Windows プロセス - プール非ページ (バイト) ▶ Windows プロセス - プール・ページ (バイト) ▶ Windows プロセス - ベースの優先度 ▶ Windows プロセス - プライベート・バイト ▶ Windows プロセス - スレッド数 ▶ Windows プロセス - 仮想バイト ▶ Windows プロセス - 仮想バイトのピーク ▶ Windows プロセス - ワーキング・セット ▶ Windows プロセス - プライベート・ワーキング・セット ▶ Windows プロセス - プライベート・ワーキング・ピーク

モニタ	利用可能なメトリック
UNIX Resources	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Unix プロセス - CPU (%) ▶ Unix プロセス - メモリ・サイズ ▶ Unix プロセス - 実行数 ▶ Unix プロセス - PID <p>注：HP-UX オペレーティング・システム上の UNIX リソース・モニタでは、SiteScope は、CPU (%)、実行数、プロセス ID のみを収集します。HP-UX ノードでは、メモリ・サイズとユーザ・データは表示されません。</p>

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、SiteScope を NNMi と統合する場合のトラブルシューティングおよび制限事項について説明します。

▶ SiteScope と NNMi のイベント統合のトラブルシューティング

NNMi インシデント・ビューに SiteScope モニタ警告インシデントが含まれていない場合、SiteScope で、SNMP トラップを NNMi に送信するように少なくとも 1 つのモニタ警告が設定されていることを確認します。詳細については、152 ページ「NNMi にイベントを送信する SiteScope 警告の設定」を参照してください。

NNMi 側からの統合のトラブルシューティングについては、『NNMi デプロイメントリファレンス』の「HP NNMi-HP SiteScope イベント統合のトラブルシューティング」の項を参照してください。

▶ SiteScope と NNMi のメトリクス統合データ・フローのトラブルシューティング

データ統合の問題に関連するメッセージを SiteScope エラー・ログ・ファイル (`data_integration.log`) で確認します。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「ログ・ファイルの使用」を参照してください。

NNMi 側からの統合のトラブルシューティングについては、『NNMi デプロイメントリファレンス』の「HP NNMi-HP SiteScope システム メトリクス統合のトラブルシューティング」の項を参照してください。

5

インジケータ割り当ての設定

本章の内容

概念

- ▶ インジケータ割り当ての概要 (166 ページ)

タスク

- ▶ インジケータ割り当ての作成方法と管理方法 (168 ページ)

参照情報

- ▶ インジケータ・マッピングの整合 (171 ページ)
- ▶ インジケータ割り当てのユーザ・インタフェース (184 ページ)

概念

インジケータ割り当ての概要

注：

- ▶ 本項は、SiteScope 11.00 以降を HP Operations Manager (HPOM) または BSM バージョン 9.00 以降のオペレーション管理と接続するユーザのみを対象としています。
- ▶ [メトリクスとインジケータ] タブでの設定の編集は、インジケータの作成と更新、および割り当てマッピングに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。

SiteScope のモニタ・メトリクスは、状況インジケータ (HI) およびイベント・タイプ・インジケータ (ETI) にマッピングされます。HI と ETI は、SAM の管理のインジケータ・リポジトリを使用して保存および管理されます。インジケータには、構成アイテム (CI) の状況の詳細ビューが表示されます。インジケータの詳細については、『サービス状況』の「KPI および状況インジケータの設定」を参照してください。

インジケータ割り当てリポジトリには、次の利点があります。

- ▶ メトリックスとインジケータの割り当てを中央管理できる。これにより、大量の **SiteScope** およびモニタを管理しやすくなります。インジケータ割り当てリポジトリは、[メトリックスとインジケータ] タブから編集できます。
- ▶ メトリックスは、モニタ・タイプごとに複数の **SiteScope** モニタからインジケータに割り当てられる。特定のモニタ・タイプ用の割り当てを作成、編集、削除できます。
- ▶ メトリックスを新規モニタに割り当てられる。これは次の状況で便利です。
 - ▶ **SiteScope** のバージョンに、使用する **BSM** のバージョンには付属していないモニタ・タイプが含まれている。
 - ▶ **EMS** 統合モニタによって作成された合成モニタおよびグループに対して、インジケータを設定する必要がある。
- ▶ インジケータ割り当てリポジトリに新しいインジケータ割り当てが追加されるか、既存の割り当てが変更された場合、その変更内容を **BSM** に接続されているすべての **SiteScope** に適用できる。これにより、**SiteScope** で作成された新しいモニタ・インスタンスのインジケータが、中央管理されている最新の割り当てに対応するようになります。
- ▶ 以前の **SiteScope** のメトリックスをインジケータにマッピングすることで、以前のバージョンの **SiteScope** との互換性が確保される。**SiteScope** でハード同期が実行されると、すべての最新のマッピングが **BSM** からダウンロードされます。
- ▶ ローカルの **SiteScope** サーバでインジケータ割り当てが変更された（モニタ・メトリックスのマッピングが変更された）場合、割り当ての変更を **SiteScope** に適用するときに、ローカルで変更された割り当ては、中央管理されている割り当てによって上書きされません。

タスクの詳細については、168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、184 ページ「[メトリックスとインジケータ] タブ」を参照してください。

タスク

インジケータ割り当ての作成方法と管理方法

ここでは、SiteScope のモニタ・メトリックスを SAM 管理のインジケータ割り当てにマッピングする手順を紹介します。

- ▶ 168 ページ「前提条件」
- ▶ 169 ページ「既存のインジケータ割り当ての管理」
- ▶ 169 ページ「新しいインジケータ割り当ての作成」
- ▶ 170 ページ「SiteScope へのインジケータ割り当ての変更の適用」
- ▶ 170 ページ「結果」

1 前提条件

[メトリックスとインジケータ] タブでの設定の編集は、インジケータの作成と更新、および割り当てに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。

注 : SiteScope を BSM 9.x と接続する場合は、**HPOprInf**、**HPOprMss**、**HPOprOra**、**HPOprJEE** コンテンツ・パックが必要です (コンテンツ・パックは標準設定でインストールされるため、通常、特別な操作を行う必要はありません)。これらのコンテンツ・パックがない場合は、『Platform Administration』の「How to Create and Manage Content Packs」の説明に従ってインポートする必要があります。

2 既存のインジケータ割り当ての管理

メトリックのインジケータへの割り当ては、SAM の [メトリクスとインジケータ] タブで表示、編集、または削除できます。また、インジケータの割り当ては XML ファイルにエクスポートする、または XML ファイルからインポートできます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、184 ページ「[メトリクスとインジケータ] タブ」を参照してください。

3 新しいインジケータ割り当ての作成

インジケータ割り当ては、新しいモニタ・タイプに対しても、既存のモニタ・タイプに対しても作成できます。

- a [管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択して [モニタの選択] ボタンをクリックします。
 - ▶ 既存のモニタの場合は、リストからモニタを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、187 ページ「[モニタの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
 - ▶ 新しいモニタの場合は、[新規モニタ] ボタンをクリックして、モニタ名を入力し、モニタのカテゴリを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、189 ページ「[新規モニタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- b [インジケータ割り当て設定] パネルで、[新規割り当て] ボタンをクリックします。
- c [新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックスで、メトリック名を基にしてメトリックを表す正規表現パターンを入力し、選択した CI タイプに割り当てるインジケータ・マッピングを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、190 ページ「[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注：インジケータ割り当てで使用した正規表現の構文が正しいかどうかを確認するには、< SiteScope のルート・ディレクトリ > %tools%\TopazIntegration ディレクトリにある H1MappingValidator.bat を実行します。このツールを使用するには、インジケータ割り当ての XML ファイル（インジケータ割り当てが変更された後に、モニタとインジケータの割り当てのエクスポート先となるファイル）を指定する必要があります。

- d [保存] をクリックします。割り当ての作成が成功したかどうかを示す検証メッセージが表示されます。

4 SiteScope へのインジケータ割り当ての変更の適用

変更を SiteScope に適用するには、**[変更の発行]** ボタンをクリックします。新しいインジケータ割り当てと既存の割り当てに対する変更のすべてが SiteScope にダウンロードされ、既存のモニタ・インスタンスのインジケータの状態が上書きされます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、184 ページ「[メトリクスとインジケータ] タブ」を参照してください。

注：ローカルの SiteScope サーバ上で変更されたインジケータ割り当ての状態は、中央管理下にある更新された割り当てによって上書きされません。

5 結果

定期的に SiteScope によって BSM に更新された割り当てがないかどうかを確認され、更新されている割り当ては SiteScope にダウンロードされます。これにより、SiteScope で作成された新しいモニタ・インスタンスのインジケータが、中央管理されている最新の割り当てに対応するようになります。

SiteScope のインジケータへのメトリクスの割り当ての詳細については、63 ページ「SiteScope メトリクスのインジケータへの割り当て」を参照してください。

参照情報

インジケータ・マッピングの整合

インジケータ・マッピングの整合とは、SiteScope のメトリックス名と HP Operations Manager のコンテンツ・パックによって使用されるインジケータとを対応付けるプロセスのことです。インジケータ・マッピングの整合は、次の SiteScope モニタ・メトリックスに対して実行されます。

注：

- ▶ どのモニタにも、標準設定の従来のシステム・マッピングがあり、マッピング・テーブルの一番下に表示されます。これは、事前に定義されているマッピングがないモニタでは、標準設定になります。メトリックスの順序を変更して従来のシステム・マッピングをリストの先頭に移動した場合、従来のシステム・マッピングには正規表現が含まれていないため、モニタに設定されているその他のマッピングはマップされません。
- ▶ **Microsoft Exchange** モニタおよび **Active Directory** モニタ用のインジケータ割り当てマッピングは、BSM にレポートできません。
- ▶ あるコンテンツ・パックが **BSM** サーバにインストールされていない場合、そのコンテンツ・パックのインジケータに関連付けられているマッピングは表示されません。

本項では、次のモニタのインジケータ・マッピングについて説明します。

- ▶ 173 ページ 「CPU モニタ」
- ▶ 173 ページ 「Database Counter モニタ」
- ▶ 173 ページ 「Disk Space モニタ」
- ▶ 173 ページ 「JMX (JBoss) モニタ」
- ▶ 174 ページ 「JMX (WebLogic) モニタ」
- ▶ 174 ページ 「Memory モニタ」
- ▶ 175 ページ 「Microsoft SQL Server モニタ」

第5章・インジケータ割り当ての設定

- ▶ 176 ページ 「Microsoft Windows Resources モニタ」
- ▶ 176 ページ 「Oracle Database モニタ」
- ▶ 177 ページ 「Ping モニタ」
- ▶ 177 ページ 「SAP CCMS モニタ」
- ▶ 178 ページ 「SAP Work Processes モニタ」
- ▶ 178 ページ 「Service モニタ」
- ▶ 179 ページ 「Siebel Application Server モニタ」
- ▶ 179 ページ 「Siebel Web Server モニタ」
- ▶ 180 ページ 「Solaris Zones モニタ」
- ▶ 180 ページ 「UNIX Resources モニタ」
- ▶ 180 ページ 「UNIX Resources (AIX) モニタ」
- ▶ 180 ページ 「UNIX Resources (HP-UX) モニタ」
- ▶ 180 ページ 「UNIX Resources (Linux) モニタ」
- ▶ 181 ページ 「UNIX Resources (Solaris) モニタ」
- ▶ 181 ページ 「VMware Host CPU モニタ」
- ▶ 181 ページ 「VMware Host Memory モニタ」
- ▶ 181 ページ 「VMware Host Network モニタ」
- ▶ 182 ページ 「VMware Host State モニタ」
- ▶ 182 ページ 「VMware Host Storage モニタ」
- ▶ 182 ページ 「WebSphere Application Server モニタ」

CPU モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/utilization.*/	Computer	CPU の負荷

Database Counter モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
round trip time	Database	SQL クエリ パフォーマンス

Disk Space モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
percent full	Computer	ホスト ディスク使用率

JMX (JBoss) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.CommitCount/	J2EE Server	トランザクションコミット率
/*.HeapMemoryUsage¥/used/	J2EE Server	現在のヒープ サイズ
/*.processingTime/	J2EE Server	サーブレットのパフォーマンス
/*.RollbackCount/	J2EE Server	トランザクション ロールバック
/*.SystemLoadAverage/	Computer	CPU の負荷
/*.SystemLoadAverage/	J2EE Server	アプリケーション サーバ負荷
/*.ThreadPool.*/.*/current ThreadCount/	J2EE Server	スレッド プール可用性
/*.ThreadPool¥.*/.*/current ThreadsBusy/	J2EE Server	スレッド プール使用率
/*.WebModule.*/.*/processing Time/	J2EE Server	HTTP 要求平均サービス時間

JMX (WebLogic) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.AllProcessorsAverageLoad/	J2EE Server	すべてのプロセッサの平均負荷
/*.CurrentWaitTime/	J2EE Server	スレッド要求待機時間
/*.ExecuteThreadTotalCount/	J2EE Server	スレッドプール使用率
/*.HeapFreeCurrent/	J2EE Server	現在の空きヒープ
/*.JvmProcessorLoad/	Computer	CPU の負荷
/*.MissTotalCount/	J2EE Server	EJB ミス カウント率
/*.OpenSocketsCurrentCount/	J2EE Server	アクティブ ソケット数
/*.TimeoutTotalCount/	J2EE Server	EJB タイムアウト率
/*.TransactionCommittedTotalCount/	J2EE Server	トランザクションコミット率
/*.TransactionTotalCount/	J2EE Server	トランザクション開始率
/*.TransactionsRolledBackTotalCount/	J2EE Server	EJB トランザクションロールバック率
/*.TransactionRolledBackTotalCount/	J2EE Server	トランザクションロールバック率
/*.TransactionsTimedOutTotalCount/	J2EE Server	トランザクションタイムアウト率
/*.WaitingForConnectionCurrentCount/	J2EE Server	JDBC 接続プール待機数
/*.UsedHeap/	J2EE Server	現在のヒープサイズ

Memory モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
percent used	Computer	メモリ負荷

Microsoft SQL Server モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/.*Active Transactions.*/ /	SQL Server	SQL Server データベースのアクティブなトランザクション数
/.*Active cursors.*/ /	SQL Server	SQL Server のアクティブなカーソル
/.*Average Latch Wait Time (ms).*/	SQL Server	データベース ラッチ待機率
/.*Cache Hit Ratio.*/ /	SQL Server	キャッシュ パフォーマンス
/.*Cursor memory usage.*/ /	SQL Server	SQL Server カーソル メモリ使用状況
/.*Data File(s) Size (KB).*/	SQL Server	SQL Server データベースデータ ファイル サイズ
/.*Lock Memory (KB).*/	SQL Server	ロック メモリ使用率
/.*Lock Timeouts/sec.*/ /	SQL Server	データベース ロック タイムアウト率
/.*Lock Wait Time (ms).*/	SQL Server	ロック待機率
/.*Lock Waits/sec.*/ /	SQL Server	ロック待機率
/.*Number of active cursor plans.*/ /	SQL Server	SQL Server のアクティブなカーソル
/.*Number of Deadlocks/sec.*/ /	SQL Server	データベース デッドロック
/.*Percent Log Used.*/ /	SQL Server	トランザクション ログ使用レベル
/.*SQLServer:Replication Agents : Running.*/ /	Database	レプリケーション ステータス
/.*Transactions/ /	Database	サーバトランザクション率
/.*Transaction Delay.*/ /	SQL Server	データベース 監視トランザクション遅延

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.Transactions/sec.*/	SQL Server	SQL Server データベース トランザクション率
/*.User Connections.*/	SQL Server	ユーザ接続率

Microsoft Windows Resources モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/Network Interface*¥¥.*¥¥Packets Received Discarded/	Computer	インタフェース破棄率
/Network Interface¥¥.*¥¥Packets Received Errors/	Computer	インタフェース エラー率
/Paging File.*¥¥% Usage/	Computer	PageFile 使用状況
/Paging File¥¥_Total¥¥% Usage/	Computer	スワップ使用レベル
/Processor¥¥.*¥¥% Processor Time/	Computer	CPU の負荷

Oracle Database モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.CPU used by this session/	Database	SQL クエリ パフォーマンス
/*.opened cursors current/	Oracle	Oracle の現在のオープンカーソル数
/*.parse count (hard)/	Oracle	Oracle 解析数 (固定)
/*.parse count (failures)/	Oracle	Oracle 解析数 (失敗)
/*.physical reads/	Oracle	物理読み取り率

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.redo log space wait time/	Oracle	REDO ログ領域の待機数
/*.session connect time/	Oracle	Oracle セッション接続時間
/*.session cursor cache hits/	Oracle	行キャッシュ ヒット率
/*.session logical reads/	Oracle	論理読み取り率
/*.table scans (long tables)/	Oracle	長い表のスキャンのパーセンテージ
/*.total file opens/	Oracle	データファイルステータス
/*.user calls/	Oracle	Oracle ユーザ呼び出し率

Ping モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
round trip time	Node	Ping 可用性

SAP CCMS モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
*	SAP Work Processes	SAP General
*	SAP ABAP Application Server	SAP General
*	SAP System	SAP General
*	Database	SAP General

SAP Work Processes モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
*	SAP Work Processes	SAP General
*	SAP ABAP Application Server	SAP General

Service モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/(?i).*apache.*/*	Computer	WebServer サービス
/(?i).*ftp.*/*	Computer	WebServer サービス
/(?i).*nfs.*/*	Computer	WebServer サービス
/(?i).*smbd.*/*	Computer	WebServer Service サービス
/(?i).*sshd.*/*	Computer	セキュリティで保護されたログイン サービス
/(?i)crond.*/*	Computer	バッチ ジョブ サービス
/DHCPServer.*/*	Computer	DHCP サーバ サービス
/DNSServer.*/*	Computer	DNS サービス
/EventLog.*/*	Computer	イベント ログ記録 サービス
/IISAdminService.*/*	Computer	WebServer サービス
/TaskScheduler.*/*	Computer	バッチ ジョブ サービス
/TerminalServices.*/*	Windows	MS Terminal Server Service

Siebel Application Server モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/.*No. of Running Sessions/	Siebel Component	Siebel Sessions
/.*No. of Running Sessions/	Siebel Component Group	Siebel Sessions
/.*No. of Running Sessions/	Siebel Application Server	Siebel Sessions
/.*No. of tasks in error/	Siebel Component	Siebel Tasks in Error
/.*No. of tasks in error/	Siebel Component Group	Siebel Tasks in Error
/.*No. of tasks in error/	Siebel Application Server	Siebel Tasks in Error
*	Siebel Component	Siebel General
*	Siebel Component Group	Siebel General
*	Siebel Application Server	Siebel General

Siebel Web Server モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
*	Siebel Web Server Extension	Siebel General
*	Siebel Web Application	Siebel General

Solaris Zones モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/HostSystem/./cpu/%sys/	Computer	CPU の負荷
/Zone/./cpu/%usageOfMachine Cpu/	Computer	CPU の負荷
/Zone/./mem/%memory/	Computer	メモリ負荷

UNIX Resources モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/FileSystems¥.*¥Use%/	Unix	File SystemUsage

UNIX Resources (AIX) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/FileSystems¥/¥Used	Computer	ルート ディスク使用レベル
/Paging Spaces/./¥Used	Computer	スワップ使用レベル

UNIX Resources (HP-UX) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/FileSystems¥/¥Used	Computer	ルート ディスク使用レベル
/Paging Spaces/./USED-PERC	Computer	スワップ使用レベル

UNIX Resources (Linux) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/FileSystems¥/¥Use %	Computer	ルート ディスク使用レベル

UNIX Resources (Solaris) モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/FileSystems¥/¥used	Computer	ルート ディスク使用レベル
Unused memory pages and disk blocks¥freeswap	Unix	スワップ領域

VMware Host CPU モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/cpu/usage.average/	Computer	CPU の負荷
./*/cpu/usagemhz.average/	Computer	CPU の負荷

VMware Host Memory モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/mem/active.average/	Computer	メモリ負荷
./*/mem/swapinRate.average/	Computer	スワップ使用レベル
./*/mem/swapoutRate.average/	Computer	スワップ使用レベル
./*/mem/usage.average/	Computer	メモリ負荷

VMware Host Network モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/net/droppedRx.summation/	Computer	インタフェース破棄率
./*/net/droppedTx.summation/	Computer	インタフェース破棄率
./*/net/received.average/	Computer	インタフェース使用率
./*/net/ReceivedPacketsDropped/	Computer	インタフェース破棄率
./*/net/transmitted.average/	Computer	インタフェース使用率

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/net/TransmittedPackets Dropped/	Computer	インタフェース破棄率
./*/net/usage.average/	Computer	インタフェース使用率

VMware Host State モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/connectionState/	Computer	ノードステータス (Node)
./*/inMaintenanceMode/	Computer	ノードステータス (Node)
./*/powerState/	Computer	ノードステータス (Node)
./*/standbyMode/	Computer	ノードステータス (Node)

VMware Host Storage モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/disk/numberWrite.summation/	Computer	ノードステータス (Node)
./*/disk/usage.average/	Computer	ホスト ディスク使用率

WebSphere Application Server モニタ

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
./*/ConnectionsInUse/	J2EE Server	使用中の接続
./*/connectionPoolModule/WaitingThreadCount/	J2EE Server	JDBC 接続プール待機数
./*/jvmRuntimeModule/Used Memory/	J2EE Server	JVM メモリ使用率
./*/threadPoolModule/Active Count/	J2EE Server	スレッドプール使用率
./*/transactionModule/CommittedCount/	J2EE Server	トランザクションコミット率

メトリック・パターン	CI タイプ名	インジケータ
/*.transactionModule/ GlobalTimeoutCount/	J2EE Server	トランザクション タイムアウト率
/*.transactionModule/ GlobalTranTime/	J2EE Server	トランザクション時間
/*.transactionModule/ RolledbackCount/	J2EE Server	トランザクション ロールバック率
was:/server/beanModule/ ServerSessionPoolUsage	J2EE Server	EJB 使用率
was:/server/connectionPool Module/ConnectionPool Utilization	J2EE Server	DataSource 接続プール 使用率
was:/server/jvmRuntimeModule/ FreeMemory	J2EE Server	EJB タイムアウト率
was:/server/jvmRuntimeModule/ HeapSize	J2EE Server	現在のヒープ サイズ
was:/server/jvmRuntimeModule/ ProcessCpuUsage	J2EE Server	すべてのプロセッサの 平均負荷
was:/server/systemModule/CPU UsageSinceServerStarted	Computer	CPU の負荷
was:/server/systemModule/ FreeMemory	Computer	メモリ負荷
was:/server/threadPoolModule/ DeclaredThreadHungCount	J2EE Server	スレッド応答停止率
was:/server/threadPoolModule/ PoolSize	J2EE Server	スレッド プール使用率
was:/server/webAppModule/ LoadedServletCount	J2EE Server	読み込まれるサーブ レット
was:/server/webAppModule/ RequestCount	J2EE Server	サーブレット要求
was:/server/webAppModule/ URIServiceTime	J2EE Server	HTTP 要求平均サービ ス時間

インジケータ割り当てのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 184 ページ [メトリクスとインジケータ] タブ
- ▶ 187 ページ [モニタの選択] ダイアログ・ボックス
- ▶ 189 ページ [新規モニタ] ダイアログ・ボックス
- ▶ 190 ページ [新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス
- ▶ 195 ページ [モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード
- ▶ 199 ページ [モニタ インジケータの割り当てのエクスポート] ダイアログ・ボックス




[メトリクスとインジケータ] タブ








このタブでは、モニタ・タイプごとに、SiteScope モニタから CI のインジケータにマッピングされるメトリクスを管理でき、作成された新規モニタのマッピングを設定できます。


<p>アクセス方法</p>	<p>[管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ マッピングの編集またはメトリクスへのマッピングの追加は、CI とインジケータに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。 ▶ SiteScope を BSM 9.x と接続する場合は、HPOprInf, HPOprMss, HPOprOra, HPOprJEE コンテンツ・パックが必要です (コンテンツ・パックは標準設定でインストールされるため、通常、特別な操作を行う必要はありません)。これらのコンテンツ・パックがない場合は、『Platform Administration』の「How to Create and Manage Content Packs」の説明に従ってインポートする必要があります。

<p>関連タスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」 ▶ 84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」 ▶ 113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」
<p>関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 63 ページ「システム可用性管理でのインジケータ割り当ての管理」 ▶ 63 ページ「SiteScope メトリックスのインジケータへの割り当て」 ▶ 『サービス状況』の「インジケータ・リポジトリ」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

<p>UI 要素</p>	<p>詳細</p>
	<p>インジケータ割り当てをリセット：モニタのインジケータ割り当てを標準設定にリセットする。</p>
	<p>モニタ インジケータの割り当てのインポート：XML ファイルからモニタのインジケータ割り当てをインポートする。詳細については、195 ページ「[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード」を参照してください。</p>
	<p>モニタ インジケータの割り当てのエクスポート：XML ファイルにモニタのインジケータ割り当てをエクスポートする。詳細については、199 ページ「[モニタ インジケータの割り当てのエクスポート] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><モニタ名></p>	<p>選択したモニタ・タイプ。</p>
<p>モニタの選択</p>	<p>[モニタの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログでは、モニタを選択または新規作成できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、187 ページ「[モニタの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素	詳細
<p>変更の発行</p>	<p>BSM に接続している SiteScope に新しいインジケータ割り当てと既存の割り当てに対する変更を適用します。既存の割り当てに対する変更によって、SiteScope 内の既存のモニタ・インスタンスのインジケータの状態を上書きします。</p> <p>注： ローカルの SiteScope サーバ上で変更されたインジケータ割り当ての状態は、中央管理下にある更新された割り当てによって上書きされません。</p>
<p>並べ替えの適用</p>	<p>インジケータ・マッピングの並べ替え順序の変更を保存。</p>
<p>インジケータの割り当てテーブル (モニタを選択すると、選択したモニタのタイプに設定されているインジケータ・マッピングがインジケータの割り当てテーブルに表示されます)。</p>	
	<p>新規割り当て： [新規割り当て] ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログでは、選択したモニタ・タイプ用のインジケータ割り当てマッピングを作成できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、190 ページ「[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>割り当ての編集： 選択したインジケータ割り当てマッピングのプロパティを編集できる。ユーザ・インタフェースの詳細については、190 ページ「[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>割り当てを削除します： 選択したインジケータ割り当てマッピングをリストから削除する。</p>
	<p>すべて選択： リストに表示されているすべてのインジケータ割り当てを選択する。</p>
	<p>選択をクリア： 選択をクリアする。</p>
	<p>更新： インジケータ割り当てのリストを最新の表示に更新する。</p>
	<p>下へ移動： リスト内で選択したインジケータ割り当てを下に移動することで、インジケータ割り当ての順序を並べ替えできる。</p>

UI 要素	詳細
	上へ移動 : リスト内で選択したインジケータ割り当てを上へ移動することで、インジケータ割り当ての順序を並べ替えることができる。
メトリック・パターン	モニタ・メトリックスの正規表現パターン。インジケータ・マッピングの詳細を表示または編集するには、マッピングをダブルクリックします。詳細については、190 ページ「[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 同じ正規表現に対して複数の CI タイプがある場合、別々の行に表示されます。
CI タイプ名	選択したインジケータの CI タイプ名。
インジケータ	メトリックスにマッピングされているインジケータの名前。
新しいインジケータを作成するには、ここをクリックします	[新規割り当て] ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログでは、新しいインジケータ割り当てを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、190 ページ「[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
新しいインジケータを作成するには、ここをクリックします	[インジケータ・リポジトリ] ページを開きます。このページでは、新しいインジケータを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、『サービス状況』の「[インジケータ リポジトリ] ページ」を参照してください。



[モニタの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のモニタのリストから SiteScope モニタを選択する、または新しいモニタを作成できます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] > [メトリックとインジケータ] タブを選択して [モニタの選択] ボタンをクリックします。
重要な情報	割り当てマッピングの編集またはメトリックスへのマッピングの追加は、CI とインジケータに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。

関連タスク	168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」 ▶ 113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
	新規モニタ ：[新規モニタ] ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログでは、新しいモニタを作成できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、189 ページ「[新規モニタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	更新 ：モニタ・タイプのリストを最新の表示に更新する。
モニタ名	利用可能なモニタのリストを表示します。 モニタ・リンクをクリックして、利用可能なモニタのリストからデプロイするモニタを選択します。
モニタ・カテゴリ	各モニタ・タイプのカテゴリを表示します。 カテゴリ別にモニタを選択するには、[モニタ カテゴリ] の見出しの右側にある矢印をクリックして、リストからカテゴリを選択します。リストの内容は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アプリケーション ▶ データベース ▶ 汎用 ▶ 統合 ▶ ネットワーク ▶ サーバ ▶ ストリーム ▶ 仮想化 ▶ Web トランザクション

[新規モニタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい SiteScope モニタ・タイプを作成できません。作成したモニタ・タイプはモニタ・タイプのリストに追加されます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択し、[モニタの選択] ボタンをクリックして、[新規モニタ] ボタンをクリックします。
重要な情報	割り当てマッピングの編集またはメトリクスへのマッピングの追加は、CI とインジケータに精通している上級ユーザーのみが行うようにしてください。
関連タスク	168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」 ▶ 113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
モニタ表示名	作成するモニタの名前。 例 ：JMX (JMX モニタの場合)
モニタ名	SiteScope モニタの Topaz 名。 例 ：JMX モニタ
Monitor class name	SiteScope でのモニタの完全なクラス名。 例 ： com.mercury.sitescope.monitors.facades.JMXMonitor
モニタ・カテゴリ	次の中から新しいモニタのカテゴリを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アプリケーション ▶ データベース ▶ 汎用 ▶ 統合 ▶ ネットワーク ▶ サーバ ▶ ストリーム ▶ 仮想化 ▶ Web トランザクション

[新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択したモニタ・タイプに対して、メトリックとインジケータの割り当てマッピングを作成または変更できます。

<p>アクセス方法</p>	<p>[管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択して [モニタの選択] ボタンをクリックし、モニタを選択します。[インジケータ割り当て設定] パネルで、[新規割り当て] ボタンをクリックして新しいマッピングを作成するか、[割り当ての編集] ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 割り当てマッピングの編集またはメトリクスへのマッピングの追加は、CI とインジケータに精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。 ▶ マッピングを設定したら、[保存] ボタンをクリックして、マッピングを検証します。メトリクス・パターンが有効でない場合は、エラー・メッセージが表示されます。 ▶ CI タイプのツリーに、システムにある CI タイプの階層が表示されます。このツリーには、次のタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビューの参照：ビューを使用して階層内を移動し、特定の CI を参照できる。 ▶ 検索：ツリーから、または CI タイプを指定して、1 つ以上の CI を検索できる。 ▶ 右側の [CI タイプ：< CI 名>] には、次の表示枠があります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ インジケータ：選択した CI タイプに割り当てられているインジケータを表示する。 ▶ 詳細：[インジケータ] 表示枠で選択したインジケータについての詳細を表示する。これには、すべてのインジケータの名前、タイプ、説明が含まれます。アプリケーションと単位が表示されるのは、HI のみです。[値] テーブルには、インジケータの状態、各状態に対応する重大度、各重大度に対応するアイコンが表示されます。

関連タスク	168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 84 ページ「トポロジ・レポートの設定方法」 ▶ 113 ページ「SiteScope からの HPOM または BSM へのイベント送信を有効にする方法」 ▶ 『サービス状況』の「インジケータ・リポジトリ」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
メトリック・パターン	<p>インジケータにマッピングするメトリックスの正規表現パターンを入力します。パターンは、メトリック名を基に指定します。</p> <p>既存の割り当てマッピングを表す正規表現パターンは、編集できます。</p>
標準設定割り当て	<p>モニタの標準設定の割り当てマッピング（従来のシステム）を使用します。このオプションを選択すると、正規表現を入力する必要がありません（[メトリックパターン]は無効になります）。</p> <p>標準設定値：選択されていない</p>


[ビューの参照] タブ

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
< CI タイプ >	システムにある CI タイプの階層。CI を選択すると、それに割り当てられているインジケータを確認できます。

[検索] タブ

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
	表示カラムの変更 ：[表示するカラムの選択] ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログでは、CI リストに表示するカラムを選択できます。標準設定では、[名前] と [タイプ] が選択されています。
名前	CI を名前で検索する場合に、検索する CI の名前を入力します。
タイプ	CI を CI タイプで検索する場合に、このボックスにタイプを入力するか、 [検索] ボタンをクリックして CI のリストから CI を選択します。列の見出しをクリックすると、CI リストの表示順序（昇順と降順）を切り替えられます。
検索	検索の実行。
<検索結果>	<p>検索を実行すると、検索結果が [検索] タブの下部に一覧表示されます。検索結果は、2 つのカラムを使用して表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 名前：CI の名前を表示する。 ▶ タイプ：CI の CI タイプを表示する。 <p>CI 名に省略形が使用されている場合は、その CI 名にポインタを置くと完全な名前が表示されます。適切な見出しをクリックすることで、検索結果を並べ替えることができます。</p>
ID	CI の一意の内部識別子。

[インジケータ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<インジケータ>	<p>選択した CI タイプに割り当てられているインジケータ（このラベルは、インジケータの [表示名] フィールドで定義されます）。</p> <p>メトリックスにマッピングするインジケータを選択します。</p>

[詳細] 表示枠 - [一般] 領域

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
名前	インジケータの内部名。この名前は、イベントを生成したインジケータで定義されています（例：CPULoad）。
タイプ	インジケータ・タイプ（自動的に、ETI が関連付けられた状況インジケータとして定義されます）。
詳細	任意で指定する、インジケータについての説明。
アプリケーション	このインジケータを表示するアプリケーションを指定する。サービス状況、サービス・レベル管理、またはその両方です。
単位	<p>HI にのみ表示されるルールの結果に使用される単位。通常、次の単位が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ <単位なし>: メトリックスが単純な数値カウントで表される、数量を扱うルールに使用されます。 ▶ 金銭の単位 (\$): CI の財務損失を決定するルールに使用されます。 ▶ ミリ秒または秒: トランザクションやモニタの、時間を基準にしたパフォーマンス・データを扱うルールに使用されます。 ▶ パーセント (%): ある期間の可用性を表すデータを扱うルールに使用されます。


[詳細] 表示枠 - [状態] 領域

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
表示名	インジケータの状態 (例 : Very high CPU)。詳細については、『サービス状況』の「インジケータ・リポジトリ」を参照してください。
ステータス	インジケータの状態に対応する重大度 (例 : 警告)。
アイコン	インジケータの重大度に対応するアイコン。

[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード

このウィザードでは、XML ファイルから SAM 管理に、SiteScope モニタ・インジケータの割り当てマッピングをインポートできます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択して、[モニタ インジケータの割り当てのインポート]  ボタンをクリックします。
関連タスク	168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」
ウィザード・マップ	このウィザードには、次のページが含まれています。 [ファイルの選択] ページ > [モニタの選択] ページ > [タイプの選択] ページ
関連情報	166 ページ「インジケータ割り当ての概要」


[ファイルの選択] ページ

このウィザード・ページでは、インポートする XML ファイルを選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は、『195 ページ「[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード」』を参照してください。
ウィザード・マップ	[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザードには、次のページが含まれています。 [ファイルの選択] ページ > [モニタの選択] ページ > [タイプの選択] ページ
関連情報	166 ページ「インジケータ割り当ての概要」

第 5 章・インジケータ割り当ての設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
	<p>参照: インポートする XML ファイルを含むフォルダに移動できる。[開く] ボタンをクリックして、インポートする XML ファイルを選択します。</p> <p>注: インポートできるのは XML 形式のファイルのみです。</p>
<ファイル名>	選択した XML ファイルのパスと名前。

[モニタの選択] ページ

このウィザード・ページでは、選択した XML ファイルからインポートするモニタを選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は、『195 ページ「[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード」』を参照してください。
ウィザード・マップ	[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザードには、次のページが含まれています。 [ファイルの選択] ページ > [モニタの選択] ページ > [タイプの選択] ページ
関連情報	166 ページ「インジケータ割り当ての概要」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
All Monitors	<p>利用可能なモニタのリストから、またはカテゴリを基にして、デプロイするモニタを選択します。[モニタ名] ボックスに検索文字列を入力して、モニタを検索できます。カテゴリ別に選択するには、[カテゴリ] の見出しの右側にある矢印をクリックして、下の詳細なリストからモニタ・カテゴリを選択します。割り当てマッピングが変更されているモニタは、アスタリスク付きの赤字で表示されます。</p> <p>インポートするモニタを選択し、[Selected Monitors へ移動] ボタンをクリックします。選択したモニタが [Selected Monitors] テーブルに移動されます。利用可能なモニタをすべてインポートするには、[Selected Monitors へすべて移動] ボタンをクリックします。</p> <p>表示されたモニタまたはカテゴリのアルファベット順（昇順または降順）を変更するには、[モニタ名] または [モニタカテゴリ] 列の見出しにある矢印をクリックします。</p>
Selected Monitors	<p>選択した XML ファイルからインポートするモニタを表示します。</p> <p>インポート対象からモニタを除外するには、インポートしないモニタを選択して、[All Monitors へ移動] ボタンをクリックします。選択したモニタが [All Monitors] テーブルに移動されます。選択されているモニタをすべて除外するには、[All Monitors へすべて移動] ボタンをクリックします。</p>

[タイプの選択] ページ

このウィザード・ページでは、インポート・タイプを選択できます。選択したモニタに対応するインポート先のシステム内のモニタ・オブジェクトは、上書きされる可能性があります。


重要な情報	このウィザードに関する一般情報は、『195 ページ「[モニタインジケータの割り当てのインポート] ウィザード」』を参照してください。
ウィザード・マップ	[モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザードには、次のページが含まれています。 [ファイルの選択] ページ > [モニタの選択] ページ > [タイプの選択] ページ
関連情報	166 ページ「インジケータ割り当ての概要」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。


UI 要素	詳細
上書き	インポートした XML ファイルのモニタの割り当てマッピングによって、インポート先のシステムに既存の対応するモニタに上書きできる。割り当てマッピングが変更されているモニタは、この画面に一覧表示されます。また、新しいオブジェクトがある場合は、作成されます。 標準設定値 ：選択されていない

[モニタ インジケータの割り当てのエクスポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、SiteScope モニタ・マッピングを XML ファイルにエクスポートできます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] > [メトリクスとインジケータ] タブを選択して、[モニタ インジケータの割り当てのエクスポート]  ボタンをクリックします。
関連タスク	168 ページ「インジケータ割り当ての作成方法と管理方法」
関連情報	166 ページ「インジケータ割り当ての概要」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
	モニタのインジケータ割り当てファイルをエクスポート用に保存する場所を選択します。標準設定では、ファイルは XML 形式で保存されます。

UI 要素	詳細
All Monitors	<p>利用可能なモニタのリストから、またはカテゴリを基にエクスポートするモニタを選択します。[モニタ名] ボックスに検索文字列を入力して、モニタを検索できます。カテゴリ別に選択するには、[カテゴリ] の見出しの右側にある矢印をクリックして、下の詳細なリストからモニタ・カテゴリを選択します。</p> <p>表示されたモニタまたはカテゴリのアルファベット順(昇順または降順)を変更するには、[モニタ名] または [モニタカテゴリ] 列の見出しにある矢印をクリックします。</p> <p>エクスポートするモニタを選択し、[Selected Monitors へ移動] ボタンをクリックします。選択したモニタが[Selected Monitors] テーブルに移動されます。利用可能なモニタをすべてエクスポートするには、[Selected Monitors へすべて移動] ボタンをクリックします。</p>
Selected Monitors	<p>エクスポート対象のモニタを表示します。</p> <p>エクスポート対象からモニタを除外するには、エクスポートしないモニタを選択して、[All Monitors へ移動] ボタンをクリックします。選択したモニタが[All Monitors] テーブルに移動されます。選択されているモニタをすべて除外するには、[All Monitors へすべて移動] ボタンをクリックします。</p>

6

モニタ・デプロイメント・ウィザード

本章の内容

概念

- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードの概要 (202 ページ)
- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードのテンプレートと変数 (204 ページ)
- ▶ 完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視 (207 ページ)
- ▶ ウィザードのオプション (207 ページ)
- ▶ Siebel 用のモニタ・デプロイメント・ウィザード (209 ページ)

タスク

- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してモニタをデプロイする方法 (210 ページ)

参照情報

- ▶ テンプレート・リファレンス (217 ページ)
- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザード (226 ページ)

概念

モニタ • デプロイメント • ウィザードの概要

注: モニタ • デプロイメント • ウィザードは、BSM の SAM 管理から SiteScope にアクセスする場合にのみ、お使いいただけます。

モニタ • デプロイメント • ウィザードを使用すると、SiteScope テンプレートを 사용하여、既存の BSM 構成アイテム (CI) データの監視ソリューションを構築できます。このウィザードでは、SiteScope テンプレートを基に、Run-time Service Model (RTSM) の既存の CI データと検出された CI データを使用して、モニタ、グループ、リモート • サーバをデプロイします。CI の詳細については、『RTSM Administration Guide』の「Configuration Items (CI)」を参照してください。

SiteScope テンプレートを使用すると、最小限の設定手順で、複数のインフラストラクチャ要素を対象にグループ設定とモニタ設定をデプロイできます。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope テンプレート」を参照してください。

モニタ • デプロイメント • ウィザードでは、SiteScope のテンプレート機能を使用して、RTSM の CI 用の監視ソリューションを作成します。モニタ • デプロイメント • ウィザードを使用して監視する CI を選択する場合、選択した CI タイプを基に、選択した CI とテンプレートがウィザードによって自動的に対応付けられます。また、特定の監視要件に合わせて、選択した CI に追加で適用するテンプレートを選択することもできます。どのテンプレートがどの CI タイプにデプロイされるかの詳細については、217 ページ「テンプレート • リファレンス」を参照してください。

RTSM には、モニタのデプロイに使用できる CI データがすでに含まれている場合があります。これらのプロパティは、モデリング • スタジオに CI を追加したときに入力されたか、ディスカバリ • マネージャによって検出されたものです。詳細については、『Modeling Guide』の「Create CIs and Relationships in the CMDBRTSM」を参照してください。このウィザードでは、選択した CI のデータを RTSM から取得し、SiteScope テンプレートをデプロイするときにそのデータを使用することもできます。

BSM では、そのデータを使用して RTSM の既存の CI 用に SiteScope のモニタ、グループ、リモート・サーバを作成できます。

モニタ・デプロイメント・ウィザードの機能は、次のとおりです。

- ▶ SiteScope テンプレートをデプロイする CI を選択できます。また、どの CI にどのテンプレートがデプロイされるかを認識します。
- ▶ CI にデプロイするテンプレートの選択条件を調整できます。
- ▶ CI をチェックして、テンプレートによってデプロイされる監視ソリューションに適合する既存のモニタと測定値がないかを確認し、監視の重複に対応できるようにします。
- ▶ RTSM 管理で定義されている構成アイテムのプロパティをモニタのプロパティにインポートし、SiteScope にリモート・サーバを作成します。
- ▶ テンプレート変数を使用して、構成アイテムの定義からインポートされないモニタ・プロパティのデータを入力できます。
- ▶ RTSM に監視対象の CI と作成したモニタ間の [**モニタ元**] 関係を作成します。

注：モニタ・デプロイメント・ウィザードでサポートされるのは、標準設定のトポロジが定義されているモニタのトポロジ・レポートのみです。つまり、CI にテンプレートを追加できるのは、その CI のタイプが、テンプレートのすべてのモニタの標準設定の CI タイプである場合のみです。

モニタ • デプロイメントの例

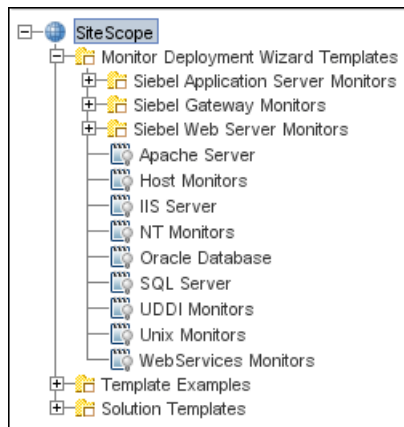
たとえば、Oracle データベースが CI として RTSM のモデリング • スタジオに追加されているとします。この場合、モニタ • デプロイメント • ウィザードを使用して、Oracle データベース • モニタを CI にデプロイできます。ウィザードにより、RTSM のサーバに定義されている次のプロパティがインポートされます。

- ▶ データベース • サーバの IP アドレスまたはサーバ名
- ▶ データベース • ユーザ名
- ▶ データベース • パスワード
- ▶ データベースのポート
- ▶ データベース SID

モニタのデプロイメントに必要な一部の変数の値を RTSM から取得できない場合は、該当する値を手動で追加する必要があります。この状態は、CI がデータフロー管理プロセス中に入力されなかったか、検出が部分的にしか実行されなかった場合に発生することがあります。

モニタ • デプロイメント • ウィザードのテンプレートと変数

SiteScope が BSM に接続されている場合は、標準設定でテンプレート • ツリーの [Monitor Deployment Wizard Templates] というコンテナに、モニタ • デプロイメント • テンプレートが表示されます。このコンテナと、このコンテナに含まれるテンプレートおよび変数は、編集または削除しないでください。



変数の編集またはテンプレートへの変数の追加は、テンプレートを使った作業に精通している上級ユーザのみが行うようにしてください。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope テンプレート」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 205 ページ「モニタ・テンプレートの変数」
- ▶ 205 ページ「テンプレートの選択」
- ▶ 206 ページ「手動でのテンプレートの対応付け」

モニタ・テンプレートの変数

選択した CI に関連付けたテンプレートには変数があり、これらの変数に値を設定しないとウィザードによりテンプレートをデプロイできません。ほとんどの変数には、CI 情報を確認することで、またはデータフロー管理プロセスの結果として、システムにより自動的に値が設定されます。ほかの変数は、CI 情報にデータがないか、DDM プロセスが完全に実行されなかった、またはデータがユーザ依存であるために、システムによって値が設定されません。選択したモニタ・テンプレートに不足している情報は、手動で設定する必要があります。ただし、変数の値がわからない場合は、テンプレートの選択をクリアして、テンプレートをデプロイしないようにすることもできます。

テンプレートの選択

CI が選択されたら、すべての関連するテンプレートが CI に対応付けられます。

変数の値を入力する手順で、選択した CI に関連付けられている各モニタ・テンプレートの横に、チェック・ボックスが表示されます。標準設定では、テンプレートにデータが設定されていない変数がある場合、そのテンプレートはデプロイメント対象として選択されません。これにより、ウィザードによるデプロイメント・プロセスを効率化できます。

デプロイメント対象としてテンプレートを選択することも選択解除することもできます。テンプレートをデプロイメント対象として選択していて、そのテンプレートの変数の不足データを入力しなかった場合、エラー・メッセージが表示されます。データを入力しないと、ウィザードの次の処理に進むことができません。テンプレートの選択を解除した状態にしておくと、テンプレートの選択が解除されていることを示す警告メッセージが表示されますが、ウィザードの処理は続行できます。テンプレートにデータが入力されているかどうかにかかわらず、選択されていないすべてのテンプレートに対しては、必ずこの動作になります。

手動でのテンプレートの対応付け

このウィザードでは、ウィザードによって自動的にマップされなかったその他のテンプレートをデプロイメント対象として選択できます。たとえば、環境内のホスト CI に関連する特定の文字列を検索する設定のログ・ファイル監視を含む既存のテンプレートを使用する場合、[監視する CI を選択] ページで選択したホスト CI に、そのテンプレートをデプロイするように指定できます。

また、関連付けられているテンプレートのない CI タイプを選択して、既存のテンプレートをその CI にデプロイすることもできます。

ウィザードの事前定義テンプレートに含まれていない CI タイプに、ほかのモニタ・テンプレートをデプロイするように対応付けた場合は、その対応付けを同じ BSM ユーザがウィザードを実行するときに将来も使用できるように保存できます。

また、ウィザードによって特定の CI に対応付けられたテンプレートを削除して、対応付けを保存すると、次に同じ BSM ユーザがウィザードを実行するときに、削除したテンプレートは選択した CI に対応付けられません。

詳細については、230 ページ「一致を保存」を参照してください。

完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視

モニタ・デプロイメント・ウィザードは、選択した CI ごとに、ウィザードがその CI にマップされたテンプレートをデプロイした場合に作成されるモニタ・インスタンスに相当するモニタ CI と、すでに [モニタ元] 関係が確立されている CI がないかどうかをチェックします。さらに、モニタ CI 内の実際の測定値をチェックし、ウィザードによってデプロイされる監視ソリューションが、選択した CI 用にすでに存在するモニタと重複するモニタを作成しないかどうかを判断します。

監視ソリューションのデプロイ対象の CI に、すでに同じモニタと測定値のインスタンスがすべてある場合、その CI は**完全に監視されている**とみなされます。CI にすでにデプロイされているモニタと測定値が一部のみの場合、その CI は**部分的に監視されている**とみなされます。

完全または部分的に監視されている CI については選択を解除して、デプロイメント対象から除外できます。または、デプロイメントの処理は続行して、ウィザードの最後の手順で、重複するモニタを処理することもできます。ウィザードの最後の手順で、CI に重複しているモニタがあることが検出されているながら、それらの CI にテンプレートが正常にデプロイされている場合、[Handle Duplicates] ボタンが表示されます。このボタンを使用して、該当するモニタを削除、無効化、またはそのまま保持できます。

ウィザードのオプション

このセクションは、次のモニタ・デプロイメント・ウィザードについてのトピックで構成されています。

- ▶ 207 ページ「CI グループ階層のオプション」
- ▶ 208 ページ「SiteScope リモート・サーバ」
- ▶ 208 ページ「レポート」

CI グループ階層のオプション

モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してテンプレートをデプロイする場合、BSM で選択したビューの CI 階層と同じ CI グループ階層を作成できます。つまり、監視対象の CI の親やその親の CI に対応する SiteScope グループが作成されます。これらのグループは、BSM で選択したビューの実際の CI が含まれるツリー構造と同じツリー構造で配置されます。

SiteScope リモート・サーバ

モニタ・デプロイメント・ウィザードが使用する SiteScope テンプレートは、ほかの SiteScope モニタが使用できるように、SiteScope にリモート・サーバ・プリファレンスを作成するテンプレート・リモートを使用して設定されます。作成されたリモート・サーバは、SiteScope では、[リモートサーバ] > [Microsoft Windows リモートサーバ] (Windows モニタの場合) か [リモートサーバ] > [UNIX リモートサーバ] (UNIX モニタの場合) で確認できます。リモート・サーバの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「リモート・サーバ」を参照してください。

物理モニタ (CPU モニタなど) のリモート・サーバ定義を使用してテンプレートをデプロイする場合、リモート・プリファレンスはホスト (ホスト DNS 名) とユーザ名を使用して作成されます。SiteScope のリモート・サーバにすでに含まれているリモート・サーバを使用してテンプレートをデプロイする場合、SiteScope では既存のリモート・プリファレンスが使用され、新しいリモート・プリファレンスは作成されません。テンプレートを使用したリモート・サーバの作成の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「SiteScope テンプレート」を参照してください。

レポート

モニタ・デプロイメント・ウィザードの最後の手順は、[デプロイメント結果] ページです。このページには、成功したモニタ・デプロイメントと失敗したモニタ・デプロイメントについての情報が表示されます。このレポートには、選択した CI とデプロイメント対象に選択したモニタの名前が含まれます。デプロイメントの状態は、モニタごとに表示されます。

このレポートは PDF ファイルにエクスポートできます。レポートには、作成されたすべてのグループ、モニタ、警告と、SiteScope 内でそれらが保持されている具体的な場所を示す詳細情報が含まれます。このレポートは、大規模なデプロイメントを行う場合に便利です。たとえば、ウィザードで数百の CI を選択した場合、デプロイメントの結果、SiteScope に数千の新しいオブジェクトが追加される可能性があります。詳細については、234 ページ「[デプロイメント結果] ページ」を参照してください。

注: モニタ・デプロイメント・ウィザードの実行完了後、すぐにはデプロイされたモニタは実行されず、そのモニタに定義されている実行間隔に従って実行されます。

Siebel 用のモニタ・デプロイメント・ウィザード

モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用して、Siebel 環境を監視できます。ウィザードに使用するビューは、[Siebel エンタープライズ] ビューです。ウィザードを使用して RTSM 内の Siebel 構成アイテムを特定し、事前に設定されている一連のモニタをそれらのアイテムにデプロイできます。このようなモニタには、Siebel の監視用に設計されているモニタのほか、Siebel ネットワークのパフォーマンスを監視できる汎用モニタが含まれます。

Siebel 環境に利用できるテンプレートの詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「Siebel ソリューション・テンプレート」を参照してください。

Siebel 用のモニタ・テンプレートおよび構成アイテムの参照情報については、221 ページ「Siebel 用テンプレート・リファレンス」を参照してください。

タスク

モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してモニタをデプロイする方法

このタスクでは、モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してモニタをデプロイするための手順を説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 210 ページ「前提条件」
- ▶ 211 ページ「データフロー管理の実行」
- ▶ 211 ページ「ウィザードの実行」
- ▶ 213 ページ「選択した CI の不足データの入力」
- ▶ 214 ページ「設定のサマリの確認およびモニタのデプロイ」
- ▶ 215 ページ「デプロイメント結果の確認およびレポートのエクスポート」

1 前提条件

- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードを実行するには、SuperUser か Administrator (BSM の場合)、Customer Administrator (HP SaaS の場合) のいずれかの役割が割り当てられている必要があります。
- ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードを実行する前に、関連するカウンタ情報でテンプレートを更新してください。これは、UNIX マシンには共通のファイル・システム設定も共通のカウンタもないため、すべての UNIX マシンに対応する共通テンプレートを SiteScope では用意できないからです。たとえば、カウンタの名前が、あるマシンでは `avail` で、別のマシンでは `available` の場合があります。

2 データフロー管理の実行

モニタ・デプロイメント・ウィザードでモニタをデプロイする前に、関連する検出ジョブを実行して CI を検出し、ビューに情報を設定する必要があります。詳細については、『RTSM Data Flow Management Guide』を参照してください。

ビジネス環境に関連する CI を検出したら、DDM ジョブによって情報が設定されている、事前定義されたビューの 1 つを選択できます。または、モニタ・デプロイメント・ウィザードを実行する目的で、手動でビューを作成できます。タスクの詳細については、215 ページ「[ノード資格情報] ビューの作成方法」を参照してください。

ヒント：資格情報と一緒にホストが表示される [ノード資格情報] ビューを作成し、サーバにアクセスするのに必要な資格情報を持つことをお勧めします。これにより、ウィザードの [監視する CI を選択] 手順において、効率的に関連ホストを選択できます。

注：同じ CI が複数表示されるビューは作成しないでください。同じ CI が複数表示されるビューを選択すると、ウィザードでのビュー全体の選択が失敗します。

3 ウィザードの実行

ウィザードの実行を開始します。ユーザ・インタフェースの詳細については、226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」を参照してください。

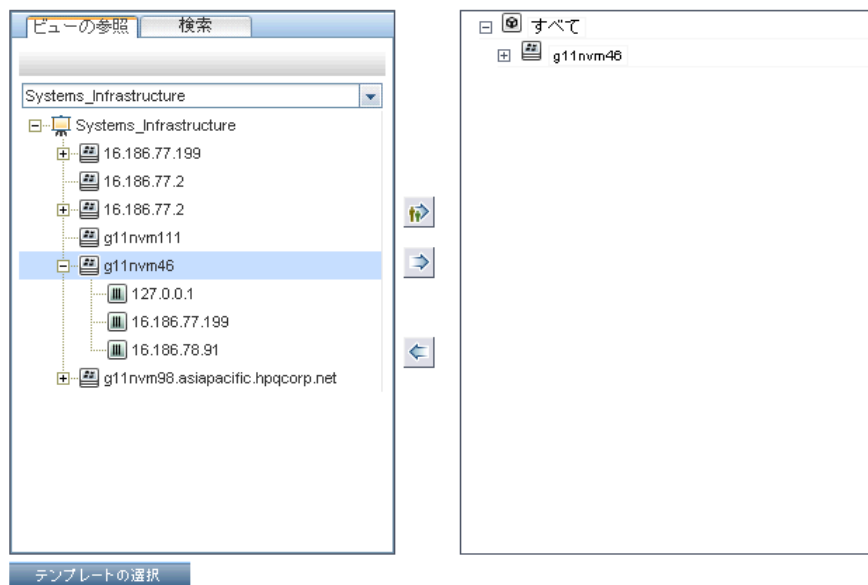
まず、モデル・エクスプローラを使用して、監視対象の CI を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、227 ページ「[監視する CI を選択] ページ」を参照してください。

監視対象の CI を選択したら、[テンプレートの選択] ダイアログ・ボックスを使用して、CI に適用するモニタ・テンプレートを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、229 ページ「[CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

例：

監視する CI を選択

ビューを選択し、ビュー内の CI を強調表示させます。強調表示させた CI へのデプロイメントを行うには右矢印をクリックします。右側のツリーに、選択した CI が表示されます。



4 選択した CI の不足データの入力

[選択済み CI に必要なデータの入力] ページで、デプロイするモニタ・テンプレートを選択し、各テンプレートに不足しているデータがあれば入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、230 ページ「[選択済み CI に必要なデータの入力] ページ」を参照してください。

例：

選択済み CI に必要なデータの入力

すべてのモニタを正しく作成できるように、必要なデータを下のフィールドに入力してください。すべてのフィールドに入力する必要があります。必要なデータが欠落している CI のみ展開されています

CI	変数	値
g11nvm46		
<input checked="" type="checkbox"/> Host Monitors(1 pts)	PrimaryDnsName	g11nvm46
<input checked="" type="checkbox"/> NT Monitors(27 pts)	PrimaryDnsName	g11nvm46
	host_username	user1

5 設定のサマリの確認およびモニタのデプロイ

[最終設定サマリ] ページで、最終設定サマリを確認し、テンプレートをデプロイする SiteScope グループを選択します。[Finish] をクリックして、ウィザードを完了し、モニタをデプロイします。ユーザ・インターフェースの詳細については、232 ページ「[最終設定サマリ] ページ」を参照してください。

例：

最終設定サマリ

このページでは、デプロイメントの前に設定を確認できます。
CI ごとに、テンプレートの一覧とともに、テンプレートごとのモニタの数と推定ライセンス ポイントが表示されます。

SiteScope サーバ上で使用可能なライセンス ポイントの総数は 91 です (必要なポイント数は 28)。

CI 名 / テンプレート名	作成するモニタ	ライセンス ポイント
g11nvm46		
16.186.77.199		
16.186.78.91		
127.0.0.1		
Host Monitors	1	1
NT Monitors	1	27
合計 2 個のテンプレートがある 4 個の CI	2	28

モニタは、次の SiteScope グループにデプロイされます：

Site Scope

- CI グループ階層の作成 (選択したデプロイメント グループの下に、CI 階層の名前に基づいて SiteScope にグループを作成します)
- リモート サーバでモニタのプロパティを検証

参照...

6 デプロイメント結果の確認およびレポートのエクスポート

[デプロイメント結果] ページで、デプロイメントの結果を確認し、必要に応じて、デプロイできなかったテンプレートのデプロイを再度実行します。このページでは、デプロイされている重複モニタの処理も実行できます。また、任意で、デプロイ結果を .pdf ファイルにエクスポートできます。ユーザ・インタフェースの詳細については、234 ページ「[デプロイメント結果] ページ」を参照してください。

例：

デプロイメント結果

成功したデプロイメントのサマリ:

2 個のテンプレートが 1 ci にデプロイされました。
デプロイされたモニタの総数: 2



[ノード資格情報] ビューの作成方法

このタスクでは、[ノード資格情報] ビューの作成に関する手順を説明します。

注：このタスクは高度なタスクのうちの 1 つです。詳細については、210 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用してモニタをデプロイする方法」を参照してください。

[ノード資格情報] ビューを作成するには、次の手順で行います。

- 1 [管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリング スタジオ] を選択します。
- 2 [新規作成] > [パターン ビュー] をクリックします。[新規パターン ビュー] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [新規クエリの作成] を選択し、[OK] をクリックします。パターン・ビュー・エディタが開きます。
- 4 [CI タイプ] タブ (左側の表示枠) で、ツリーの [Managed Object] > [ConfigurationItem] > [InfrastructureElement] 分岐を展開します。[Node] CI タイプをクリックして右側の表示枠にドラッグします。
- 5 ツリーの [InfrastructureElement] 分岐で、[RunningSoftware] > [Agent] を展開します。[Shell] CI タイプをクリックして右側の表示枠にドラッグします。

- 6 CTRL キーを押した状態で、[編集] 表示枠で [Node] クエリ・ノードと [Shell] クエリ・ノードを選択します。そのうちのどちらかを右クリックし、[関係の追加] を選択します。[関係の追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 7 関係を示すウィンドウのツリーから [Composition] を選択します。[OK] をクリックします。
- 8 [Shell] クエリ・ノードを右クリックし、[クエリ ノードのプロパティ] を選択します。[クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 9 [可視] チェック・ボックスをクリアし、[OK] をクリックします。
- 10 ツールバーの [保存] ボタンをクリックして、ビューを保存します。[パターンビューを保存] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 11 [ビュー名] ボックスに「ノード資格情報」と入力し、[OK] をクリックします。

ビューの作成の詳細については、『Modeling Guide』の「Create a Pattern View」を参照してください。

注: ウィザードの [監視する CI を選択] 手順では、さまざまなビューから監視対象とする CI を選択できますが、1 つのビューに複数表示されている場合でも、各 CI は 1 度しか選択できません。

参照情報

テンプレート・リファレンス

モニタ・デプロイメント・ウィザードは、SiteScope のモニタ・ツリーで事前に設定されている一連のテンプレートを利用することで機能します。

本項の内容

- ▶ 217 ページ「テンプレート・リファレンスの表」
- ▶ 221 ページ「Siebel 用テンプレート・リファレンス」

テンプレート・リファレンスの表

次の表には、モニタ・デプロイメント・ウィザードによってテンプレートをデプロイできるすべての構成アイテムが記載されています。この表では、テンプレートと CI タイプ、デプロイするモニタ、RTSM からインポートされるモニタ・プロパティ、RTSM からインポートされるかウィザード内で定義される変数定義を網羅しています。

テンプレート	CI タイプ	適用可能なモニタ	検出されるプロパティ	変数
Apache server	Apache	Apache Server モニタ	server name または IP address	application_IP
			application port (標準設定の値は 8080)	application_port

テンプレート	CI タイプ	適用可能なモニタ	検出されるプロパティ	変数
Host	Host	Ping モニタ	dns name	host_dnsname
	Windows			
	UNIX			
	Network			
	Switch			
	Router			
	switch-router			
Windows server	Windows	Microsoft Windows Resources モニタ	dns name	host_dnsname
				host_password
				host_username
				nt_domain
UNIX	UNIX	CPU モニタと Memory モニタ, UNIX Remote server		connection_method
			dns name	host_dnsname
				host_os
				host_password
Microsoft IIS server	IIS	Microsoft IIS Server モニタ	server name または IP address	application_IP
			host password	host_password
			user name	host_username
			NT domain	nt_domain

テンプレート	CI タイプ	適用可能なモニタ	検出されるプロパティ	変数
Microsoft SQL Server	sqlserver	Microsoft SQL Server モニタ	server name または IP address	application_IP
				nt_domain
				SqlServerHost パスワード
				SqlServerHost ユーザ名
Oracle database	Oracle	Oracle Database モニタ	server name または IP address	application_IP
			application password (標準設定の値は manager)	application_password
			application user name (標準設定の値は system)	application_user name
			database port (標準設定の値は 1521)	database_dbport
			データベース SID	database_dbsid
UDDI	UDDI Registry	UDDI Server	data_name	data_name
			business_name	business_name

テンプレート	CI タイプ	適用可能なモニタ	検出されるプロパティ	変数
Web Services	Web Service	WSDL	method_name	method_name
				method_ns
			ParamUrl	ParamUrl
				port
			purl	purl
				service_name
			soap_action	soap_action
			WsdUrl	WsdUrl

Siebel 用テンプレート・リファレンス

次の表には、モニタ・デプロイメント・ウィザードによってモニタをデプロイできるすべての Siebel 構成アイテムが記載されています。Siebel 用テンプレートは、グループごとにまとめられています。この表では、CI テンプレートと CI タイプ、デプロイするモニタ、RTSM からインポートされるモニタ・プロパティ、RTSM からインポートされるかウィザード内で定義される変数定義を網羅しています。

Siebel Application Server モニタ

テンプレート	CI タイプ	適用可能なモニタ	検出されるプロパティ	変数
Siebel Application Server	Application Server	Siebel Application Server log	Server_Name	Server_Name
			Siebel_Root_Dir	Siebel_Root_Dir
			Siebel_Logical_Instance_Name	Siebel_Logical_Instance_Name
		Siebel Application Server	Application	Application
			Gateway	Gateway
			Enterprise	Enterprise
			Username	Username
			Server_Manager_Path	Server_Manager_Path
	PASSWORD	PASSWORD		
	Database	Siebel Enterprise Integration Manager process (増加率)	Database_Connection_URL	Database_Connection_URL
			Database_Driver	Database_Driver
			Database_UserName	Database_UserName
			Database_Server_Name	Database_Server_Name
			PASSWORD	PASSWORD

テンプレート	CI タイプ	適用可能な モニタ	検出されるプロ パティ	変数
Siebel Application Server Server (つづき)	Database (つづき)	Siebel Transaction Logging process (有 効かどうか)	Database_ UserName	Database_ UserName
			Database_Driver	Database_Driver
			Database_ Connection_ URL	Database_ Connection_ URL
			Database_Server _Name	Database_Server_ Name
			Database_PASS WORD	Database_ PASSWORD
		Siebel Transaction Router process (増加率)	Database_UserN ame	Database_ UserName
			Database_Driver	Database_Driver
			Database_Conn ection_URL	Database_ Connection_URL
			Database_Server _Name	Database_Server_ Name
			Database_PASS WORD	Database_ PASSWORD
		Siebel Workflow Rules process (増加率)	Database_UserN ame	Database_ UserName
			Database_Driver	Database_Driver
			Database_Conn ection_URL	Database_ Connection_URL
			Database_Server _Name	Database_Server_ Name
			Database_PASS WORD	Database_ PASSWORD

テンプレート	CIタイプ	適用可能な モニタ	検出されるプロ パティ	変数
Siebel Application Server Host	Host	Disk Space	Server_Name	Server_Name
		Ping	Server_Name	Server_Name
		Memory	Server_Name	Server_Name
		CPU	Server_Name	Server_Name
		Directory log	Server_Name	Server_Name
			Siebel_Root_Dir	Siebel_Root_Dir
		Service Siebel Server	Server_Name	Server_Name
			Enterprise	Enterprise
			Server_Logical_Instance_Name	Server_Logical_Instance_Name
		Directory	Server_Name	Server_Name
Siebel_Root_Dir	Siebel_Root_Dir			
Siebel Component	Siebel Component	Siebel Component log	alias	alias
			Server_Name	Server_Name
			Application	Application
			Siebel_Root_Dir	Siebel_Root_Dir
			Siebel_Logical_Instance_Name	Siebel_Logical_Instance_Name
		Siebel Component	alias	alias
			Username	Username
			Enterprise	Enterprise
			Application	Application
			Gateway	Gateway
			Server_Manager_Path	Server_Manager_Path
			Server_Logical_Instance_Name	Server_Logical_Instance_Name
			PASSWORD	PASSWORD
			Group_Name	Group_Name
			data_name	data_name

テンプレート	CI タイプ	適用可能な モニタ	検出されるプロ パティ	変数
Siebel Component Group	Siebel Component Group	Siebel Component Group (有 効かどうか)	alias	alias
			Server_Logical_Instance_Name	Server_Logical_Instance_Name
			Enterprise	Enterprise
			Application	Application
			Gateway	Gateway
			data_name	data_name
			Server_Manager_Path	Server_Manager_Path
			Server_Name	Server_Name
PASSWORD	PASSWORD			

Siebel Gateway モニタ

テンプレート	CI タイプ	適用可能な モニタ	検出されるプロ パティ	変数
Siebel Gateway Server Host	Host	CPU	Server_Name	Server_Name
		Directory	Server_Name	Server_Name
			Siebel_Root_Dir	Siebel_Root_Dir
		Disk Space	Server_Name	Server_Name
		Memory	Server_Name	Server_Name
		Ping	Server_Name	Server_Name
		Service	Server_Name	Server_Name

Siebel Web Server モニタ

テンプレート	CI タイプ	適用可能な モニタ	検出されるプロ パティ	変数
Siebel Web Server Extension	Siebel Web Server Extension	Service	Server_Name	Server_Name
		Siebel Web Server	Server_Name	Server_Name
			Application	Application
			Username	Username
			PASSWORD	PASSWORD
		URL	Server_Name	Server_Name
			Application	Application
			Username	Username
			PASSWORD	PASSWORD
		Siebel Web Server Host	Host	CPU
Directory	host_dnsname			host_dnsname
	Siebel_Root_Dir			Siebel_Root_Dir
Disk Space	host_dnsname			host_dnsname
Memory	host_dnsname			host_dnsname
Ping	host_dnsname			host_dnsname
Service	host_dnsname			host_dnsname
Web Server	Web Server	Microsoft IIS Server	host_dnsname	host_dnsname
		Port 80	host_dnsname	host_dnsname

モニタ • デプロイメント • ウィザード

注: モニタ • デプロイメント • ウィザードは、BSM の SAM 管理から SiteScope にアクセスする場合にのみ、お使いいただけます。

このウィザードを使用すると、事前に定義されているテンプレートを基に、RTSM の構成アイテム • データを使用して、SiteScope モニタをデプロイできます。

アクセス方法	[管理] > [システム可用性管理] を選択します。必要な SiteScope サーバまたはグループを右クリックし、[モニタ デプロイメント ウィザード] を選択するか、[サマリ] ページで、必要な SiteScope サーバの横にある [モニタ デプロイメント ウィザード] アイコンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードを使用できるのは、実行中の SiteScope が SAM 管理でホストされている場合のみです。 ▶ モニタ • デプロイメント • ウィザードの実行完了後、すぐにはデプロイされたモニタは実行されず、定義されているモニタの実行間隔に従って実行されます。すべての更新内容が実装されるまで、しばらくお待ちください。
関連タスク	210 ページ「モニタ • デプロイメント • ウィザードを使用してモニタをデプロイする方法」
関連情報	202 ページ「モニタ • デプロイメント • ウィザードの概要」
ウィザード • マップ	<p>モニタ • デプロイメント • ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ • ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>

[ようこそ] ページ

このウィザード・ページでは、ウィザードについて紹介します。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ 次の状態では、次のページに進む際に、エラー・メッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択した SiteScope が利用できない場合 または ▶ RTSM が利用できない場合
ウィザード・マップ	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>
関連情報	202 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザードの概要」

[監視する CI を選択] ページ

このウィザード・ページでは、SiteScope モニタのデプロイ対象とする CI を選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ 同じ CI が左側の表示枠の同じビューに複数表示されている場合、異なるビューからその CI を選択する場合であっても、右側の表示枠に表示される選択項目で、その CI を 2 回以上選択できません。 ▶ ウィザードでは、選択した CI の監視状態が完全であるか部分的であるかをチェックします。CI にテンプレートをデプロイしてから、重複しているモニタを処理することもできます。
--------------	---

<p>ウィザード・マップ</p>	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>
<p>関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 204 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザードのテンプレートと変数」 ▶ 207 ページ「完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。



<p>UI 要素</p>	<p>詳細</p>
<p><モデル・エクスプローラ></p>	<p>[監視する CI を選択] ページでは、標準のモデル・エクスプローラ機能を使用して、左側の表示枠から CI を選択し、右側の表示枠に移動します。詳細については、『Modeling Guide』の「CI Selector User Interface」を参照してください。</p> <p>注：このウィザードでは、次の CI 用のモニタは作成できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特定のモニタ・タイプのデプロイに使用できる適切なテンプレートがない CI ▶ モニタ CI である CI（通常、モニタ・ビューに表示されます） <p>このような CI を選択した場合、ウィザードの次の手順に進む際に、警告メッセージが表示されます。</p>

[CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス

このウィザード・ページでは、ウィザードによって自動的に対応付けられなかったテンプレートを CI タイプに適用できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードでは、選択した CI の CI タイプに、自動的にテンプレートが対応付けられます。このダイアログ・ボックスでは、それ例外のテンプレートを手動で追加できます。選択したテンプレートは、選択したすべての CI タイプに追加されます。 ▶ モニタ・デプロイメント・ウィザードでサポートされるのは、標準設定のトポロジが定義されているモニタのトポロジ・レポートのみです。つまり、CI にテンプレートを追加できるのは、その CI が、テンプレートのすべてのモニタの標準設定の CI である場合のみです。
ウィザード・マップ	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>
関連情報	204 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザードのテンプレートと変数」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
	左側の表示枠内で選択したテンプレートを、右側の表示枠内で選択した CI に追加します。
	選択した CI から選択したテンプレートを削除します。
<テンプレート・リスト>	左側の表示枠には、ウィザードで利用できるすべてのテンプレートのリストが表示されます。子オブジェクトは、そのテンプレートによってデプロイされるモニタです。

UI 要素	詳細
<選択した CI タイプ>	右側の表示枠には、モニタ・デプロイメント・ウィザードの [監視する CI を選択] 手順で選択したすべての CI の CI タイプのリストが表示されます。ウィザードによって、選択した CI タイプにテンプレートを対応付けできた場合、その CI タイプは子オブジェクトとして、適用可能なテンプレートと併せて表示されます。
一致を保存	選択したテンプレートをプリファレンスとして保存します。これには、CI タイプに対して手動で選択されたテンプレートと、ウィザードによる自動選択で処理されたテンプレートが含まれます。テンプレートの選択内容が手動で調整されている場合、次回、同じ BSM ユーザがこのウィザードを実行するときに、調整後の内容が選択した CI に自動的に対応付けられます。
標準設定の復元	リストをリセットし、追加されたテンプレートを CI タイプからすべて削除します (ウィザードによって自動的に追加されたテンプレートは残ります)。

[選択済み CI に必要なデータの入力] ページ

このウィザード・ページでは、特定の CI に対するテンプレート選択を調整し、テンプレートに不足している情報を入力できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ 選択したテンプレートに不足しているデータがある場合、エラーが表示され、次の手順に進めません。 ▶ 選択が解除されているテンプレートがあると、次の手順に進む前に、選択されていないテンプレートがあることを通知する警告が表示されます。選択が解除されているテンプレートにデータが入力されているかどうかにかかわらず、必ずこの動作になります。
ウィザード・マップ	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<展開された CI リスト>	必要なデータが不足している CI は、展開された状態で表示されます（データが不足している CI がない場合、このセクションは表示されません）。
<展開されていない CI リスト>	不足しているデータがない CI は、展開されていない状態で表示されます。ただし、任意で、CI を展開してデータを編集できます（すべての CI でデータが不足している場合、このセクションは表示されません）。
[CI] カラム	各 CI のテンプレートは、個別に、各テンプレートの関連するライセンス・ポイント数と併せて表示されます。モニタのデプロイに使用する CI とテンプレートの組み合わせのチェック・ボックスを選択します。
[変数] カラム	[変数] カラムには、データが不足しているテンプレートの変数が表示されます。
[値] カラム	すべての選択したテンプレートの不足データは、[値] カラムに表示されます。フィールド間をタブ移動して、利用可能なフィールドに必要なデータを入力できます。選択されていないテンプレートには、不足データを入力する必要はありません。

[最終設定サマリ] ページ

このウィザード・ページには、これからデプロイするモニタのリストが表示されます。また、モニタのデプロイ対象とする SiteScope グループを選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ 表の上に、SiteScope サーバで利用可能なライセンス・ポイントの合計（現在の操作完了後の合計）が表示されません。現在の操作に必要なライセンス・ポイントが利用可能なポイントを上回っている場合、警告が表示され、選択したテンプレートの一部を削除するよう指示されます。
ウィザード・マップ	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
[CI 名 / テンプレート名] カラム	選択した CI を各 CI のテンプレートと併せて表示します。
[作成するモニタ] カラム	テンプレートごとに作成されるモニタの数を表示します。
[ライセンス ポイント] カラム	各モニタに必要な SiteScope ライセンス・ポイント数を表示します。
[SiteScope グループ] 選択ウィンドウ	<p>モニタのデプロイに使用する SiteScope グループを選択するには、[参照] をクリックし、[SiteScope グループの選択] ダイアログ・ボックスのツリーから任意のグループを選択します。</p> <p>注: 同じグループ内の同じ CI に同じモニタを 2 回デプロイするように指定しても、名前が一意でないことを示すエラーが返されて、デプロイメントは失敗します。ただし、同じ CI に同じモニタをデプロイする場合でも、異なるグループをデプロイ対象に選択できます。</p>


UI 要素	詳細
CI グループ階層の作成	<p>CI グループ階層を作成します。デプロイ先のグループに、階層が CI と同じ SiteScope グループが作成されます。詳細については、207 ページ「CI グループ階層のオプション」を参照してください。</p> <p>標準設定値：選択されていない</p>
リモート・サーバでモニタ・プロパティを検証	<p>テンプレートがデプロイされるリモート・サーバで、選択済みテンプレートのモニタ設定のプロパティが正しいかを検証します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションを選択すると、リモート接続を使用するためパフォーマンスが低下します（動作が遅くなる）。 ▶ このオプションは、SiteScope 10.10 以降を使用する場合に利用できます。 <p>標準設定値：選択されていない</p>

[デプロイメント結果] ページ

このウィザード・ページには、成功したテンプレート・デプロイメントと失敗したテンプレート・デプロイメントについてのサマリが表示されます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『226 ページ「モニタ・デプロイメント・ウィザード」』を参照してください。 ▶ モニタのデプロイメントは、テンプレート・レベルで処理されます。つまり、いずれかのテンプレート要素（モニタ、グループ、リモート、警告）のデプロイメントが失敗すると、そのテンプレートに含まれるその他のモニタもデプロイされません。 ▶ 物理モニタ（CPU モニタなど）をデプロイする場合は、同じ名前のリモート・サーバ（Microsoft Windows または UNIX）が [リモート サーバ] 以下に存在していない場合、このサーバも併せて作成されます。
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>モニタ・デプロイメント・ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ようこそ] ページ > [監視する CI を選択] ページ > ([CI タイプに対するテンプレート選択] ダイアログ・ボックス) > [選択済み CI に必要なデータの入力] > [最終設定サマリ] ページ > [デプロイメント結果] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
	<p>エクスポート : モニタ・デプロイメント・ウィザードの [サマリ] ページを PDF にエクスポートする。このレポートには SiteScope に作成されたすべてのエンティティが網羅され、デプロイメントのディレクトリと状態が表示されます。また、重複モニタの状態も表示されます。</p>
<p>[CI 名] カラム</p>	<p>選択した CI の名前が表示されます。</p>
<p>[オブジェクト名] カラム</p>	<p>特定の CI にデプロイするように選択したモニタが表示されます。</p>
<p>[ステータス] カラム</p>	<p>デプロイメントが成功したかどうかを示す。</p>

UI 要素	詳細
失敗したデプロイメントをやり直す	<p>[失敗したデプロイメントをやり直す] をクリックすると、[Type Required Data for CIs] ページで入力したデータを変更して、デプロイメントが失敗したモニタを再度デプロイできます。</p> <p>注：このボタンは、失敗したデプロイメントがある場合にのみ表示されます。</p>
重複モニタを処理	<p>重複するモニタがデプロイされている場合、[重複モニタを処理] をクリックして、[重複モニタを処理] ダイアログ・ボックスを開きます。表示された重複モニタごとに、そのまま残すか、無効にするか、削除できます。すべてのモニタを同じ方法で処理する場合は、ページにある [すべてをそのまま残す] ボタン、[すべて無効化] ボタン、または [すべて削除] ボタンを使用します。重複モニタの詳細については、207 ページ「完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視」を参照してください。</p>

7

グローバル検索と置換

本章の内容

概念

- ▶ グローバル検索と置換の概要 (238 ページ)

タスク

- ▶ グローバル検索と置換の実行方法 (241 ページ)

参照情報

- ▶ グローバル検索と置換ウィザード (248 ページ)

概念

グローバル検索と置換の概要

グローバル検索と置換ウィザードでは、モニタ、警告、警告アクション、グループ、プリファレンス、レポートの各プロパティを変更できます。SAM 管理での作業中に、オブジェクト・タイプに基づいてオブジェクトを選択し、使用している SiteScope または複数の SiteScope の全体にわたって、選択したオブジェクトのプロパティをグローバルに置換できます。

たとえば、BSM をアップグレードする場合、[グローバル検索と置換] ウィザードを使用して BSM にデータをレポートするすべての SiteScope をアップグレードしたバージョンに設定します。

このセクションは次のトピックで構成されています。

- ▶ 238 ページ「影響を受けるオブジェクトをフィルタ」
- ▶ 239 ページ「置換または検索と置換」
- ▶ 239 ページ「しきい値設定」

影響を受けるオブジェクトをフィルタ

[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] オプションでは、検索操作の選択オブジェクトをさらに絞り込みます。特定のプロパティを選択して、オブジェクトに属する値を選択または入力できます。これにより、置換する値ではなく選択オブジェクトを制限できます。

置換操作の実行中に、[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ページで選択したプロパティに一致するオブジェクトのみで、置換する値のみが置換されます。たとえば、頻度を 5 分に設定したすべてのモニタを選択して、そのすべてのモニタのモニタ依存関係の設定を置換するか、特定のサーバを監視するモニタのみを選択して、フィルタで入力したサーバの値に一致するモニタ・インスタンスの場合にのみしきい値設定を置換します。

置換または検索と置換

置換メソッドでは、フィールドの値を検索してその値を新しい値に置換します。たとえば、[モニタの実行設定] 領域の [頻度] チェック・ボックスを選択して、頻度の値を 10 分から 15 分に更新することで、選択したモニタの実行頻度の標準設定を変更します。

検索と置換メソッドでは、特定の設定とプロパティ値を検索して、入力した設定または値を含むオブジェクトのみを置換します。文字列、値、または正規表現パターンを検索して、その文字列のみを置換できます。置換はフィルタ条件に一致する場合にのみ実行されます。たとえば、現在使用されていないサーバ名が名前の値に含まれるすべてのモニタを検索し、その古いサーバを示す文字列を、更新されたサーバを示す新しい文字列で置換します。

しきい値設定

モニタのしきい値の設定を置換する場合、標準設定では次のすべてを共有する設定のみが置換されます。

- ▶ 同じ条件（「**エラー条件**」，「**警告条件**」，または「**良好条件**」）
- ▶ 同じスケジュールの設定
- ▶ 同じ演算子タイプ（< <=, > >=, ==, !=, 含む, !含む）を使用

注: < (より小さい) と <= (より小さいか等しい) は、> (より大きい) と >= (より大きいか等しい) と同じ演算子タイプとみなされます。

使用された演算子と設定されたスケジュールに関係なく、条件（「**エラー条件**」，「**警告条件**」，または「**良好条件**」）が同じすべての既存のしきい値設定を上書きするオプションもあります。このオプションは [カテゴリーの上書き] と呼ばれ、ウィザードの [タイプの選択] ページで [モニタ] を選択した場合に、ウィザードの [変更の入力] ページの [しきい値の設定] 領域に表示されます。

たとえば、すべての CPU モニタの「**エラー条件**」のしきい値を 85% より大きい設定に変更するとします。ウィザードで、[タイプの選択] ページの [**モニタ**]、[サブタイプの選択] ページの [**CPU**] を選択し、[変更の入力] ページの [**しきい値の設定**] 領域を展開します。

「**新規エラー条件**」の状態に 85% より大きい条件を選択して [**カテゴリの上書き**] オプションを選択すると、すべての CPU モニタの既存の「**エラー条件**」の設定がすべて上書きされ、ウィザードの完了時に 85% より大きい値に変更されます。

このオプションをクリアしたままにすると、ウィザードで選択した 85% より大きい「**エラー条件**」の設定は、< (より大きい) と <= (より大きいか等しい) 演算子を使用してすべての CPU モニタに同スケジュールを設定した「**エラー条件**」の設定のみと置換されます。

しきい値の設定の詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「状態のしきい値の設定」を参照してください。

タスク

グローバル検索と置換の実行方法

このタスクでは、グローバル検索と置換ウィザードを使ってオブジェクトのグローバル検索と置換を実行する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 241 ページ「グローバル検索と置換ウィザードの実行の開始」
- ▶ 241 ページ「SiteScope の選択 (SAM のみで)」
- ▶ 242 ページ「オブジェクト・タイプの選択」
- ▶ 243 ページ「オブジェクトの検索と置換」
- ▶ 246 ページ「影響を受けるオブジェクトのチェック」
- ▶ 247 ページ「置換したオブジェクトの確認」

1 グローバル検索と置換ウィザードの実行の開始

SAM で、[管理] > [システム可用性管理] を選択し、[グローバル検索と置換] ボタンをクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」を参照してください。

2 SiteScope の選択 (SAM のみで)

注: この手順は SAM から [グローバル検索と置換] ウィザードにアクセスする場合にのみ適用できます。

[SiteScope の選択] ページで、検索と置換を実行する 1 つ以上の SiteScope を選択します。

3 オブジェクト・タイプの選択

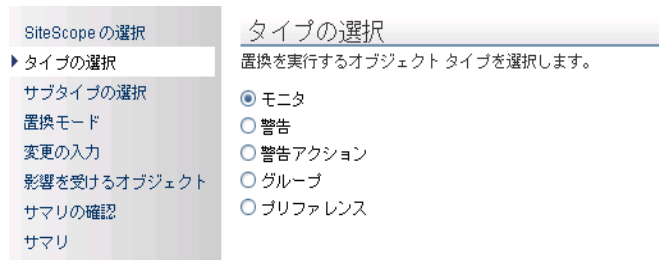
[**タイプの選択**] ページと [**サブタイプの選択**] ページで、置換を実行するオブジェクトと、必要に応じてサブタイプを選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、250 ページ「[タイプの選択] ページ」および 251 ページ「サブタイプの選択ページ」を参照してください。

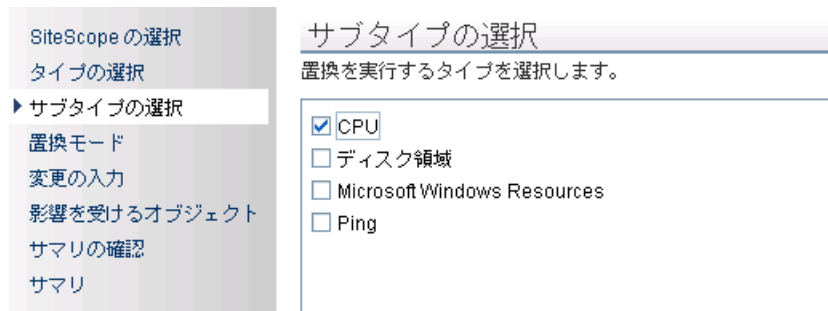
例：

すべての CPU モニタのしきい値の境界を変更します。

オブジェクト・タイプとして [**モニタ**] を選択します。



特定のモニタ・タイプとして [**CPU**] を選択します。



4 オブジェクトの検索と置換

[置換モード] ページで、置換のタイプを選択します。[置換] を選択してオブジェクトをグローバルに置換するか、[検索と置換] を選択してオブジェクトの特定のインスタンスを置換します。必要に応じて、[詳細フィルタ] ダイアログ・ボックスを開き、オブジェクトのプロパティを使用してフィルタできます。このダイアログ・ボックスで、置換操作を実行するオブジェクトを選択します。[変更の入力] ページで、置換するプロパティまたは値を選択します。

ユーザ・インターフェースの詳細については、252 ページ「置換モードページ」および 253 ページ「変更の入力ページ」を参照してください。

例 - 特定のサーバのモニタ実行の頻度の低減：

会社の特定のサーバで、モニタを実行する頻度を低減するとします。

[変更の入力] ページの [モニタ設定] 領域で選択内容をフィルタして、指定したサーバを監視するモニタのみが含まれるようにします。

SiteScope の選択

タイプの選択

サブタイプの選択

置換モード

▶ **変更の入力**

影響を受けるオブジェクト

サマリの確認

サマリ

変更の入力

実行する変更を入力します。マークされたプロパティが入力された値で置換されます。

一般設定

モニタ設定

サーバ: SiteScope Server サーバの参照 リモート

[変更の入力] ページで、指定したサーバを監視する1日1回の新しい頻度を
入力します。

SiteScope の選択

タイプを選択

サブタイプを選択

置換モード

▶ 変更の入力

影響を受けるオブジェクト

サマリの確認

サマリ

変更の入力

実行する変更を入力します。マークされたプロパティが入力された値で置換されます。

一般設定

モニタ設定

モニタの実行設定

頻度: 分 ▼

エラー時頻度: 秒 ▼

エラーの検証

モニタのスケジュール: ▼

更新時に実行結果を表示

例 - 指定した電子メール・アドレスに警告メッセージを送信する警告アクションの設定：

指定した電子メール・アドレスに警告メッセージを送信する、警告アクションを設定します。その後、警告を受信するように設定した電子メール・アドレスの1つを変更して、新しい電子メール・アドレスに警告メッセージが送信されるようにするとします。更新するのは、変更された電子メール・アドレスのみです。

オブジェクト・タイプとして **[警告アクション]** を選択したら、[置換モード] ページの **[検索と置換]** を選択します。

SiteScope の選択

タイプを選択

サブタイプを選択

▶ 置換モード

変更の入力

影響を受けるオブジェクト

サマリの確認

サマリ


置換モード

フィールドを新しい値で置換する場合は、[置換] を選択します。フィールドを含む文字列を検索して新しい値で置換する場合は、[検索と置換] を選択します。

置換

検索と置換

[変更の入力] ページで、[次を検索:] フィールドに古い電子メール・アドレス、[次で置換:] フィールドに新しい電子メール・アドレスを入力します。



SiteScope の選択
タイプの選択
サブタイプの選択
置換モード
▶ 変更の入力
影響を受けるオブジェクト
サマリの確認
サマリ

変更の入力

実行する変更を入力します。マークされたプロパティが入力された値で置換されます。

次を検索: @yahoo.com 次で置換: @hotmail.com

一般設定

- 名前:
- モニタの詳細:
- レポートの詳細:

5 影響を受けるオブジェクトのチェック

[影響を受けるオブジェクト] ページで影響を受けるオブジェクトを表示し、必要に応じて置換操作対象のオブジェクトをクリアまたは選択します。必要に応じて、[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックスを開いてオブジェクトのプロパティでフィルタできます。このダイアログ・ボックスで、置換操作を実行するオブジェクトを選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、258 ページ「影響を受けるオブジェクトページ」を参照してください。

例 - 特定のサーバのモニタ実行の頻度の低減:

会社の特定のサーバで、モニタを実行する頻度を低減するとします。

[置換モード] ページ, [変更の入力] ページの [置換] を選択した場合, 指定したサーバを監視する新しい頻度として 1 日 1 回を入力します。

SiteScope の選択

タイプの選択

サブタイプの選択

置換モード

▶ 変更の入力

影響を受けるオブジェクト

サマリの確認

サマリ

変更の入力

実行する変更を入力します。マークされたプロパティが入力された値で置換されます。

一般設定

モニタ設定

モニタの実行設定

頻度: 日 ▼

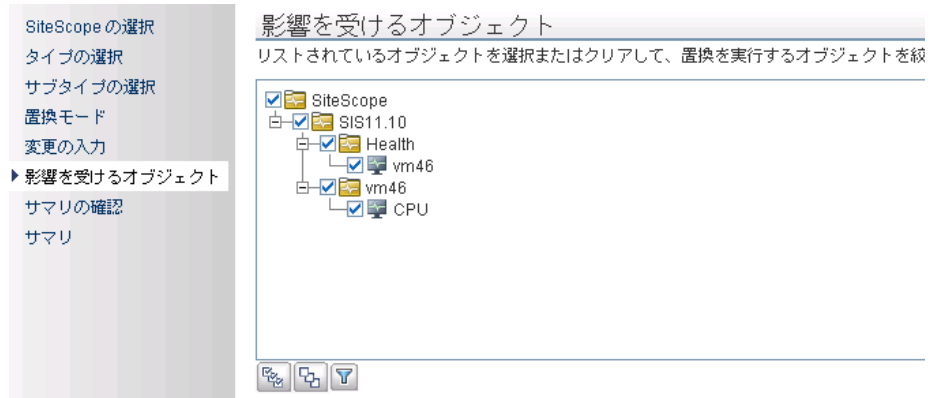
エラー時頻度: 秒 ▼

エラーの検証

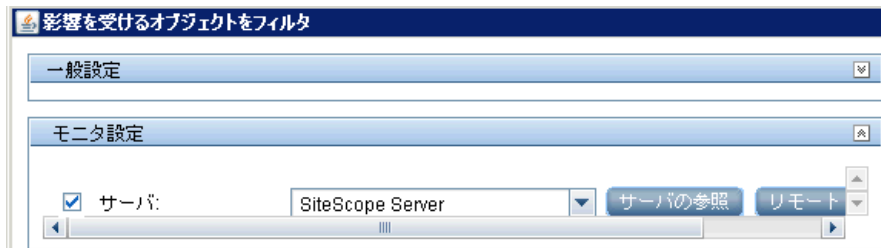
モニタのスケジュール: ▼

更新時に実行結果を表示

影響を受けるオブジェクトが [影響を受けるオブジェクト] ページに表示されます。



[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ページでの選択項目は、指定したサーバを監視するモニタのみが含まれるようにフィルタできます。



6 置換したオブジェクトの確認

[サマリの確認] ページで、置換操作の結果を確認し、[Finish] をクリックしてウィザードを完了します。[サマリ] ページで変更のサマリを表示して、正常に実行された変更と発生したエラーを参照できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、260 ページ「サマリの確認ページ」および 262 ページ「サマリページ」を参照してください。

参照情報

グローバル検索と置換ウィザード

このウィザードでは、グループ、モニタ、プリファレンス、警告、警告アクション、レポートのプロパティを変更できます。これらの変更は、SAM 管理での作業中に 1 つの SiteScope または複数の SiteScope 全体で実行できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SiteScope で、グローバル置換を実行するモニタ・ツリーの SiteScope ルート、グループ、モニタのいずれかを右クリックします。プリファレンス・オブジェクトを置換するには、SiteScope ルートを右クリックします。警告オブジェクトを置換するには、SiteScope ルート、または関連グループかモニタ・オブジェクトを右クリックします。ショートカット・メニューから [グローバル検索と置換] を選択します。 ▶ BSM で、[管理] > [システム可用性管理] を選択します。右側の表示枠の [SiteScope サマリ] テーブル下で、 [グローバル検索と置換] ボタンをクリックします。
関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	<p>このウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ</p>

SiteScope の選択ページ

注：このページは、SAM 管理で作業しているときのみ表示されます。

このウィザード・ページでは、置換を実行する SiteScope を選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ バージョン 9.0 以降で、接続状態の設定を SAM から変更できる SiteScope のみが表示されます。 ▶ 少なくとも 1 つの SiteScope を選択する必要があります。
関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
< SiteScope マシン >	検索と置換を実行する SiteScope を 1 つ以上選択する。

[タイプの選択] ページ

このウィザード・ページでは、置換を実行するオブジェクト・タイプを選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ 選択したノードで利用可能なオブジェクトのタイプのみが表示されます。
関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
警告 警告アクション グループ モニタ Preferences レポート	<p>各置換操作に対して 1 つのオブジェクト・タイプのみ選択できます。SiteScope に存在するオブジェクトのみが表示されます。</p> <p>SAM 管理で [グローバル検索と置換] を実行するときに、前のページで選択した少なくとも 1 つの SiteScope に、グループ、モニタ、警告、警告アクション、プリファレンスが存在する場合にのみ表示されます。</p>

サブタイプの選択ページ

このウィザード・ページでは、置換を実行するオブジェクト・タイプのプロパティを選択できます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ このページは、ウィザードの [タイプの選択] ページでオブジェクト・タイプとして [警告アクション], [モニタ], または [プリファレンス] を選択した場合にのみ表示されます。 ▶ [グループ], [警告], または [レポート] のオブジェクト・タイプを選択した場合は、このページは表示されません。
関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
<オブジェクト・タイプのプロパティ>	オブジェクト・タイプのプロパティを表示する。たとえば、オブジェクト・タイプとして「モニタ」を選択すると、選択した SiteScope のすべてのモニタ・タイプが一覧表示されます。

置換モードページ

このウィザード・ページでは、置換のタイプ（グローバル置換またはフィルタ条件に基づいた置換）を選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。
関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。 (SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ。

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
置換	すべての一致するオブジェクトを新しい文字列または値とグローバルに置換します。
検索と置換	対象オブジェクトで文字列または正規表現に一致するプロパティを検索し、一致するパターンのみを置換値と置換する。 この置換メソッドには特定の設定とプロパティ値の検索が含まれ、入力した設定または値を含むオブジェクトのみを置換します。値の一部のみを選択して、その文字列のみを置換できます。 注： <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションを選択した場合、値に文字列を含めることができる設定のみが 【変更の入力】 ページの設定領域で利用可能で、検索と置換アクションに選択できます。 ▶ この設定は、置換する対象の選択と値の指定に使用します。置換する値ではなく選択オブジェクトを制限する方法の 【詳細フィルタ】 オプションとは異なります。 <p>例：現在使用されていないサーバ名が名前の値に含まれるすべてのモニタを検索します。その古いサーバを示す文字列を、更新されたサーバを示す新しい文字列で置換します。</p>

変更の入力ページ

このウィザード・ページでは、グローバル置換の置換対象を選択できます。ウィザードには、前のページで選択したオブジェクト・タイプの変更可能な設定とプロパティのみが表示されます。フィルタ条件は、[タイプ] ページ、[サブタイプ] ページ、[詳細フィルタ] ページの選択内容から作成されます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ 表示されるサブタイプのプロパティは、SiteScope でモニタ、警告、プリファレンスなどを編集するときに表示されるプロパティとは異なる可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 例：[電子メールのプリファレンス] は [グローバル検索と置換] ユーティリティではドロップダウン・リストではなくテキスト・ボックスで、[依存の対象] プロパティは [グローバル検索と置換] ユーティリティに表示されません。 ▶ [サーバ] プロパティは、CPU、ディスク領域、メモリ、Microsoft Windows パフォーマンス・カウンタ、Web サーバ、サービス・モニタのモニタが選択されている場合のみ利用できます。そのほかのモニタの場合、サーバ属性は、[サブタイプの選択] ページでその特定のモニタのサブタイプを選択することによってのみ変更できます。たとえば、Web サーバ・モニタで CPU モニタを選択している場合は、サーバ・プロパティを利用できます。このグループ以外のモニタも選択している場合、サーバ・プロパティは利用できません。 ▶ SAM 管理内で SiteScope をお使いの方へ：置換操作対象に選択した SiteScope のバージョンがすべて同じでない場合、SiteScope のサブタイプ間でプロパティが一致しない場合があります。
<p>関連タスク</p>	<p>241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ。</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<p>次を検索 次で置換</p>	<p>[置換モード] ページで [検索と置換] オプションを選択した場合、[次を検索] および [次で置換] のテキスト・ボックスがこのページの上部に追加される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [次を検索] ボックスには、置換する設定またはプロパティの検索文字列、値、または正規表現パターンを入力します。 ▶ [次で置換] ボックスには、すべての一致するパターンで変更する文字列または値を入力します。 <p>注： [モニタの実行設定] で [頻度] を選択した場合、[次を検索:] と [次で置換:] テキスト・ボックスに入力する値は秒単位で入力する必要があります。たとえば、頻度が 10 分のモニタを検索して頻度を 20 分に変更するとします。[次を検索] テキスト・ボックスに「600」と入力し、[次で置換:] テキスト・ボックスに「1200」と入力します。</p> <p>フィルタ条件に合うオブジェクトが見つからない場合は、エラー・メッセージが表示されます。フィルタ条件を再度選択します。</p>
<p><設定領域></p>	<p>この領域には、選択したオブジェクトの設定が表示される。これらの設定の詳細については、選択したオブジェクトの設定ページを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [置換モード] ページで [検索と置換] を選択した場合は、設定領域の設定のみを選択します。[次を検索] と [次で置換] ボックスに、置換する古い値と新しい値を入力します。 ▶ [置換モード] ページで [置換] を選択した場合、設定領域で設定と新しい値を選択します。 <p>一部の領域の詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 255 ページ「[しきい値の設定] 領域」 ▶ 255 ページ「フィルタ設定領域」 ▶ 256 ページ「サーバ設定領域」

〔しきい値の設定〕領域

〔しきい値の設定〕領域については次のとおりです。

- ▶ [タイプの選択] ページで [モニタ] を選択して、[サブタイプの選択] ページで 1 つのモニタを選択する場合にのみ表示される。
- ▶ [サブタイプの選択] ページで複数のモニタを選択し、いずれかのモニタにしきい値の定義が含まれない場合、[変更の入力] ページに表示されない。

[タイプの選択] ページで [モニタ] を選択した場合にのみ、[カテゴリの上書き] オプションが [しきい値の設定] 領域に表示されます。

- ▶ このオプションを選択すると、選択したモニタ・インスタンスで同じしきい値条件（「エラー条件」、「警告条件」、または「良好条件」）のしきい値を、ここで置換操作として入力した設定に上書きできます。
- ▶ このオプションがクリアされている場合、ここで入力した設定は、モニタ・インスタンスの演算子タイプ (<=>, >=>, !=, ==, 含む, doesNotContain) と設定したスケジュールが同じ設定のみと置換されます。条件が同じで演算子タイプまたはスケジュールが異なるその他の設定はそのままとなり、変更されません。このオプションの詳細と例については、239 ページ「しきい値設定」を参照してください。

フィルタ設定領域

[タイプの選択] ページで [警告] を選択した場合、[フィルタ設定] の [モニタタイプの一致] フィールドは表示されず、ウィザードで値を置換できません。

サーバ設定領域

[サーバ設定] 領域は, [タイプの選択] ページで [モニタ] を選択し, [サブタイプの選択] ページで 1 つのモニタを選択した場合に, [変更の入力] ページに表示されます。

[サブタイプの選択] ページで複数のモニタを選択し, それらのモニタが同じファミリに属していない場合 (次の表に記載), [サーバ設定] 領域は表示されません。

モニタのファミリ	モニタ
SAP モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SAP Java Web Application Server ▶ SAP CCMS ▶ SAP CCMS Alerts ▶ SAP Performance ▶ SAP Work Processes
SNMP モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Cisco ▶ F5 Big-IP ▶ Network Bandwidth ▶ MIB による SNMP
URL モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ URL ▶ URL List ▶ URL Content ▶ URL Sequence
Media Player モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Real Media Player ▶ Microsoft Windows Media Player


モニタのファミリー	モニタ
Windows Counters モニタ	<ul style="list-style-type: none">▶ ASP▶ Citrix▶ ColdFusion▶ Microsoft Hyper-V▶ Microsoft IIS Server▶ Microsoft SQL Server▶ Microsoft Windows Media▶ Real Monitor
Server モニタ	<ul style="list-style-type: none">▶ CPU▶ Disk Space▶ Memory▶ Microsoft Windows Performance Counter▶ Service▶ UNIX Resources▶ Web Server

影響を受けるオブジェクトページ

このウィザード・ページでは、変更対象として選択したオブジェクトを表示できます。ページには、選択したオブジェクトがツリー形式で表示されます。[影響を受けるオブジェクト] ツリーのオブジェクトは、置換操作に応じてクリアまたは選択できます。


<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ 表示されるオブジェクトは、ユーザにオブジェクトの変更権限があるかどうかによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SAM 管理では、権限は BSM の [権限管理] ([管理] > [プラットフォーム] > [ユーザと権限]) で設定します。 ▶ SiteScope スタンドアロンでは、権限は [プリファレンス] > [ユーザ管理プリファレンス] で設定します。 ▶ [置換モード] ページで [検索と置換] を選択した場合、置換はフィルタ条件に一致する場合にのみ実行されます。[置換] を選択した場合、置換はすべての選択オブジェクトで実行されます。
<p>関連タスク</p>	<p>241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
	フィルタ ：必要に応じて、クリックしてダイアログ・ボックスを開き、選択をさらに絞り込む。ユーザ・インタフェースの詳細については、259 ページ「[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
< [影響を受けるオブジェクト] ツリー >	[影響を受けるオブジェクト] ツリーには、ウィザードの前のページで選択したフィルタ条件に一致するすべてのオブジェクトが含まれます。 置換操作が必要かどうかに応じて、オブジェクトを選択またはクリアします。 注 ：SAM で [グローバル検索と置換] を使用している場合、選択した各 SiteScope のツリーが表示されます。

[影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、オブジェクト・タイプのほか、各オブジェクトに固有の設定に基づいてオブジェクトを選択できます。たとえば、危険域の定義済みカテゴリがあるすべての警告を選択して、その警告の任意の設定を置換できます。また、特定のモニタまたはグループに設定した依存関係があるすべてのグループを選択して、そのグループの任意の設定を置換することもできます。

アクセス方法	影響を受けるオブジェクトページの [フィルタ]  ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ このオプションは置換の選択の絞り込みのみに使用し、置換の対象は指定しません。

<p>関連タスク</p>	<p>241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ>サブタイプの選択ページ>置換モードページ>変更の入力ページ>影響を受けるオブジェクトページ> ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) >サマリの確認ページ>サマリページ。</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します (ラベルのない要素は山括弧内に表示されます)。

<p>UI 要素</p>	<p>詳細</p>
<p><設定領域></p>	<p>選択したオブジェクトに関する設定領域が表示されます。これらの設定の詳細については、選択したオブジェクトの設定ページを参照してください。プロパティを選択し、選択オブジェクトをフィルタする値を入力します。</p>


サマリの確認ページ

このウィザード・ページでは、置換操作を実行するオブジェクトをプレビューできます。SAM 管理で複数の SiteScope を使用して作業している場合、各 SiteScope のテーブルが表示され、そのテーブルの上に SiteScope 名が表示されます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ グローバル置換で影響を受けるオブジェクト数が、テーブルの上に表示されます。 ▶ 各テーブル・カラムは、カラム・タイトルを右クリックして昇順または降順に並べ替えることができます。上矢印または下矢印は、並べ替え順序を示します。 ▶ このページで [適用] をクリックすると、置換操作は元に戻せません。
---------------------	---

関連タスク	241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」
ウィザード・マップ	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ。</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。



UI 要素	詳細
	<p>列タイトルの上矢印と下矢印をクリックして、列の並べ替え順序を変更します。</p> <p>標準設定値： [完全名] カラムは、昇順のアルファベット順です。</p>
完全名	値が置換されるサーバ名、グループ、モニタ名、モニタのプロパティのツリーを表示します。
< プロパティ >	置換操作の結果変更された [変更の入力] ページで選択したボックス名。
以前の値	置換操作の結果として変更される現在の値。 注： 置換される値がクリアされていたチェック・ボックスで、この時点で値を選択する場合、チェック・ボックスの以前の値（クリアされていた値）は表示されない可能性があります。
新規値	[変更の入力] ページで入力した新しい値。
リモート・サーバでモニタ・プロパティを検証	<p>変更が加えられるリモート・サーバと比較して、モニタ設定プロパティが正しいかどうかを検証する。</p> <p>標準設定値： 選択済み</p> <p>注： このオプションを選択すると、リモート接続のため、変更に必要な時間が長くなります。</p>

サマリページ

[サマリ] ページでは、正常に実行された変更とエラーが発生した変更がレポートされます。ページには、テーブル形式で変更が表示されます。SAM 管理で複数の SiteScope を使用して作業している場合、各 SiteScope のテーブルが表示され、そのテーブルの上に SiteScope 名が表示されます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般情報は、『248 ページ「グローバル検索と置換ウィザード」』を参照してください。 ▶ 置換操作で実行した変更は元に戻せません。 ▶ グローバル置換で影響を受けるオブジェクト数が、テーブルの上に表示されます。 ▶ 各テーブル・カラムは、カラム・タイトルを右クリックして昇順または降順に並べ替えることができます。上矢印または下矢印は、並べ替え順序を示します。
<p>関連タスク</p>	<p>241 ページ「グローバル検索と置換の実行方法」</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>グローバル検索と置換ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>(SiteScope の選択ページ) > [タイプの選択] ページ > サブタイプの選択ページ > 置換モードページ > 変更の入力ページ > 影響を受けるオブジェクトページ > ([影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス) > サマリの確認ページ > サマリページ。</p>

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
	列タイトルの上矢印と下矢印をクリックして、列の並べ替え順序を変更します。 標準設定値： [完全名] カラムは、昇順のアルファベット順です。
完全名	値が置換されるサーバ名、グループ、モニタ名、モニタのプロパティのツリーを表示します。
< プロパティ >	置換操作の結果変更された [変更の入力] ページで選択したボックス名。
以前の値	グローバル置換操作で置換された値。
新規値	グローバル置換操作の結果となる新しい値。
	印刷： テーブルを印刷するときにクリックする。サマリの各テーブルにこのアイコンが表示されます。
適用	ウィザードを閉じます。

第 II 部

SAM レポート

8

SAM レポート

本章の内容

概念

- ▶ SAM のレポートの概要 (268 ページ)
- ▶ SAM レポートを使った作業 (269 ページ)
- ▶ 経過時間ごとの SiteScope のレポート (271 ページ)
- ▶ クロス・パフォーマンス・レポートのスケールについて (273 ページ)
- ▶ グループのパフォーマンス・レポートについて (274 ページ)

タスク

- ▶ モニタ・パフォーマンス・レポートの作成方法 (275 ページ)
- ▶ クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法 (277 ページ)
- ▶ クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法 (278 ページ)
- ▶ カスタム・レポートへの SAM レポートの追加方法 (279 ページ)

参照情報

- ▶ SAM のレガシ・レポート (281 ページ)
- ▶ SAM レポートのユーザ・インタフェース (281 ページ)
- ▶ トラブルシューティングおよび制限事項 (321 ページ)

概念

SAM のレポートの概要

SAM アプリケーションを使用すると、SiteScope データ・コレクタによって収集されて BSM データベースに格納された、パフォーマンス・データに基づくレポートを参照、分析できます。

さらに、SiteScope 統合モニタを使用して、エンタープライズ・マネジメント・システム (BMC Patrol, Tivoli, Concord, NetIQ など) で収集したデータを BSM に統合し、SAM レポートでデータを参照できます。

SAM では、SiteScope で収集したデータを利用して、次のことが実施できます。

- ▶ 企業のインフラストラクチャ全体にわたるシステム可用性を、中央管理されたリアルタイムのビューに表示することで監視する。
- ▶ 多数の詳細レベルのシステム・メトリックスを表示するのではなく、アプリケーション・レベルでのシステム管理ビュー・データにビジネス上の視点を導入する。
- ▶ 外部のアプリケーションまたはソフトウェアから収集されたイベントや、SiteScope イベントに関する情報を参照する。

注:

- ▶ SAM レポートには、SAM アプリケーションの [アプリケーション] メニューからアクセスします。
- ▶ BSM レポートの操作の詳細については、『Reports』の「Working in Reports」を参照してください。
- ▶ ダウンタイム情報は、SAM のレポートには含まれません。

本項の内容

- ▶ 269 ページ「レポートのアクセスと権限」
- ▶ 269 ページ「データの集計」

レポートのアクセスと権限

特定のユーザがレポート・データを利用できるかどうかは、そのユーザに許可されているプロファイルのアクセス権限によって決まります。さらに、グループ権限のフィルタを使用すると、プロファイル内の特定のデータへのアクセスもフィルタできます。権限の許可の詳細については、『Platform Administration』の「Permissions Overview」を参照してください。グループ権限のフィルタ定義の詳細については、『Platform Administration』の「System Availability Management」を参照してください。

データの集計

BSM では、データの処理および管理を効率化し、レポート生成の速度とパフォーマンスを向上させるために、データの集計機能を利用します。BSM でのデータ集計の詳細については、『Reports』の「Data Aggregation」を参照してください。

SAM レポートを使った作業

SAM レポートは、サーバによるリソースの使用傾向を識別するために役立つことに加えて、アプリケーションのパフォーマンス問題の一因になる可能性がある、ボトルネックやその他のサーバ関連の問題の特定にも使用できます。レポート・データを継続的に監視して、サーバ・パフォーマンス低下の識別や、サーバ・パフォーマンスに問題を引き起こす可能性のある開発傾向の特定が可能です。

また、アプリケーションにパフォーマンスの問題があることがわかった場合（たとえば、エンド・ユーザ管理レポートの分析後や、警告の受信後）、SAM レポートを使用することで、その問題の根本的な原因となっているインフラストラクチャ・マシン関連の問題を特定または除外できます。パフォーマンスに問題が発生したのと同じ期間の、インフラストラクチャ・マシンのリソースの使用状況データを分析することにより、1 つ以上のインフラストラクチャ・マシンのリソースの測定値が、その期間の通常のパフォーマンスしきい値の範囲を超えているかどうかを評価できます。

本項の内容

- ▶ 270 ページ「レポート生成時間の短縮」
- ▶ 270 ページ「レポートに使用される長いラベル」

レポート生成時間の短縮

注：このセクションは、HP Software-as-a-Service をご利用のお客様には該当しません。

SAM レポートを生成する際のパフォーマンスを最適化するには、データベース管理者がデータベースに対して統計情報の更新手順を定期的実施することをお勧めします。更新の頻度は、監視対象のアプリケーションによって生成されるデータの量によって異なります。

▶ Microsoft SQL Server ユーザ：

- ▶ 小規模の場合は、3 ～ 4 日ごとに 1 度の割合で更新する。
- ▶ 中規模の場合は、毎日更新する。
- ▶ 大規模の場合は、4 時間ごとに更新する。

Microsoft SQL Server のメンテナンスの詳細については、『HP Business Service Management Database Guide』(PDF) の「Maintaining Microsoft SQL Server Databases」を参照してください。

▶ Oracle Server ユーザ：

データベースのサイズに応じてすべてのテーブルを分析する。

Oracle でのパフォーマンスの最適化の詳細については、『HP Business Service Management Database Guide』(PDF) の「Collecting Statistics for Databases」を参照してください。

レポートに使用される長いラベル

システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。これにより、ラベルの終端から中央への省略記号の移動が可能になります。

この機能を有効にするには、次のプロパティを <BSM のルート・ディレクトリ> **¥AppServer¥webapps¥site.war¥WEB-INF¥rfw¥conf¥applications¥sam-presentation.xml** ファイルに追加します。

```
<property key="stringBreakFormattingPolicyStr" value="Break_Middle"/>
<property key="stringBreakCutLocation" value="2" />
```

経過時間ごとの SiteScope のレポート

経過時間ごとの SiteScope のレポートは、BSM の SAM アプリケーションに表示される独立したレポートです。経過時間ごとの SiteScope のレポートは、SiteScope データ・コレクタによって収集されて BSM データベースに格納された、インフラストラクチャ・マシンに関連するデータを参照、分析するために使用します。このデータをトランザクション・パフォーマンスの問題（トランザクションの応答時間の遅延やトランザクションの失敗など）と併せて相互参照すると、アプリケーションのパフォーマンスの問題の根本原因を特定できます。

経過時間ごとの SiteScope のレポートの内容は、SAM 管理で定義した SiteScope モニタおよび測定値の種類によって異なります。

BSM ユーザは、SAM レポートに表示されるデータを制御するために、グループ権限のフィルタを使用できます。これにより、特定のユーザと関係がないと見られるデータをフィルタで除外できるため、レポートの管理性が高まり、レポート生成時間が短縮されます。詳細については、『Platform Administration』の「System Availability Management」を参照してください。

注：

- ▶ レポート生成の詳細については、『Reports』の「Working in Reports」を参照してください。
 - ▶ 特定の SAM レポートをカスタム・レポートに追加できます。タスクの詳細については、279 ページ「カスタム・レポートへの SAM レポートの追加方法」を参照してください。
 - ▶ SiteScope データ・コレクタによって収集されたデータは、トレンド・レポートで参照することもできます。トレンド・レポートを使用すると、異なるデータ・ソースに由来する複数の測定値を同一のグラフ上で比較できます。詳細については、『Reports』の「Trend Report Wizard」を参照してください。
 - ▶ 夏時間に伴う変更（時刻を進める、または遅らせる）の間、システム可用性データの正確性に影響が出ることを避けるため、時間変更の期間中は、ダウンタイムを定義するか、イベントをスケジュール設定することをお勧めします。ダウンタイムおよびイベントのスケジュールの詳細については、『Platform Administration』の「Downtime Management」を参照してください。
 - ▶ SiteScope に多数の測定値が含まれる場合は、レポートの生成に数分かかる可能性があります。
-

次の SAM レポートを利用できます (レポート名をクリックするとレポートの詳細に移動します)。

レポート	詳細
モニタ・パフォーマンス・レポート	多数の SiteScope カテゴリの中から、パフォーマンスが最も高いまたは最も低い SiteScope モニタを表示します。
クロス・パフォーマンス・レポート	1 つ以上の SiteScope サーバからのデータを、監視対象のサーバ、モニタ・タイプ、測定値でフィルタして表示します。
グループのパフォーマンス・レポート	選択したグループとそのサブグループに含まれるモニタの、インフラストラクチャ・マシンのリソースの使用状況データを表示します。
ステータス・サマリ・レポート	監視対象のインフラストラクチャ・マシンのパフォーマンスのスナップショットを、SiteScope グループごとに表示します。
警告サマリ・レポート	選択したグループとそのサブグループに含まれるモニタのうち、選択した期間中の測定値が軽微しきい値レベルの範囲に含まれるモニタのリストを表示します。
エラー・サマリ・レポート	選択したグループとそのサブグループに含まれるモニタのうち、選択した期間中の測定値が致命的しきい値レベルの範囲に含まれるモニタのリストを表示します。

クロス・パフォーマンス・レポートのスケールについて

クロス・パフォーマンス・レポートの測定値は、正規化されたスケールを使用した y 軸に表示されます。標準設定では、各測定値の倍率が BSM で自動的に設定されます。たとえば、幅広い範囲に渡るデータ値を持つ複数の測定値を参照しやすくする場合に、必要に応じて [選択されている測定値] テーブルの測定値の倍率を手動で変更できます。詳細については、278 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法」を参照してください。

倍率を手動で変更する場合、BSM では、スケール・リストから選択した値で実際の値を除算することによって、測定値が算出されます。つまり、倍率の設定が 0.1 の場合、値 100 は y 軸に 1000 として表示されます。倍率の設定が 10 の場合は、値 100 は y 軸に 10 として表示されます。

クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更

通常、クロス・パフォーマンス・レポートは、y 軸の最も低い値がゼロで、最も高い値がデータの最高値になるようにスケール変更されます。

レポートのスケールは、測定値に合った範囲になるように変更できます。たとえば、CPU 使用率の測定では、y 軸の範囲が 0 ~ 100 になるようにレポートのスケールを変更します。

クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更の詳細については、278 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法」を参照してください。

グループのパフォーマンス・レポートについて

グループのパフォーマンス・レポートとそのサブレポートを作成すると、サーバ・パフォーマンスを示すデータを表示でき、アプリケーションのパフォーマンスに問題を引き起こす可能性がある傾向の特定に役立ちます。また、トランザクションの遅延や失敗の原因が、サーバ・リソースのボトルネックなのか、またはその他のインフラストラクチャ・マシン関連の問題なのかを分析できます。

[グループのパフォーマンス] テーブルは、レポートの最上位に表示されます。このテーブルには、各グループについての、色分けされた品質レベル、サブグループ数、含まれる測定値の数が表示されます。品質レベルのインジケータで、定義されたグループ内の各モニタのパフォーマンス状況を確認できます。

グループのパフォーマンス・レポートには、次のサブレポートが含まれます。

- ▶ **SiteScope のパフォーマンス・レポート** : SiteScope のパフォーマンス・サブレポートでは、指定したグループについて SiteScope が収集した、選択した時間範囲の測定値がリストに表示されます。指定したグループにサブグループがある場合は、ページの最上部に表示されます。詳細については、294 ページ「SiteScope パフォーマンス・レポート」を参照してください。
- ▶ **経過時間ごとの SiteScope データ・レポート** : 経過時間ごとの SiteScope データ・レポートでは、選択した時間範囲の特定の測定値データが表示されます。このレポートは、単一の測定値について表示する、または複数の測定値について同時に表示できます。詳細については、298 ページ「経過時間ごとの SiteScope データ・レポート」を参照してください。

タスク

モニタ・パフォーマンス・レポートの作成方法

このタスクでは、モニタ・パフォーマンス・レポートの基にする条件の指定方法と、レポートの作成方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 275 ページ「モニタ・パフォーマンス・レポートへのアクセス」
- ▶ 275 ページ「SiteScope の選択」
- ▶ 276 ページ「レポートに含めるモニタの指定」
- ▶ 276 ページ「レポートの生成」

1 モニタ・パフォーマンス・レポートへのアクセス

モニタ・パフォーマンス・レポートにアクセスします。[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [モニタのパフォーマンス] を選択します。

2 SiteScope の選択

[プロファイル] をクリックして、レポートを表示する SiteScope を選択します。

3 レポートに含めるモニタの指定

- a [モニタ タイトル] および [サーバ名] ボックスに、カスタム・レポート・データが基にするモニタ (SiteScope に定義したタイトルで) およびサーバを指定します。

BSM ですべての値に基づいてレポートを作成するように指定するには、ボックスを空欄のままにします。

必要に応じて、アスタリスクのワイルドカード文字 (*) を使用し、BSM でのレポート作成がすべての値のサブセットに基づくように指定できます。たとえば、SiteScope のすべての CPU モニタに対し、cpu_ <サーバ名> という命名規則を使用して名前を付けている場合、BSM のカスタム・レポートにすべての CPU モニタを含めるには、「cpu*」と指定します。

注: この文字列の最初の文字にアスタリスクのワイルドカード文字 (*) を使用すると、データベースのクエリを行う際に BSM でインデックス・テーブルが利用できなくなるため、レポートの生成に時間がかかります。

- b [モニタ タイプ] リストから、レポート・データの基にするモニタを選択します。すべてのモニタに基づいてレポートを作成するには、[すべてのタイプ] を選択します。
- c パフォーマンスが最も高いモニタか最も低いモニタのどちらを BSM で表示するかを指定し、レポートに表示するモニタ数を選択します。

4 レポートの生成

[生成] をクリックしてレポートを作成します。ユーザ・インタフェースの詳細については、282 ページ「モニタ・パフォーマンス・レポート」を参照してください。

クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法

このタスクでは、クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 277 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートへのアクセス」
- ▶ 277 ページ「時間範囲と精度の選択」
- ▶ 278 ページ「監視用測定値の選択」
- ▶ 278 ページ「レポートのスケール情報の設定」
- ▶ 278 ページ「レポートの生成と書式設定」

1 クロス・パフォーマンス・レポートへのアクセス

クロス・パフォーマンス・レポートにアクセスします。[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [クロス パフォーマンス] を選択します。

2 時間範囲と精度の選択

レポートを実行する期間と精度を選択します。時間範囲と精度のバーを使用するタスクの詳細については、『Reports』の「How to Run Reports」を参照してください。

注: 特定のレポートでは、選択した時間範囲が x 軸に表示されます。SAM では、時間範囲はセグメント別にブレイクダウンされます。このセグメントは、選択した時間範囲によって異なります。

3 監視用測定値の選択

[Select Measurements] リンクをクリックして、クロス・プラットフォーム・レポートで監視する測定値を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、290 ページ「[Select Measurements] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

4 レポートのスケール情報の設定

必要に応じて、スケール情報を [目盛: 最小] および [最大] ボックスに入力します。タスクの詳細については、278 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法」を参照してください。

5 レポートの生成と書式設定

[生成] をクリックしてレポートを作成します。ページのフィルタ領域が閉じ、レポートが開きます。

作成したレポートは、印刷、電子メールによる送信、CSV または PDF 形式での表示が行えます。ユーザ・インターフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法

このタスクでは、クロス・パフォーマンス・レポートの y 軸のスケールを変更する方法について説明します。

- 1 クロス・パフォーマンス・レポート・ページの [Select Measurements] リンクをクリックして、[Select Measurements] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 2 [目盛: 最小] および [最大] ボックスに、最小値、最大値、またはその両方の値を指定します。

カスタム・レポートへの SAM レポートの追加方法

次に、SAM レポートをカスタム・レポートにレポート・マネージャから追加するときの手順について説明します。レポート・マネージャから、SAM レポートをカスタム・レポートに追加できます。詳細については、『Reports』の「Custom Report Wizard」を参照してください。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 279 ページ「カスタム・レポートへのモニタ・パフォーマンス・レポートの追加」
- ▶ 279 ページ「カスタム・レポートへの経過時間ごとの SiteScope データ・レポートの追加」
- ▶ 280 ページ「カスタム・レポートへの SiteScope グループ・パフォーマンス・レポートの追加」
- ▶ 280 ページ「カスタム・レポートへの全体的パフォーマンス・レポートの追加」

カスタム・レポートへのモニタ・パフォーマンス・レポートの追加

- 1 [アプリケーション] > [ユーザ レポート] > [レポート マネージャ] を選択します。
- 2 レポート・マネージャで [新規作成] をクリックして、[カスタム レポートの新規作成] を選択します。
- 3 [レポート コンポーネント] ページで [新規コンポーネントの追加] をクリックします。
- 4 [コンポーネント カテゴリの選択] 表示枠で、[システム可用性管理] > [SiteScope モニタのパフォーマンス] を選択します。

カスタム・レポートへの経過時間ごとの SiteScope データ・レポートの追加

- 1 [アプリケーション] > [ユーザ レポート] > [レポート マネージャ] を選択します。
- 2 レポート・マネージャで [新規作成] をクリックして、[カスタム レポートの新規作成] を選択します。
- 3 [レポート コンポーネント] ページで [新規コンポーネントの追加] をクリックします。
- 4 [コンポーネント カテゴリの選択] 表示枠で、[システム可用性管理] > [SiteScope レポート] を選択します。
- 5 [コンポーネントの選択] 表示枠の [種類] リストから、[経過時間ごとの SiteScope データ] を選択します。

カスタム・レポートへの SiteScope グループ・パフォーマンス・レポートの追加

- 1 [アプリケーション] > [ユーザ レポート] > [レポート マネージャ] を選択します。
- 2 レポート・マネージャで [新規作成] をクリックして、[カスタム レポートの新規作成] を選択します。
- 3 [レポート コンポーネント] ページで [新規コンポーネントの追加] をクリックします。
- 4 [コンポーネント カテゴリの選択] 表示枠で、[システム可用性管理] > [SiteScope レポート] を選択します。
- 5 [コンポーネントの選択] 表示枠の [種類] リストから、[SiteScope プロファイル・サマリ] を選択します。

カスタム・レポートへの全体的パフォーマンス・レポートの追加

- 1 [アプリケーション] > [ユーザ レポート] > [レポート マネージャ] を選択します。
- 2 レポート・マネージャで [新規作成] をクリックして、[カスタム レポートの新規作成] を選択します。
- 3 [レポート コンポーネント] ページで [新規コンポーネントの追加] をクリックします。
- 4 [コンポーネント カテゴリの選択] 表示枠で、[システム可用性管理] > [SiteScope レポート] を選択します。
- 5 [コンポーネントの選択] 表示枠の [種類] リストから、[経過時間ごとの SiteScope データ] を選択します。

参照情報

SAM のレガシ・レポート

次に示すのは SAM のレガシ・レポートです。これらのレポートでは、『Reports』の「Common Report and Page Elements」の一覧にあるレポート機能の一部がサポートされていません。

- ▶ モニタ・パフォーマンス・レポート
- ▶ グループのパフォーマンス・レポート
- ▶ ステータス・サマリ・レポート
- ▶ 警告サマリ・レポート
- ▶ エラー・サマリ・レポート

SAM レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 282 ページのモニタ・パフォーマンス・レポート
- ▶ 286 ページのクロス・パフォーマンス・レポート
- ▶ 292 ページのグループのパフォーマンス・レポート
- ▶ 294 ページの SiteScope パフォーマンス・レポート
- ▶ 298 ページの経過時間ごとの SiteScope データ・レポート
- ▶ 301 ページのステータス・サマリ・レポート
- ▶ 304 ページの SiteScope 稼動時間サマリ・レポート
- ▶ 306 ページの警告サマリ・レポート
- ▶ 309 ページの SiteScope 警告詳細レポート
- ▶ 313 ページのエラー・サマリ・レポート
- ▶ 316 ページの SiteScope エラー詳細レポート
- ▶ 319 ページの全体的パフォーマンス・レポート

🔗 モニタ・パフォーマンス・レポート

このレポートでは、モニタ・タイプ、監視対象のサーバ、またはモニタ・タイトルなどのさまざまな SiteScope カテゴリの中から、パフォーマンスが最も高いまたは最も低い SiteScope モニタが表示されます。モニタ・パフォーマンス・レポートは、複数の SiteScope プロファイル用に作成できます。

モニタ・パフォーマンス・レポートの例を次に示します。

モニタ タイトル	サーバ名	グループ	プロファイル名	経費	致命的	実行回数	品質
Ping: g11nm98	g11nm98...corp.net	vm46	SIS11.1	0%	100%	1138	
Log Event Checker	g11nm46	Health	SIS11.1	0%	99.82%	569	
harddisk	16.186.77.2	Health	SIS11.1	60.31%	26.4%	572	
BAC Integration Configuration	g11nm46	Health	SIS11.1	0%	0%	4	
BAC Integration Statistics	g11nm46	Health	SIS11.1	0%	0%	3412	

※モ レポートは日ごとの集計データを使用しています

アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [モニタのパフォーマンス] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ レポート内の各モニタは品質別に並べ替えられます。この品質の値は、SiteScope で設定した測定値のしきい値の範囲を基準とし、指定した時間範囲のモニタについて返される測定値を考慮に含めた式から算出されます。 使用される式：$1 - ((0.35 * W + 0.5 * E) / (G + W + E))$。ここで、G、W、および E は、選択した時間範囲に発生した測定値の数を示し、その値が OK、警告、およびエラーの各しきい値の範囲に含まれるものです。この式は、0.5 から 1 の値 (0.5 と 1 を含む) を返します。モニタのパフォーマンスが良いほど、値は 1 に近くなります。たとえば、25% のエラーと 75% の OK の値を持つモニタは、100% 警告の値を持つモニタよりも品質が高いものとして表示されます。 ▶ レポート内のすべてのデータは、集計データに基づいています。モニタ・パフォーマンス・レポートでは、未処理データは使用されません。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。 ▶ モニタ・パフォーマンス・レポートで [SiteScope] リンクをクリックしても、SiteScope データは表示されません。 ▶ 『Reports』の「Common Report and Page Elements」に一覧表示されているレポート機能の一部は、このレポートではサポートされていません。
関連タスク	275 ページ「モニタ・パフォーマンス・レポートの作成方法」
関連情報	271 ページ「経過時間ごとの SiteScope のレポート」

本項の内容

- ▶ 284 ページ「レポート設定」
- ▶ 285 ページ「レポートの内容」
- ▶ 286 ページ「レポートの色分け」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。 注： 共通のレポート設定の一部は、このレポートではサポートされません。
モニタ・タイトル	カスタム・レポート・データが基にするモニタを指定します（SiteScope に定義されているモニタのタイトルを使用）。
モニタ・タイプ	レポート・データが基にするモニタを選択します。すべてのモニタに基づいてレポートを作成するには、 [すべてのタイプ] を選択します。
サーバ名	カスタム・レポート・データが基にするサーバを選択します。
<数およびパフォーマンス・レベル>モニタ	パフォーマンスが最も高いモニタか最も低いモニタのどちらかを BSM で表示するかを指定し、レポートに表示するモニタ数を選択します。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
致命的	致命的レベルのしきい値ステータスを返す測定値インスタンスの割合。
グループ	モニタが定義されたグループまたはサブグループ。選択したエントリ上にマウス・ポインタを置くと、表示されているグループまたはサブグループからルート・グループまでのパスが表示されます。グループまたはサブグループ名をクリックすると、SiteScope のグループの管理ページが開きます。
軽微	軽微レベルのしきい値ステータスを返す測定値インスタンスの割合。
モニタ・タイトル	SiteScope モニタのタイトル。エントリの上にマウス・ポインタを置くと、ツールチップに完全なモニタ・タイトルが表示されます。
プロフィール名	モニタが定義されている SiteScope プロファイルの名前。
品質	品質を色分けして表現したもの。色の上にマウス・ポインタを置くと、バーの各色のセクションが占める正確な割合がツールチップに表示されます。 表示される色については、286 ページ「レポートの色分け」を参照してください。
サーバ名	監視対象のサーバの名前。選択したエントリの上にマウス・ポインタを置くと、ツールチップに完全なサーバ名が表示されます。
合計実行数	選択した時間範囲に SiteScope で実行された測定値インスタンスの合計数。

レポートの色分け

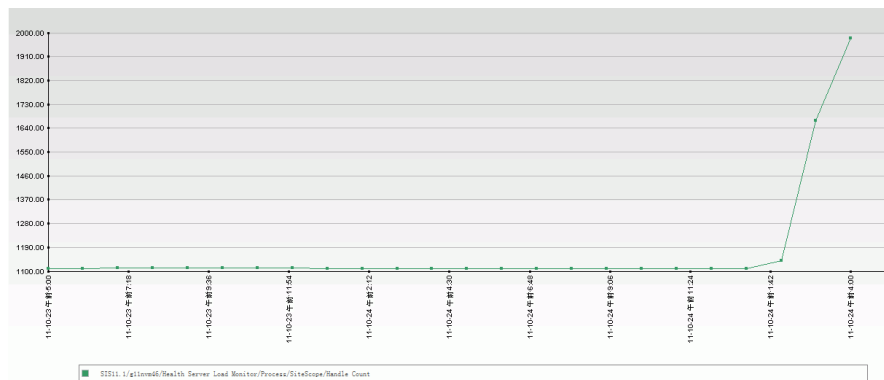
SAM レポートでは、パフォーマンス・レベルを色分けして表示する際に、次の色が使用されます。

色	詳細
緑	すべての測定値が OK しきい値の範囲に含まれる場合。
黄	少なくとも 1 つの測定値が軽微しきい値の範囲に含まれ、致命的しきい値の範囲に含まれる測定値がない場合。
赤	少なくとも 1 つの測定値が致命的しきい値の範囲に含まれる場合。
灰色	測定値データがレポートされていない場合。

クロス・パフォーマンス・レポート

このレポートでは、1 つ以上の SiteScope サーバからのデータが、監視対象のサーバ、モニタ・タイプ、測定値でフィルタされて表示されます。

クロス・パフォーマンス・レポートの例を次に示します。



アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [クロス パフォーマンス] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 該当するタブをクリックして、クロス・パフォーマンス・レポートの表示方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ グラフ表示 ▶ テーブル表示 ▶ 測定値別のデータを個別のグラフに表示するか、すべての測定値のデータを 1 つのグラフに表示するかを選択できます。詳細については、290 ページ「[Select Measurements] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。
関連タスク	277 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法」
関連情報	321 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」

本項の内容

- ▶ 288 ページ「レポート設定」
- ▶ 288 ページ「レポートの内容 - グラフ表示の場合」
- ▶ 289 ページ「レポートの内容 - テーブル表示の場合」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。
Select Measurements	[Select Measurements] ダイアログ・ボックスが開き、レポートに含めるデータをフィルタできます。詳細については、290 ページ「[Select Measurements] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 注： 測定値を少なくとも 1 つ選択しないと、レポートは作成できません。

レポートの内容 - グラフ表示の場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<データ・ポイント>	次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ グラフ上の以前の時点から、データ値または測定頻度に加えられた変更。 ▶ データ値または測定頻度への最後の変更から 1 時間経過した時点。
<グラフの線>	指定した測定値の特定の時刻の値。直線は次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ グラフ上の以前の時点から、受信データの値が変更されていない。 ▶ グラフ上の以前の時点から、受信データが測定される頻度に変更されていない。 注： グラフ上の線の切れ目は、特定の期間にデータが取得されなかったことを示します。

UI 要素	詳細
< x 軸 >	監視対象の測定値の日時が表示されます。 注: 選択した時間範囲に応じて、SAM では未処理データまたは集計データのいずれかを使用してレポートが生成されます。テキスト「 注: レポートは集計データを使用しています 」が、集計データを使用する場合に表示されます。SAM で集計データが使用される場合の基準の詳細については、『Reports』の「Data Aggregation」を参照してください。
< y 軸 >	[Select Measurements] ダイアログ・ボックスで [モニタータイプでフィルタ] または [モニタータイトルでフィルタ] のどちらを選択したかに応じて、測定値と、モニター・タイプまたはモニター・タイトルが表示されます。

レポートの内容 - テーブル表示の場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。


UI 要素	詳細
<日付>	測定値データの日時。 注: 選択した時間範囲に応じて、SAM では未処理データまたは集計データのいずれかを使用してレポートが生成されます。「 注: レポートは集計データを使用しています 」が、集計データを使用する場合にレポートに表示されます。SAM で集計データが使用される場合の基準の詳細については、『Reports』の「Data Aggregation」を参照してください。
<値>	特定の測定値。
測定値名	実行されているサーバを含む測定値の名前。 ツールチップ: 測定値名のフル・パスが表示されます。

[Select Measurements] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、クロス・プラットフォーム・レポートに含めるデータをフィルタできます。

アクセス方法	クロス・プラットフォーム・レポートのページで [Select Measurements] リンクをクリックします。
重要な情報	選択した測定値に、同一のターゲット・サーバを持つ複数のグループやプロファイルからのデータがある場合、そのデータはレポートでは平均値化されます。たとえば、2 つのグループを含む SiteScope プロファイルが 2 つあり、これらのグループのうち 3 つで同じサーバを監視するために Ping モニタがセットアップされているとします。両方のプロファイルと往復時間の測定値を選択した場合、両方のプロファイル内の 3 つのグループから収集されたすべての往復時間データは、レポートでは平均値として表示されます。
関連タスク	277 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートの作成方法」
関連情報	321 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
	[以下を含む] ボックスに入力した文字列を名前を含む要素が、すべて表示されます。
以下を含む	必要に応じて、選択した列の要素をフィルタするための基準となる文字列を入力します。
自動サイズ調整を無効にする	レポートの倍率の自動スケール変更が無効になります。レポートのスケール変更の詳細については、273 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートのスケールについて」を参照してください。
モニタ・タイトルでフィルタ	レポートに追加するコンポーネントを選択する際に、モニタ・タイトルが表示されます。 例 : myserver, CPU finance_server

UI 要素	詳細
モニタ・タイプでフィルタ	<p>レポートに追加するコンポーネントを選択する際に、モニタ・タイプが表示されます。</p> <p>例: Ping, CPU</p>
測定値ごとのグラフ	<p>測定値ごとに別のグラフが表示されます。グラフの凡例には、測定値を実行中のサーバが表示されます。</p> <p>選択解除すると、各測定値に<サーバ名>が付加されたタイトルが付いた、1 つの新しいグラフが作成されます。</p> <p>標準設定値: 選択済み</p>
測定値	<p>1 つ以上の測定値を選択します。リストには、選択したプロファイル、サーバ、モニタ・タイプに関連付けられている測定値が、アルファベット順に表示されます。</p>
モニタ・タイプ / モニタ・タイトル	<p>[モニタタイプでフィルタ] または [モニタタイトルでフィルタ] を選択したかどうかに応じて、選択したプロファイルやサーバに関連付けられたモニタ・タイプやモニタ名がアルファベット順で表示されます。1 つ以上のモニタを選択します。</p>
プロファイル	<p>レポートに含める SiteScope プロファイルを 1 つ以上選択します。</p> <p>注: 選択したプロファイル数は、[生成] をクリックすると計算されます。プロファイルは 10 個まで選択できます。この数値が制限を超えると、エラー・メッセージが表示されます。</p>
目盛	<p>必要に応じて、[最小] および [最大] ボックスに対応する値を入力して、レポートの y 軸のスケールを変更します。詳細については、278 ページ「クロス・パフォーマンス・レポートのスケール変更方法」を参照してください。</p> <p>注: モニタのデータ値がグラフの最小または最大設定値よりも大きい小さい場合は、データ・ポイントがグラフの境界の外側に表示されます。</p>
サーバ	<p>1 つ以上のサーバを選択します。選択したプロファイルに関連する監視対象のサーバすべてが、アルファベット順に表示されます。</p>

🔗 グループのパフォーマンス・レポート

このレポートでは、選択したグループとそのサブグループ内のモニタについて収集された、インフラストラクチャ・マシンのリソースの使用状況データが表示されます。このレポートを使用すると、サーバ・パフォーマンスを示すデータを表示でき、アプリケーションのパフォーマンスに問題を引き起こす可能性がある傾向の特定に役立ちます。

グループのパフォーマンス・レポートの例を次に示します。

グループ名	サブグループの数	測定値の数		データなし
 EMS	0	6		OK
 AutoSanityDeployedTe... 2008/06/03 06:26:10	3	0		軽微
 AutoSanity Integrati... 2008/06/03 06:28:32	1	0		致命的
 AutoSanity Integrati... 2008/06/03 06:43:07	1	0		
 Health	0	0		
 AutoSanity	1	0		
 AutoSanity 2008/06/03 06:24:21	1	0		

アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [グループのパフォーマンス] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループのパフォーマンス・レポートには、次のサブレポートが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SiteScope パフォーマンス・レポート ▶ 経過時間ごとの SiteScope データ・レポート ▶ グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope パフォーマンス・レポートを開きます。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。 ▶ 『Reports』の「Common Report and Page Elements」に一覧表示されているレポート機能の一部は、このレポートではサポートされていません。
関連情報	<p>294 ページ「SiteScope パフォーマンス・レポート」</p> <p>298 ページ「経過時間ごとの SiteScope データ・レポート」</p>

本項の内容

- ▶ 293 ページ「レポート設定」
- ▶ 293 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。 注： 共通のレポート設定の一部は、このレポートではサポートされません。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ： グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope パフォーマンス・レポートを開きます。SiteScope パフォーマンス・レポートの詳細については、294 ページ「SiteScope パフォーマンス・レポート」を参照してください。 ツールチップ： グループの完全な名前が表示されます。








UI 要素	詳細
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

SiteScope パフォーマンス・レポート

このレポートでは、指定したグループについて SiteScope が収集した測定値のうち、選択した時間範囲の値が一覧表示されます。

SiteScope パフォーマンス・レポートの例を次に示します。

次のグループの SiteScope の測定値: vmlc

モータイトル	測定値名	ホスト名	平均値	致命的なエラー/合計	
<input type="checkbox"/> 	Fing: glInw98	%_packets_good	glInw98 as...hqccorp.net	0.0	569 / 569
<input type="checkbox"/> 	Fing: glInw98	round trip time	glInw98 as...hqccorp.net	-	569 / 569
<input type="checkbox"/> 	CPU	utilization	glInw46	0.691	0 / 583
<input type="checkbox"/> 	CPU	utilization_cpu #1	glInw46	0.785	0 / 0
<input type="checkbox"/> 	CPU	utilization_cpu #2	glInw46	0.629	0 / 0
<input type="checkbox"/> 	disk space	percent_full	glInw46	70.0	0 / 420
<input type="checkbox"/> 	disk space	BE_free	glInw46	12078.66	0 / 0

メモ: レポートは時間ごとの集計データを使用しています
生産

アクセス方法	[グループのパフォーマンス] テーブルの [グループ名] フィールドに表示されるエントリをクリックします。
重要な情報	<p>SiteScope パフォーマンス・レポートは、次のセクションに分かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 次のグループのサブグループ: <グループ名>: このセクションに表示される要素は、グループのパフォーマンス・レポートのメイン・ページに表示される要素と同じです。 ▶ 次のグループの SiteScope の測定値: <グループ名>: 指定したグループについて収集された測定値が表示されます。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用する、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 295 ページ「レポート設定」
- ▶ 296 ページ「レポートの内容 - [次のグループのサブグループ: <グループ名>] テーブルの場合」
- ▶ 297 ページ「レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の測定値: <グループ名> の表」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。
生成	<p>選択した測定値の経過時間ごとの SiteScope データ・レポートが生成されます。</p> <p>注: このボタンは、SiteScope パフォーマンス・レポートの下に配置されており、有効化されたチェック・ボックスが [次のグループの SiteScope の測定値: <グループ名>] セクションにある場合にのみ有効になります。</p>

レポートの内容 - [次のグループのサブグループ: <グループ名>] テーブルの場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの測定値の SiteScope パフォーマンス・レポートを開きます。詳細については、297 ページ「レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の測定値: <グループ名> の表」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の測定値 : <グループ名> の表

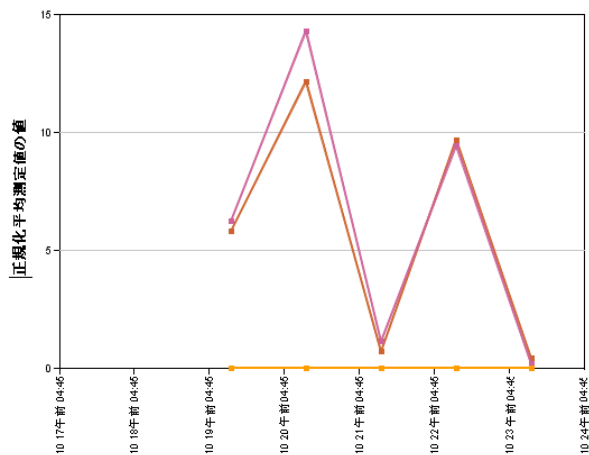
ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<チェック・ボックス>	<p>チェック・ボックスが有効な場合は、経過時間ごとの SiteScope データ・レポートに参照可能なモニタ・データがあることを示しています。このデータを参照するには、データを参照する測定値に対応するチェック・ボックスを選択して、[生成] をクリックします。</p> <p>経過時間ごとの SiteScope データ・レポートの詳細については、298 ページ「経過時間ごとの SiteScope データ・レポート」を参照してください。</p>
<品質レベルのインジケータ>	<p>測定値のしきい値の色分けされたアイコンが表示されます。SiteScope によってレポートされた測定値の平均が OK、警告、またはエラーのどの範囲に含まれるかを示します。システム可用性管理でモニタを設定する際に、測定値ごとに測定値のしきい値を定義します。詳細については、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』の「状態のしきい値の設定」を参照してください。</p>
平均値	<p>指定した期間中の、一覧表示された各測定値の平均値またはカウンタ。</p>
致命的なエラー / 合計	<p>定義された期間に計測された測定値の合計のうち、測定値データの収集中に発生した致命的エラーの数。リンクをクリックすると、致命的エラーのメッセージ・リストが表示されます。エラーが発生した場合にのみ、BSM でリンクが表示されます。</p>
ホスト名	<p>SiteScope ホスト・マシンの名前。</p>
測定値名	<p>測定値の名前。選択した時間範囲に測定値データがある場合は、測定値名がリンクで表示されます。測定値のリンクをクリックすると、経過時間ごとの SiteScope データ・レポートが開きます。経過時間ごとの SiteScope データ・レポートの詳細については、298 ページ「経過時間ごとの SiteScope データ・レポート」を参照してください。</p>
モニタ・タイトル	<p>モニタのタイトル。</p>

経過時間ごとの SiteScope データ ・ レポート

このレポートでは、選択した時間範囲の特定の測定値データが表示されます。

経過時間ごとの SiteScope データ ・ レポートの例を次に示します。



アクセス方法	<p>SiteScope パフォーマンス・レポートから、次のアクションのいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ データを参照する測定値に対応するチェック・ボックスを選択して、[生成] をクリックする。▶ [測定値名] 列の測定値のリンクをクリックする。この列には、選択した時間範囲に測定値データが存在する場合にのみリンクが表示されます。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">▶ このレポートは、単一の測定値について表示する、または複数の測定値について同時に表示できます。▶ 経過時間ごとの SiteScope データ・レポートを、カスタム・レポートに追加できます。詳細については、『Reports』の「Custom Report Wizard」を参照してください。▶ 該当するタブをクリックして、レポートをグラフまたはテーブルのいずれかの形式で表示します。テーブル形式で表示する場合、テーブルでは正規化された値ではなく実際の測定値が表示されます。▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 300 ページ「レポート設定」
- ▶ 300 ページ「レポートの内容 - グラフ表示の場合」
- ▶ 301 ページ「レポートの内容 - テーブル表示の場合」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<書式設定ボタン>	該当するボタンをクリックすると、レポートの印刷、電子メールによる送信、CSV または PDF 形式での表示が行えます。ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

レポートの内容 - グラフ表示の場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
<色分けの凡例>	グラフ内の測定値を色で識別します。
<データ・ポイント>	ツールチップ : 測定値の元の値を含む、測定値の詳細が表示されます。
<x 軸>	監視対象の測定値の日時が表示されます。
<y 軸>	監視対象の測定値の、0 ~ 100 の正規化されたスケールが表示されます。BSM では、元の y 軸の値を結合後の y 軸の値に変換するために、次の式を使用します。 [元の y 軸の値] x [スケールの値] = 結合後のグラフの y 軸の値
テーブル表示	経過時間ごとの SiteScope データ・レポートが、テーブル形式で表示されます。

レポートの内容 - テーブル表示の場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<日付>	選択した測定値のデータ出力の日付。
<モニタ・タイトルおよび測定値名>	ツールチップ : エントリの上にマウス・ポインタを置くと、測定されるモニタのタイトルと特定の測定値の名前が表示されます。 この要素は、テーブルの左側に配置されます。
<時間>	選択した測定値のデータ出力の時間。
<値>	指定した時間の測定値。
グラフ表示	経過時間ごとの SiteScope データ・レポートが、グラフ形式で表示されます。

ステータス・サマリ・レポート

このレポートでは、監視対象のインフラストラクチャ・マシンのパフォーマンスのスナップショットが、SiteScope グループ別に編成されて表示されます。ステータス・サマリ・レポートとそのサブレポートを作成すると、定義済みの SiteScope グループとそこに定義されたモニタのパフォーマンスに関する概要を確認できます。

ステータス・サマリ・レポートの例を次に示します。

グループ名	サブグループの数	測定値の数	
 EMS	0	6	 データなし
 AutoSanityDeployedTe... 2008/06/03 06:26:10	3	0	 OK
 AutoSanity_Integrati... 2008/06/03 06:28:32	1	0	 軽微
 AutoSanity_Integrati... 2008/06/03 06:43:07	1	0	 致命的
 Health	0	0	
 AutoSanity	1	0	
 AutoSanity 2008/06/03 06:24:21	1	0	

<p>アクセス方法</p>	<p>[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [ステータス サマリ] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。 ▶ 『Reports』の「Common Report and Page Elements」に一覧表示されているレポート機能の一部は、このレポートではサポートされていません。

本項の内容

- ▶ 302 ページ「レポート設定」
- ▶ 303 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

<p>UI 要素</p>	<p>詳細</p>
<p><共通のレポート設定></p>	<p>ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。</p> <p>注： 共通のレポート設定の一部は、このレポートではサポートされません。</p>

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope 稼働時間サマリ・レポートを開きます。SiteScope 稼働時間サマリ・レポートの詳細については、304 ページ「SiteScope 稼働時間サマリ・レポート」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

SiteScope 稼働時間サマリ・レポート

このレポートでは、選択した時間範囲の [OK], [軽微], [致命的] の情報が、グループ内のモニタごとに表示されます。SiteScope 稼働時間サマリ・レポートでは、特定のモニタの全体的なパフォーマンス傾向を判別できます。

SiteScope 稼働時間サマリ・レポートの例を次に示します。

次のグループの SiteScope ステータス: vm46

モニタタイトル	稼働時間 %	警告 %	エラー %
CPU	100.0	0.0	0.0
Ping: gl10m98	0.0	0.0	100.0
disk space	100.0	0.0	0.0

メモ: レポートは時間ごとの集計データを使用しています

アクセス方法	ステータス・サマリ・レポートで、グループ名をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定したグループにサブグループがある場合は、ページの最上部に表示されます。サブグループをクリックすると、SiteScope 稼働時間の詳細のサブレポートが表示されます。 ▶ このレポートは、PDF 形式では開けません。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 305 ページ「レポート設定」
- ▶ 305 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
致命的エラーの %	値が [致命的] しきい値レベルの範囲に含まれる測定値インスタンスの割合。
軽微エラーの %	値が [軽微] しきい値レベルの範囲に含まれる測定値インスタンスの割合。
モニタ・タイトル	測定されるモニタのタイトル。
OK の %	正常に完了した測定値インスタンスの割合。

警告サマリ・レポート

このレポートでは、選択したグループとそのサブグループに含まれるモニタのうち、選択した期間中の測定値が軽微しきい値レベルの範囲内であるモニタのリストが表示されます。警告サマリ・レポートとそのサブレポートを作成すると、選択した期間中の測定値が軽微しきい値レベルの範囲内である SiteScope グループを識別できます。

警告サマリ・レポートの例を次に示します。

	グループ名	サブグループの数	測定値の数
	Examples	4	0
	Group1	1	60

アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [警告サマリ] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。 ▶ 『Reports』の「Common Report and Page Elements」に一覧表示されているレポート機能の一部は、このレポートではサポートされていません。

本項の内容

- ▶ 307 ページ「レポート設定」
- ▶ 308 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。 注： 共通のレポート設定の一部は、このレポートではサポートされません。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope 警告詳細レポートを開きます。SiteScope 警告詳細レポートの詳細については、309 ページ「SiteScope 警告詳細レポート」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

SiteScope 警告詳細レポート

このレポートでは、選択した時間範囲に含まれる、グループ内の各モニタのそれぞれの測定値インスタンスの細かいステータス情報が表示されます。

SiteScope 警告詳細レポートの例を次に示します。

時刻	モニタタイプ	測定値名	ステータス
11-10-24 午後 4:16	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午後 3:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午後 2:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午後 1:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午後 12:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午前 11:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午前 10:46	harddisk	percent full	96.0
11-10-24 午前 9:56	harddisk	percent full	96.0

アクセス方法	警告サマリ・レポートで、グループ名をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SAM では、SiteScope 警告詳細レポートには未処理データのみが表示されます。集計データは使用されません。このため、ページ・マネージャを使用して未処理の履歴データがプロファイル・データベースから削除された場合は、データが削除された期間の SiteScope 警告詳細レポートのデータは参照できません。 ▶ このレポートは、PDF 形式では開けません。

本項の内容

- ▶ 310 ページ「レポート設定」
- ▶ 311 ページ「レポートの内容 - 次のグループのサブグループ: <グループ名> の表」
- ▶ 312 ページ「レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の警告測定値: <グループ名> の表」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

レポートの内容 - 次のグループのサブグループ: <グループ名> の表

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope 警告詳細レポートを開き、グループの測定値を参照します。詳細については、SiteScope パフォーマンス・レポートの 312 ページ「レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の警告測定値: <グループ名> の表」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

レポートの内容 - 次のグループの SiteScope の警告測定値 : < グループ名 > の表

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
測定値名	しきい値が [軽微] レベルの範囲に含まれる測定値インスタンス。
モニタ・タイトル	測定値が関連付けられているモニタ。
ステータス	測定値の値。
時刻	測定値インスタンスの日時。

エラー・サマリ・レポート

このレポートでは、選択したグループとそのサブグループに含まれるモニタのうち、選択した期間中の測定値が致命的しきい値レベルの範囲に含まれるモニタのリストが表示されます。エラー・サマリ・レポートとそのサブレポートを作成すると、選択した期間中の測定値が致命的しきい値レベルの範囲内である SiteScope グループを識別できます。

エラー・サマリ・レポートの例を次に示します。

グループ名	サブグループの数	測定値の数		データなし
 EMS	0	6		OK
 AutoSanityDeployedTe... 2008/06/03 06:26:10	3	0		軽微
 AutoSanity Integrati... 2008/06/03 06:28:32	1	0		致命的
 AutoSanity Integrati... 2008/06/03 06:43:07	1	0		
 Health	0	0		
 AutoSanity	1	0		
 AutoSanity 2008/06/03 06:24:21	1	0		

アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [経過時間ごとの SiteScope のレポート] > [エラー サマリ] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ レポートには、色分けされた品質レベル、サブグループ数、含まれる測定値の数が、選択したプロファイルの SiteScope グループごとに表示されます。品質レベルのインジケータで、定義された SiteScope グループ内の各モニタのパフォーマンス状況の概要を把握できます。 ▶ システム可用性管理レポートの長いラベルで使用される、省略記号 ("...") を表示する場所を制御できます。詳細については、270 ページ「レポートに使用される長いラベル」を参照してください。 ▶ 『Reports』の「Common Report and Page Elements」に一覧表示されているレポート機能の一部は、このレポートではサポートされていません。

本項の内容

- ▶ 314 ページ「レポート設定」
- ▶ 315 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。 注： 共通のレポート設定の一部は、このレポートではサポートされません。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループの SiteScope エラー詳細レポートを開きます。SiteScope エラー詳細レポートの詳細については、316 ページ「SiteScope エラー詳細レポート」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

SiteScope エラー詳細レポート

このレポートでは、選択した時間範囲に含まれる、グループ内の各モニタのそれぞれの測定値インスタンスのエラー・ステータス情報が表示されます。

SiteScope エラー詳細レポートの例を次に示します。

時刻	モニタ タイプ	測定値名	ステータス
11-10-24 午後 4:09	Ping: gl1nvw98	% packets good	0.0
11-10-24 午後 4:09	Ping: gl1nvw98	round trip time	failed
11-10-24 午後 3:09	Ping: gl1nvw98	% packets good	0.0
11-10-24 午後 3:09	Ping: gl1nvw98	round trip time	failed
11-10-24 午後 2:09	Ping: gl1nvw98	% packets good	0.0
11-10-24 午後 2:09	Ping: gl1nvw98	round trip time	failed
11-10-24 午後 1:09	Ping: gl1nvw98	% packets good	0.0
11-10-24 午後 1:09	Ping: gl1nvw98	round trip time	failed

アクセス方法	エラー・サマリ・レポートで、グループ名をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SAM では、SiteScope エラー詳細レポートには未処理データのみが表示されます。集計データは使用されません。このため、ページ・マネージャを使用して未処理の履歴データがプロファイル・データベースから削除された場合は、データが削除された期間の SiteScope エラー詳細レポートのデータは参照できません。 ▶ このレポートは、PDF 形式では開けません。

本項の内容

- ▶ 317 ページ「レポート設定」
- ▶ 318 ページ「レポートの内容 - [次のグループのサブグループ: <グループ名>] テーブルの場合」
- ▶ 318 ページ「レポートの内容 - 次のグループでの SiteScope エラー発生測定値: <グループ名> の表」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

レポートの内容 - [次のグループのサブグループ: <グループ名>] テーブルの場合

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<品質レベルのインジケータ>	定義されたグループ内のモニタのパフォーマンス状況を確認できる、色分けされたアイコン。 ツールチップ: グループの品質レベルと致命的エラーの数が表示されます。
<品質レベルの凡例>	[グループのパフォーマンス] テーブル内の色分けされたアイコンの各色が表す品質レベルを示します。
グループ名	SiteScope モニタ・グループの名前。グループ名をクリックして、指定したグループ測定値の SiteScope エラー詳細レポートを開きます。詳細については、318 ページ「レポートの内容 - 次のグループでの SiteScope エラー発生測定値: <グループ名> の表」を参照してください。 ツールチップ: グループの完全な名前が表示されます。
測定値の数	指定したグループに含まれる測定値の数。
サブグループの数	指定したグループに含まれるサブグループの数。

レポートの内容 - 次のグループでの SiteScope エラー発生測定値: <グループ名> の表

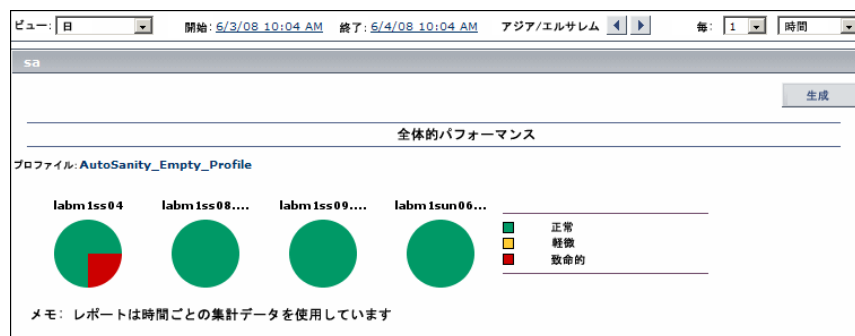
ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。


UI 要素	詳細
測定値名	しきい値が [エラー] レベルの範囲に含まれる測定値インスタンス。
モニタ・タイトル	測定値が関連付けられているモニタ。
ステータス	SiteScope によってレポートされたエラー情報。
時刻	測定値インスタンスの日時。

全体的パフォーマンス・レポート

このレポートでは、選択した SiteScope プロファイルに含まれる、監視対象のインフラストラクチャ・マシンのパフォーマンスのスナップショットが表示されます。

全体的パフォーマンス・レポートの例を次に示します。



<p>アクセス方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [アプリケーション] > [ユーザ レポート] > [レポート・マネージャ] を選択します。 2 レポート・マネージャで [新規作成] をクリックして、[カスタム レポートの新規作成] を選択します。 3 [レポート コンポーネント] ページで [新規コンポーネントの追加] をクリックします。 4 [コンポーネント カテゴリの選択] 表示枠で、[システム 可用性管理] > [SiteScope レポート] を選択します。 5 [コンポーネントの選択] 表示枠の [種類] リストから、[全体的パフォーマンス] を選択します。 <p>既存の全体的パフォーマンス・レポートにアクセスするには: レポート・マネージャで該当するカスタム・レポートを選択して、[表示]  ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>このレポートは、カスタム・レポートでのみ利用可能で、SAM インタフェースでは参照できません。</p>
<p>関連情報</p>	<p>『Reports』の「Configure Custom Reports Using Report Manager」</p>

本項の内容

- ▶ 320 ページ「レポート設定」
- ▶ 320 ページ「レポートの内容」

レポート設定

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<色分けの凡例>	グラフ内の測定値のステータスを色で識別します。
<円グラフ>	SiteScope で監視しているインフラストラクチャの各要素のパフォーマンスを表します。 ツールチップ: グラフの各セグメントの正確な数値と測定値の割合が表示されます。
プロフィール	監視対象のプロファイル。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、SAM レポートのトラブルシューティングおよび制限事項について説明します。

問題：

モニタ名に特殊文字が含まれていると、[Select Measurements] ダイアログ・ボックスの [**モニタ タイトルでフィルタ**] オプションを使用してクロス・プラットフォーム・レポートを生成できない（「データが見つかりませんでした。」というメッセージが表示される）。

考えられる解決策：

- 1 BSM ゲートウェイ・サーバで、バックアップ目的で **<ゲートウェイ・サーバのルート・ディレクトリ> ¥Appserver¥webapps¥site.war¥WEB-INF¥web.xml** のコピーを作成します。
- 2 テキスト・エディタで **web.xml** ファイルを開き、**XSSEncoder** というフィルタ名を検索します。
- 3 このセクションで **excluded_params** を検索し、**selectedMonitorTypes** を **excluded_params** 値リストの最後に追加します（値はカンマで区切る必要があります）。
- 4 ファイルの変更を保存し、**MercuryAS** プロセスを再開します。

9

イベント・ログ

本章の内容

概念

- ▶ イベント・ログの概要 (324 ページ)

タスク

- ▶ イベント・ログの表示方法 (326 ページ)
- ▶ イベント・ログのカスタマイズ方法 (328 ページ)
- ▶ SiteScope 用の追加のフィルタの設定方法 (329 ページ)

参照情報

- ▶ イベント・ログのユーザ・インタフェース (330 ページ)

概念

イベント・ログの概要

SAM のイベント・ログには、SiteScope が収集したイベント（生成された警告、またはインフラストラクチャ内の一部の要素やシステムの状態の変化）のほか、エンタープライズ・マネジメント・システム（EMS）が SiteScope を使用して外部のアプリケーションやソフトウェアから収集したイベントが表示されます。

注：このイベント・ログは、BSM をご利用の場合のみ、お使いいただけます。

イベント・ログ・ページには、システムに送信されたイベントのログが表示されます。フィルタ（タイム・フレーム、データ・ソース、重大度、ターゲット名）を使用して、特定の情報を表示できます。SiteScope データ・ソースを選択すると、SiteScope プロファイル、グループ、モニタ・タイプなどのフィルタも選択できます。

このイベント・ログを使用することで、特定の問題のリアルタイムでの診断や、トレンド・レポートの作成が可能です。トレンド・レポートの作成の詳細については、『Reports』の「Trend Reports」を参照してください。

イベント・ログでは、経過時間ごとのイベント・データ、特定の時点で発生したイベント、特定のイベントの詳細、（可能であれば）イベントの履歴を確認できます。

イベント・タイプは、外部のアプリケーションまたはソフトウェアでのイベントの定義に従って収集されます。イベント・タイプは、警告やユーザ・ログインなどです。

イベント・ログを作成すると、イベントが発生した時刻を基に降順で、イベント・ログ・ページにイベントが表示されます。また、イベントを送信できる全データ・ソースに共通のカラムが表示されます。SiteScope データ・ソースのデータは、SiteScope プロファイル権限に従ってフィルタされます（詳細については、『Platform Administration』の「Permissions Overview」を参照してください）。

イベント・ログには、次のデータなど、すべてのデータ・ソースに共通のイベント・データが表示されます。

- ▶ イベントの重大度
- ▶ イベントが収集されたアプリケーションまたはソフトウェア
- ▶ イベントが発生した時刻
- ▶ イベント・ソースの階層
- ▶ イベントが発生したホストまたはデバイスの名前（または IP アドレス）
- ▶ イベントの状態またはタイプ
- ▶ 外部システムによるイベントの詳細

特定のタイム・フレーム、データ・ソース、重大度、ターゲット名を基に、イベントをフィルタできます。詳細については、326 ページ「イベント・ログの表示方法」を参照してください。

イベントにフィルタを適用したら、共通データにドリルダウンして、次の操作を実行できます。

- ▶ イベントが発生したデータ・ソース固有のデータの表示。このトピックの詳細については、335 ページ「イベント詳細ページ」を参照してください。
- ▶ 特定のイベントの履歴の表示。このトピックの詳細については、336 ページ「イベント履歴ページ」を参照してください。

タスク

イベント・ログの表示方法

このタスクでは、BSM に送信されるイベントのログを表示する方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 326 ページ「前提条件」
- ▶ 326 ページ「イベント・ログの期間の選択」
- ▶ 327 ページ「[アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックスでのフィルタの編集（任意）」
- ▶ 327 ページ「イベント・ログの形式設定（任意）」

1 前提条件

SiteScope が BSM システムのインフラストラクチャを監視するように設定されていることを確認します。[管理] > [システム可用性管理] を選択して、ホストされている SiteScope が<左側の表示枠>に表示されていることを確認します。各エントリをポイントして、表示されたツールチップの情報を参照します。

タスクの詳細については、73 ページ「SiteScope および BSM 間の統合の設定方法」を参照してください。

2 イベント・ログの期間の選択

[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [イベント ログ] を選択して、イベント・ログ・ページを表示します。[ビュー] のリストから、レポートに表示する情報を収集する期間を選択します。

タスクの詳細については、『Reports』の「How to Run Reports」を参照してください。

3 [アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックスでのフィルタの編集 (任意)

イベント・ログ・ページに表示されるイベントに適用するフィルタを編集するには、**[アクティブ フィルタ]** リンクをクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、334 ページ「[アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

4 イベント・ログの形式設定 (任意)

レポートを印刷，電子メールで送信，Excel または PDF 形式で開くための操作ボタンのいずれかをクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。

イベント・ログのカスタマイズ方法

このタスクでは、イベント・ログをカスタマイズする方法について説明します。

このタスクは、次の手順で構成されています。

- ▶ 328 ページ「1 ページに表示される最大行数の変更」
- ▶ 328 ページ「データ・ソースの履歴ビューの設定」

1 1 ページに表示される最大行数の変更


テーブルの 1 ページに表示されるイベントが多すぎる場合、ページに表示できる行数を変更できます。

この設定を変更するには、[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] を選択します。

- ▶ [アプリケーション] を選択します。
- ▶ [エンド ユーザ / システム可用性管理] を選択します。
- ▶ [Event Reports] テーブルで [Max Table Rows] を見つけます。必要とする、1 ページ当たりの行数に値を変更します。

2 データ・ソースの履歴ビューの設定

[インフラストラクチャ設定] にある関連パラメータを設定することで、選択したデータ・ソースの [履歴] ボタンを有効にできます。この設定を変更するには、[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] を選択します。

- ▶ [アプリケーション] を選択します。
- ▶ [エンド ユーザ / システム可用性管理] を選択します。
- ▶ [エンド ユーザ / システム可用性管理 - データ] テーブルで [イベント ログ レポート データ ソースの履歴] を見つけます。[値] ボックスで、[履歴]  ボタンを有効にするデータ・ソース名を追加してプロパティ値を設定します。データ・ソース名が複数になる場合は、カンマで区切ります。

この変更は、再起動後に有効になります。

SiteScope 用の追加のフィルタの設定方法

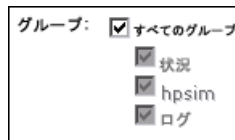
アクティブなフィルタで SiteScope データ・ソースを選択すると、SiteScope プロファイル、グループ、モニタ・タイプによってデータをフィルタできる追加のフィルタが自動的に利用可能になります。

SiteScope データ・ソース用の追加のフィルタを使用して作業するには、次の手順で行います。

- 1 [SiteScope フィルタ]をクリックし、[SiteScope フィルタ]ページを開きます。
- 2 [モニタ タイプ] のリストから、モニタのタイプを選択します。標準設定は [すべてのモニタ タイプ] です。
- 3 [プロファイル] のリストから、SiteScope プロファイルを選択します。標準設定は [すべてのプロファイル] です。プロファイルまたはグループ権限に関して、関心のあるイベントを表示するには、[プロファイル] のリストからいずれかのプロファイルを選択します。選択したプロファイルを利用できるグループのリストが表示されます。プロファイルまたはグループ権限の詳細については、『Platform Administration』の「Permissions Overview」を参照してください。

注： [すべてのプロファイル] を選択すると、プロファイルまたはグループ権限が、表示されているイベントに適用されません。

- 4 グループがある場合は、グループ・ツリー内の必要なグループを選択します。ツリー内のすべてのグループを選択する必要がある場合は、[すべてのグループ] を選択します。あるツリー CI の状態が変わると（選択から非選択の状態または非選択から選択の状態）、サブツリー全体の状態が変わります。



参照情報

🔗 イベント・ログのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 330 ページ [イベント ログ] ページ
- ▶ 334 ページ [アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックス
- ▶ 335 ページ イベント詳細ページ
- ▶ 336 ページ イベント履歴ページ

🔗 [イベント ログ] ページ

このページには、すべてのイベント・データ・ソースに共通のイベント・データが表示されます。[イベント ログ] には、SiteScope から収集されたイベントのほか、SiteScope を使用してエンタープライズ・マネジメント・システム (EMS) が外部のアプリケーションやソフトウェアから収集したイベントが表示されます。

[イベント ログ] の例を次に示します。



重大度	イベント ソース	時間	階層	ターゲット名	ステータス	詳細
✓	SiteScopeAlert	11/10/26 午後 2:54	10: __Health...ent Checker	g11nvm46	OPEN	Log Event C...curred.*=0
✓	SiteScopeAlert	11/10/26 午後 2:54	10: __Health...ent Checker	g11nvm46	OPEN	Log Event C...curred.*=0
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午後 4:22	10: HostMoni...16.186.77.2	16.186.77.2	OPEN	Ping 16.186.77.2: failed
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午後 4:22	10: HostMoni...16.186.77.2	16.186.77.2	OPEN	Ping 16.186.77.2: failed
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午後 4:18	10: __Health...harddisk	g11nvm111	OPEN	harddisk: no data
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午後 4:18	10: __Health...harddisk	g11nvm111	OPEN	harddisk: no data
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午後 4:18	10: __Health...harddisk	g11nvm111	OPEN	harddisk: no data
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午前 10:22	10: NTMonito...16.186.77.2	16.186.77.2	OPEN	Windows Res...main1 \user1
✗	SiteScopeAlert	11/10/25 午前 10:22	10: NTMonito...16.186.77.2	16.186.77.2	OPEN	Windows Res...main1 \user1

アクセス方法	[アプリケーション] > [システム可用性管理] > [イベントログ] を選択します。
重要な情報	指定したタイム・フレーム中に発生したイベントの数が、レポートに表示できるイベントの最大数を超えていた場合、このことを通知するメッセージが表示されます。イベント数を削減するには、より細かく時間の範囲を指定します。たとえば、この1週間のイベントを確認するには、各曜日を選択します。



レポート設定







ユーザ・インタフェース要素について次に説明します（ラベルのない要素は山括弧内に表示されます）。

UI 要素	詳細
<共通のレポート設定>	ユーザ・インタフェースの詳細については、『Reports』の「Common Report and Page Elements」を参照してください。
アクティブフィルタ	<p>イベント・ログ・コンポーネントに対してフィルタを設定し、最も必要とされる特定のイベントに絞り込むことができます。[アクティブフィルタ]の詳細については、334 ページ「[アクティブフィルタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>注: 特定の行の値をクリックすると、アクティブ・フィルタにその値を追加できます。</p>

レポートの内容

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
	イベント詳細: イベントの詳細データを表示できる [イベント詳細] ページを開く。詳細については、335 ページ「イベント詳細ページ」を参照してください。
	イベント履歴: イベントの履歴データを表示できる [イベント履歴] ページを開く。詳細については、336 ページ「イベント履歴ページ」を参照してください。

UI 要素	詳細
詳細	イベントの説明。説明のサイズが非常に長い場合、値は切り詰められますが、ツールチップに全文が表示されます。
イベント・ソース	イベントが収集されたアプリケーションまたはソフトウェア。イベント・ソースのリストについては、333 ページ「イベント・ソース」を参照してください。
階層	イベント・ソースを階層を使用して表現したもの。これには、イベントが収集されたアプリケーションまたはソフトウェアに応じて、イベントが発生した領域、サブ領域、またはインスタンスやイベントへのパスが含まれる場合があります。階層には、データ・ソースに応じて、2～4つの分岐があります。階層が非常に長い場合、このフィールドには切り詰められた文字列が表示されますが、ツールチップに完全な階層が表示されます。
重大度	<p>イベントの重大度を示す色付きのアイコン。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  不明 ▶  情報 ▶  注意域 ▶  警戒域 ▶  重要警戒域 ▶  致命的 <p>ツールチップ: イベントの重大度を表示します。</p>
ステータス	イベントの状態またはタイプ。階層が非常に長い場合、値は切り詰められますが、ツールチップには全階層が表示されます。
ターゲット名	イベントが発生したホストまたはデバイスの名前（またはIPアドレス）。
時刻	イベントが発生した時刻。標準設定では、このカラムを基準にする場合、データは降順で並べ替えられます。

イベント・ソース

イベントを収集できるアプリケーションやソフトウェアは次のとおりです。どれが使用されるかは、BSM にイベントを送った外部システムに応じて決まります。

- ▶ HP Operations Manager
- ▶ Remedy ARS
- ▶ SitescopeAlert
- ▶ SitescopeAlertStatusChange
- ▶ Tivoli TEC
- ▶ BMC Patrol
- ▶ CA Unicenter
- ▶ HP SIM
- ▶ Compaq Insight Manager
- ▶ Whatsup
- ▶ Compaq Insight Manager

[アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックス

イベント・ログ・コンポーネントに対してフィルタを設定し、最も必要とされる特定のイベントに的を絞ることができます。


アクセス方法	イベント・ログ・ページの [アクティブ フィルタ] リンクをクリックします。
---------------	---

[アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックスには、次のフィルタ・タブと領域があります。

UI 要素	詳細
イベント・ソース	<p>特定のデータ・ソースを基準に、イベント・ログに表示されるデータをフィルタできます。</p> <p>[イベント ソース] タブには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべて: [イベント ログ] ページに、すべてのイベント・ソースが表示されます。 ▶ <イベント・ソース名>: イベント・ログ・ページに、特定のイベント・ソースのみが表示されます。
重大度	<p>イベントの重大度を基準に、イベント・ログに表示されるデータをフィルタできます。</p>
ターゲット	<p>ターゲットの場所を基準に、イベント・ログに表示されるデータをフィルタできます。</p> <p>注: すべてのターゲットを表示するには、[ターゲット] フィールドにアスタリスク ("*") を入力します。</p>

イベント詳細ページ

このページには、特定のイベントについての詳細情報と、フィールドおよびイベント・データから得たこの欄の値が表示されます。



アクセス方法	イベント・ログ・ページで、情報を取得するイベントの隣にある [イベント詳細]  ボタンをクリックします。
重要な情報	表示される情報の種類は、データ・ソースによって決まります。すべてのイベントに表示されない要素もあります。
関連情報	330 ページ [イベント ログ] ページ

ユーザ・インタフェース要素について次に説明します。

UI 要素	詳細
確認済み	イベントを確認したオペレータ。
コレクタ ホストの IP アドレス	データを収集したコンピュータの IP アドレス。
コレクタのホスト名	データを収集したコンピュータの名前。
詳細	イベントの詳細。
イベント・ソース	このイベントが収集されたアプリケーションまたはソフトウェア。
グループ	イベント階層の追加の論理レベル。
当初の重大度	イベントの発生した時点での重大度。
重大度	イベントの重大度。
ステータス	イベントの状態またはタイプ。
ターゲット名	イベントが発生したホストまたはデバイスの名前。
時刻	イベントの時刻。
値	イベントと併せて送信された数値。

イベント履歴ページ

このページには、指定したイベントの異なる時点での詳細情報が表示されます。イベント履歴レポートを使用すると、イベントの状態を履歴で確認できます。

<p>アクセス方法</p>	<p>[イベントログ] ページで [イベント履歴]  ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>イベント履歴ページに表示される要素は、イベント・ログ・ページに表示される要素と同じです。ただし、[イベント履歴] ページでは、[イベント詳細]  ボタンが表示されないため、イベントの詳細レポートは表示できません。</p>
<p>関連情報</p>	<p>330 ページ [イベントログ] ページ</p>

索引

B

- BSM 統合プリファレンスの設定
制限事項とトラブルシューティング 91
- Business Service Management 58
 - SiteScope データの転送 59
 - SiteScope メトリックスのインジケータ
へのマッピング 63
 - ゲートウェイ・サーバの変更 77
 - システム可用性管理でのインジケータ
の管理 63

C

- CI
ダウンタイム 70

H

- HP Operations Agent 114
- HP Operations Agent のインストール 114
- HP Operations Agent を使用したイベント
統合 100
- HP Operations Agent を使用したメトリック
統合 109
- HP Software Web サイト 16
- HP ソフトウェア・サポート Web サイト 15

N

- Network Node Manager i
概要 148
- NNMi 統合
 - NNMi にレポートされる SiteScope メ
トリック 161
- NNMi の SNMP トラップ形式 158

O

- Operations Manager に送信するイベントの
設定 103
- Operations Manager の統合
 - SiteScope イベントの送信 100
 - SiteScope との統合 94
 - SiteScope メトリックスのレポート 109
 - SiteScope モニタ・ディスカバリ・ポリ
シーの有効化 125
 - SiteScope を使用してイベント
を送信 113
 - SiteScope を使用してメトリックスをレ
ポート 138
- UNIX/Linux 用の SiteScope にドリル
ダウン・ツールの有効化 135
- Windows 用の SiteScope にドリル
ダウン・ツールの有効化 132
- 警告イベントの設定 104
- 状態変更イベントの設定 103
に送信するイベントの設定 103
- メトリック名の整合 141, 145
- Operations Manager への SiteScope イベント
のレポート 100
- Operations Manager への SiteScope メトリッ
クスのレポート 109

S

- Siebel 用のモニタ・デプロイメント・ウィ
ザード 209
- SiteScope エラー・サマリ・レポート 313
- SiteScope エラー詳細レポート 316
- SiteScope ステータス・サマリ・レポート 301
- SiteScope データ
 - Business Service Management への
転送 59
- SiteScope の NNMi への SNMP

索引

- トラップ形式 158
- SiteScope のグループ・パフォーマンス・レポート 274
- SiteScope のクロス・パフォーマンス・レポート 286
 - 作成 277
 - スケール変更 273
 - 測定値の追加 290
 - 目盛 273
- [SiteScope の選択] ページ, グローバル検索と置換 249
- SiteScope の同期ウィザード
 - [ソースおよびターゲットの SiteScope の選択] ページ 44
- SiteScope のパフォーマンス・レポート 274
- SiteScope のモニタ・パフォーマンス・レポート 282
- SiteScope の全体的パフォーマンス・レポート カスタム・レポートでの 319
- SiteScope の登録 58
- SiteScope の統合
 - Business Service Management と 56
 - Network Node Manager i 148
- SiteScope の同期ウィザード 43
- SiteScope メトリックスのインジケータへの割り当て 63
- SiteScope モニタ
 - メトリックごとにトポロジをレポートするモニタ 89
 - 複数の CI を使用 89
- SiteScope レポート 292
 - 追加のフィルタを使った作業 329
 - グループ・フィルタ 326
 - プロファイル・フィルタ 326
 - モニタ・タイプ・フィルタ 326
- SiteScope 稼働時間の詳細レポート 304
- SiteScope 警告サマリ・レポート 306
- SiteScope 警告詳細レポート 309

U

- UNIX/Linux 用の SiteScope にドリルダウン・ツール (Operations Manager) 135

W

- Windows 用の SiteScope にドリルダウン・ツール (Operations Manager) 132

い

- イベント・ログ
 - [アクティブ フィルタ] ダイアログ・ボックス 334
 - イベント詳細を使った作業 335
 - イベント履歴を使った作業 336
 - レポートを使った作業 326
 - 共通のイベント・データの表示 330
 - 表示 323
- イベント・ログ, ユーザ・インタフェース 330
- インジケータ割り当て 165
- インジケータ割り当ての設定 184

え

- [影響を受けるオブジェクト] ページ, グローバル検索と置換 258
- [影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス, グローバル検索と置換 259
- エージェント
 - HP Operations Agent 114

お

- オンライン・リソース 15

か

- カスタム・レポート
 - SiteScope の全体的なパフォーマンス 319
 - におけるシステム
 - 可用性管理レポート 279
- 完全なモニタ監視と部分的なモニタ監視 207

き

- 技術情報 15

く

- グローバル検索と置換ウィザード 248
 - [SiteScope の選択] ページ 249
 - [影響を受けるオブジェクト] ページ 258
 - [影響を受けるオブジェクトをフィルタ] ダイアログ・ボックス 259
 - [サブタイプの選択] ページ 251
 - [サマリ] ページ 262
 - [詳細フィルタ] ダイアログ・ボックス 259
 - [タイプの選択] ページ 250
 - [置換モード] ページ 252
 - [変更の入力] ページ 253
 - [サマリの確認] ページ 260
- グローバル検索と置換 237
 - しきい値設定 239
 - 状態の条件の上書き 239

け

- 経過時間ごとの SiteScope データ・レポート 274
- 経過時間ごとの SiteScope のレポート 271
- 権限
 - システム可用性管理の SiteScope 69

さ

- [サブタイプの選択] ページ, グローバル検索と置換 251
- [サマリの確認] ページ, グローバル検索と置換 260
- [サマリ] ページ, グローバル検索と置換 262

し

- システム可用性管理 29
 - [新規 SiteScope] ページ 38
 - トラブルシューティング 50
 - [メトリクスとインジケータ] タブ 184
- システム可用性管理レポート
 - 概要 268
 - 経過時間ごとの SiteScope データ 274
 - 操作 269
 - 長いラベル内での省略記号の移動 270

システム可用性管理

- EMS ライセンス・ポイント 22
- SAM ライセンス・ポイント 22
- SiteScope の同期ウィザード 43
- インジケータ割り当ての設定 184
- 概要 20
- 権限モデル 69
- システム可用性管理レポート 267
 - SiteScope エラー・サマリ 313
 - SiteScope ステータス サマリ 301
 - SiteScope のグループ・パフォーマンス 274
 - SiteScope のクロス・パフォーマンス 286
 - 測定値の追加 290
 - SiteScope のモニタ・パフォーマンス 282
 - SiteScope パフォーマンス 274
 - SiteScope 稼働時間の詳細 304
 - SiteScope 警告サマリ 306
 - カスタム・レポートでの 279
 - ユーザ・インタフェース 281
 - レポート生成時間の短縮 270
- 集計 269
 - [詳細フィルタ] ダイアログ・ボックス, グローバル検索と置換 259
 - [新規 SiteScope] ページ
 - システム可用性管理 38
 - [新規モニタ] ダイアログ・ボックス 189
 - [新規割り当て] または [割り当ての編集] ダイアログ・ボックス 190

た

- [タイプの選択] ページ, グローバル検索と置換 250
- ダウンタイム, CI 70

ち

- [置換モード] ページ, グローバル検索と置換 252

て

- データの集計 269

索引

と

- トポロジ・データ
 - SiteScope から Business Service Management 59
- トラブルシューティング
 - システム可用性管理 50
- トラブルシューティングと技術情報 15

ふ

- フィルタ
 - イベント・ログ 326

へ

- [変更の入力] ページ,
 - グローバル検索と置換 253
- 変数 204

め

- [メトリクスとインジケータ] タブ 184
- メトリック名の整合 141, 145

も

- [モニタ インジケータの割り当てのインポート] ウィザード 195
- [モニタのインジケータの割り当てのエクспорт] ダイアログ・ボックス 199
- [モニタの選択] ダイアログ・ボックス 187
- モニタ・ディスカバリ・ポリシー,
 - 有効化 125
- モニタ・デプロイメント・ウィザード 204
 - templates 204
 - カテゴリ 217
 - テンプレート・リファレンス 217
 - 概要 166, 202
- モニタ・デプロイメント・ウィザードを使用したモニタのデプロイ 210

ら

- ライセンス・ポイント
 - EMS 22
 - SAM 22

れ

- レポート
 - SiteScope 稼動時間の詳細 304
 - SiteScope 警告サマリ 306
 - SiteScope エラーの詳細 316
 - SiteScope エラー・サマリ 313
 - SiteScope ステータス サマリ 301
 - SiteScope のグループ・
 - パフォーマンス 274
 - SiteScope のクロス・
 - パフォーマンス 286
 - 測定値の追加 290
 - SiteScope のモニタ・
 - パフォーマンス 282
 - SiteScope の全体的な
 - パフォーマンス 319
 - SiteScope パフォーマンス 274
 - アクセスと権限 269
 - グループのパフォーマンス・
 - レポート 292
 - システム可用性管理 267
 - 経過時間ごとの SiteScope 271
 - 経過時間ごとの SiteScope データ 274
 - 色分け 286